

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア経済と環境	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉 錫畢	2年	メールで簡略に書いて、研究室に来ること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	急速なアジアの経済成長は、環境問題も急速に現れている。しかし、環境問題は一国だけの問題で留まることではない。この講義では、経済が急成長している東アジア、特に日本、韓国、台湾、中国、シンガポール、香港を中心に、経済成長の背景を見た上で、どのような環境問題に直面しているのか。アジアの環境問題を、日本の経験から考えながら、資料やビデオ、写真等を通して考察する。	日本の公害経験よりアジア諸国の環境と経済問題を考える。
到達目標	環境及び経済問題に対して日本の経験からアジアを理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1週目：アジアの経済成長	世界中のアジアの位置づけを調べる
	2	2週目：アジアの環境問題	アジアの環境経済の事例を調べる
	3	3週目：中国の社会変化と経済状況	中国について関心ある事情に予習
	4	4週目：中国のエネルギー状況	中国について関心ある事情に予習
	5	5週目：中国の経済成長と産業公害（大気汚染及び水質汚染）	中国の経済について予習
	6	6週目：中国の経済成長と環境問題（環境政策を中心に）	中国の環境問題について調べる
	7	7週目：日本の経済成長と環境問題	水俣病について予習
8	8週目：台湾の経済成長と環境問題	中国と台湾の経済と環境問題予習	
9	9週目：韓国の経済成長と環境問題1	韓国について関心ある事情を予習	
10	10週目：韓国の経済成長と環境問題2	環境の経済について予習	
11	11週目：シンガポールの経済成長と環境問題	シンガポールについて予習	
12	12週目：香港の経済成長と環境問題	香港について予習	
13	13週目：経済成長におけるアジアの環境問題1	日本の公害からみるアジアを検討1	
14	14週目：経済成長におけるアジアの環境問題2	日本の公害からみるアジアを検討2	
15	15週目：COP21（パリ協定）とアジアの経済・環境	アジアとパリ協定について予習	
16	16週目：期末テスト	総括	
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義資料を配布する。そして、講義内容と関連する文献をそのつど紹介する。 ①井出亜夫編（2004）、『アジアのエネルギー・環境と経済発展』、慶応義塾大学出版社。②『井上 真(編集)、 『アジア環境白書』、東洋経済新報社。		
	学びの手立て アジアの環境問題に関する本やビデオを通してレポートを作成する。		
	評価 期末試験（50％）、レポート（40％）、出欠（10％）。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 地球環境問題をアジアの経験より考える。
-------	------------------------------------

※ポリシーとの関連性

実社会において、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献できる人材になるべく、インターンシップで体験的に学ぶ。

[/]

科目基本情報	科目名 インターンシップ I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 LC 教員 1	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。	メッセージ 事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。
	到達目標 ①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可
	2	各学科担当教員による面接および学内選考
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル
	8	事前ガイダンス5 情報収集スキル
	9	事前ガイダンス6 企業と社会の関係性
	10	事前ガイダンス7 インターンシップ体験談発表
	11	事前ガイダンス8 インターンシップガイダンス総集編
	12	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成
	15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	
	時間外学習の内容	
	面接資料作成（申込手続き後）	
	面接担当者へ面接日の事前確認	
	実習先に関する情報収集	
	ガイダンスの振り返り	
	ガイダンスの振り返り	
	実習先へ電話によるご挨拶	
	実習先業界の情報収集（新聞）	
	ガイダンスの振り返り	
	ガイダンスの振り返り	
	ガイダンスの振り返り	
	ガイダンスの振り返り	
	実習と報告会に向けて準備	
	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り	
	ガイダンス内容を元に報告書作成	
	学科実習生全員で報告会運営準備	
	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て
【応募資格】①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的にこなせる者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者
【注意事項】①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータルの「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価
【出席について】出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への欠席を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】**①実習先による学生評価調査20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について確認）20%

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

※ポリシーとの関連性

実社会において、環境に配慮しながら地域経済の発展に貢献できる人材になるべく、インターンシップで体験的に学ぶ。

[/]

科目基本情報	科目名 インターンシップⅡ	期別	曜日・時限	単位
	担当者 LC 教員1	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄国際大学インターンシップは各学科の専門教育科目として、県内の企業や公官庁で実施しています。その目的は学生が実社会での体験学修を通して、大学教育では得難い実践的知識と技能の習得、社会人としての適性を見定め、職業観を養うことにあります。参加にあたっては、社会人基礎力を大学生活での取り組みに置き換え、全プログラムを通して意識的に実行することが求められます。	メッセージ 事前ガイダンスではインターンシップに必要な心構えやビジネスマナー、社会人に必要なスキル等を学ぶことで、安心して実習に参加できます。さらに、事後ガイダンスや報告会の参加、報告書作成を通して、自らの学びを言語化することで「働く価値観」をより明確にします。本プログラムを通して、働くとはどういうことか具体的に考える経験にしませんか。
	到達目標 ①社会人としてのマナーを修得する。 ②職業観を養い、自らの適性を見定める。 ③組織の構造と機能を理解する。 ④企業・組織の基本理念と将来ビジョンの理解に努め、効率的な組織の仕組みを考える。 ⑤組織における自らの役割を理解した上で、思考し行動する力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1回オリエンテーション（募集説明会） ※欠席不可	面接資料作成（申込手続き後）
	2	各学科担当教員による面接および学内選考	面接担当者へ面接日の事前確認
	3	第2回オリエンテーション（実習生の顔合わせ、リーダー決定、今後の説明等） ※欠席不可	実習先に関する情報収集
	4	事前ガイダンス1 インターンシップの意義・目的	ガイダンスの振り返り
	5	事前ガイダンス2 ビジネススキル①	ガイダンスの振り返り
	6	事前ガイダンス3 ビジネススキル②	実習先へ電話によるご挨拶
	7	事前ガイダンス4 社会人に求められるスキル	実習先業界の情報収集（新聞）
	8	事前ガイダンス5 情報収集スキル	ガイダンスの振り返り
	9	事前ガイダンス6 企業と社会の関係性	ガイダンスの振り返り
	10	事前ガイダンス7 インターンシップ体験談発表	ガイダンスの振り返り
	11	事前ガイダンス8 インターンシップガイダンス総集編	ガイダンスの振り返り
	12	第3回オリエンテーション（実習前後の注意事項、学科報告会の実行委員決定等） ※欠席不可	実習と報告会に向けて準備
	13	インターンシップ実習（夏期休業中の2or3週間） ※実習時間数により単位数が異なる	出勤簿・日報へ押印・記入し振返り
	14	事後ガイダンス1 インターンシップを通して考えるキャリア形成	ガイダンス内容を元に報告書作成
	15	事後ガイダンス2 学科報告会での担当別研修（発表者、司会、その他）	学科実習生全員で報告会運営準備
16	学科報告会（実習で得た学びを発表し、全体で共有する）	全体を通して学びの振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
 実習生へ実習録を配布しますので、ガイダンス時の記録や実習中の出勤簿・日報などを記載してください。それらの記録をもとに、最終的に報告書作成や報告会の準備を行ってください。
 また、ガイダンス時に資料を配布しますので、あとで振り返りできるように整理してください。

学びの手立て
【応募資格】①各学科で受講可能となっている年次の学生（履修ガイドの学科選択科目を各自で確認すること）
 ②連続して2週間または3週間のインターンシップを意欲的にこなせる者 ③第1回オリエンテーション（募集説明会）から報告会まで、年間スケジュールと内容を理解して意欲的に臨める者
【注意事項】①各学科担当教員による面接を受けること ②全3回のオリエンテーションに参加すること（欠席不可） ③事前・事後ガイダンスを受講すること（他講義と重ならないよう確認すること） ④報告会を運営・参加すること ⑤連絡事項は、沖国大ポータル「学内連絡」、メールアドレス（学籍番号）へ連絡するので見落としがないよう確認すること

評価
【出席について】出席は単位習得の前提条件ですので、各オリエンテーションやガイダンス、報告会への欠席を毎回確認します。アルバイト等による欠席は認められません。出席状況が著しく悪い場合は、実習取り消しや不可となります。**【評価方法・割合】**①実習先による学生評価調査20% ②インターンシップ実習録（各ガイダンスの記録や課題、勤務状況、日報などから学びの状況を確認）60% ③インターンシップ報告書（実習先に関する理解度、インターンシップを通して得られたこと等について）20%

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 本インターンシッププログラムを通して気づいた自身の強みはさらに伸ばし、足りないと感じた部分は残りの学生生活で改善できるように取り組んでほしい。
 また、得られた職業観は今後のキャリアを考える際に役立ててほしい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	エコビジネス論	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋伊津子9回、齋藤4回、砂川2回、山川1回	1年	itukoアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 環境問題を解決するための、ビジネスによるアプローチに興味・関心を持ち自発的にニュース等をチェックする習慣をつける。	メッセージ 現地見学や、実務家講師の招聘などにより、様々なエコビジネスの現在を伝えます。 【実務経験】を活かした授業を展開する。
	到達目標 エコビジネスに関するトピックスについて知る。 エコビジネスに関連する用語を理解する。 エコビジネスの最近の動向を知る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（島袋）4/10	シラバスをよく読む
	2	地球温暖化問題 IPCC レポートを読む（齋藤）4/17	授業で配布した資料の復習
	3	再生可能エネルギーの種類と原理（齋藤）4/24	〃
	4	再生可能エネルギー普及に関わる社会制度（齋藤）5/8	〃
	5	一般社団法人沖縄県環境・エネルギー研究開発機構代表理事小山聡宏氏による講演（齋藤）5/15	〃
	6	バイオミクリーについて（砂川）5/22	〃
	7	エコビジネスと法規制（砂川）5/29	〃
	8	環境調査会社の仕事内容と果たす役割（沖縄県環境科学センター職員による講演予定）（山川）6/5	〃
9	環境問題を金融的手法で解決するには？（島袋）6/12	〃	
10	中間試験（島袋）6/19	これまでの授業の復習	
11	学外での現地見学（島袋）6/26	現地ですらったメモをまとめる	
12	学外での現地見学（島袋）7/3	〃	
13	学外での現地見学（島袋）7/10	〃	
14	学外での現地見学（島袋）7/17	〃	
15	学外での現地見学（島袋）7/24	〃	
16	最終レポート提出（島袋）7/31	これまでの現地調査の復習	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。 参考文献・資料は適宜指導する。		
	学びの手立て 無断欠席はしないこと。やむを得ず欠席する場合は必ず事前にメールで連絡すること。特に現地調査を無断欠席した場合は、大幅減点とする。		
	評価 平常点（40%）＋中間テスト（20%）＋レポート（40%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「環境経営」「環境会計」「環境経済学Ⅰ・Ⅱ」
-------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	エネルギーと社会	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-玉栄 章宏	2年	電話:090-8412-1064	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	エネルギーに関する国内外の状況を把握すると共に、将来ますます深刻化してゆく地球環境の変化とエネルギーについて、多角度からその関連性を解説する。化石燃料から非化石燃料へ、さらには化石燃料の高度利用やクリーン化技術など、真に持続可能な社会を実現するための基本的な考え方を身につけ、国内のみならず、国際的にも対応できる種々の知識を習得することを目標とする。	国内外、県内のエネルギーに関する新聞、テレビ、ネット情報などを大いに参考にしてください。
到達目標	現代社会においてエネルギー政策は大変重要である。学んだことを学内で発表したり、新聞投稿などが出来ることを期待する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義説明、講師自己紹介	新聞資料に対しメールで質問下さい
	2	世界のエネルギー需要とエネルギー資源	同上
	3	太陽光発電①	同上
	4	太陽光発電②	同上
	5	風力発電①	同上
	6	風力発電②	同上
	7	水力・地熱発電	同上
8	バイオマスエネルギー	同上	
9	燃料電池システム（家庭用、自動車）	同上	
10	スマートハウス	同上	
11	ヒートポンプとその応用	同上	
12	エンジン発電システム・コージェネレーション	同上	
13	スマートグリッド	同上	
14	カーボン・オフセット	同上	
15	将来の低炭素型社会とエネルギー	同上	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。DVDや各種配布資料など（ファイルに綴じ、毎回持参する）。		
学びの手立て	授業でわからないことがあれば、積極的に質問してください。また、授業中はスマホで検索して学びに活かすとは大いに勧めます。但し、試験中はスマホの使用は禁止です。		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験によりに評価する。再試験は実施しない。 ・欠席日から2週間以上過ぎた欠席届は受け取らないので注意する。 ・以下の場合、単位は与えない ・3分の1以上の欠席（欠席理由は考慮しない）。 ・出席で代筆が明らかとなった場合、期末試験を受けなかった場合、試験で不正をした場合。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目 授業で学んだことを卒業論文に取り上げる場合や、受講後にもっと勉強したいこと等があれば、遠慮なく連絡ください。電話:090-8412-1064、e-mail:tamae-ak@amber.plala.or.jpです。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	齋藤 星耕	3年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	演習では、研究することを学ぶ。先行研究を読み解く力、研究計画を立てる力、研究を遂行する力、データを適切に解釈する力、科学的に議論できる力を養う。同時に、各人が具体的なテーマに協力して取り組みながら、自らの独自の研究課題に到達する。	三年次から始まる演習では研究する力を養います。研究とは、自らが新しい知識を生み出すということです。これは、「まだ分かっていないこと」を探り当てるところから始まります。現代でも、人類にはまだ分かっていないことだらけです。チームに分かれて課題に取り組みながら、研究の作法を学んでいきます。
到達目標	文献を読み解き、提示されているデータの意味を理解できる。文献の内容や、自分自身の研究成果をプレゼンテーション出来る。科学的な内容について討論することが出来る。適切な研究計画を立てることができる。計画に基づいて研究を実行できる。自ら取得したデータを分析でき、適切な結論を導ける。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p>2~16 生命科学、食品開発、再生可能エネルギーの社会実装の各課題に、校外研修先事業所の協力のもと、チームに分かれて取り組む： 校外研修先：1. 琉球大学分子生命科学研究施設 校外研修先：2. コルネとサンドのお店 Pippi / 宜野湾市観光振興協会 校外研修先：3. 一般社団法人沖縄県環境・エネルギー研究開発機構 「時間外学習の内容」：チームごとに課題に取り組む</p> <p>ゼミでは、輪番により、文献紹介、研究計画、研究発表を行う。 また、適宜、ゲスト講師を招いて特別講義を行う。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>ゼミでは、文献紹介、チームでの課題の計画・進捗の報告を行う。チームごとの課題を進めるには、ゼミの時間外での取り組みが必要である。各人の積極的な貢献を期待する。やむを得ない欠席や遅刻の場合は、教員に直接、事前に連絡すること。また研修先での活動においても、遅刻・欠席の場合には先方の受け入れ担当者の方に事前に連絡をとり、失礼のないようにすること。</p>
評価	出席状況、課題への取り組み、発表、レポートなどを総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習II, 演習III, 演習IV
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	3年	メールで問い合わせてください。 t.toguchi@ac.jp	

学びの準備	ねらい 社会に出るための準備を主目的に、輪読から地域経済の抱える問題を解決する知識や各自の問題意識を明確にし、フィールドワークを通して実問題を考える。	メッセージ 今まで学習した座学を基に実社会の問題を解決する方法を学ぶことで、実社会に役立つ知識を蓄えましょう。
	到達目標 ・ 輪読を通して知識を蓄え、知的好奇心を持つ。 ・ 調査方法の学習とデータの扱いについて学ぶ。 ・ 調査結果をまとめ、発表を行う。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業計画について説明	授業計画を確認する
	2	輪読1	配布資料を参照する
	3	輪読2	授業内容を復習する
	4	輪読3	授業内容を復習する
	5	輪読4	授業内容を復習する
	6	輪読5	授業内容を復習する
	7	輪読6	授業内容を復習する
	8	輪読7	授業内容を復習する
	9	輪読8	授業内容を復習する
	10	調査の説明1	配布資料を参照
	11	調査の説明2	授業内容を復習する
	12	調査の準備と調査票の作成1	配布資料を参照
	13	調査1	調査手順を確認する
	14	調査2	調査手順を確認する
	15	調査結果の考察1	調査結果を確認する
	16	調査結果の報告1	調査内容を確認する
	17	輪読9	授業内容を復習する
	18	輪読10	授業内容を復習する
	19	輪読11	授業内容を復習する
	20	輪読12	授業内容を復習する
	21	輪読13	授業内容を復習する
	22	輪読14	授業内容を復習する
	23	輪読15	授業内容を復習する
	24	調査の説明3	配布資料を参照
	25	調査の準備と調査票の作成2	配布資料を参照
	26	調査3	調査手順を確認する
	27	調査4	調査手順を確認する
	28	調査結果の考察	調査結果を確認する
	29	調査結果の発表2	調査内容を確認する
30	討論	調査内容を確認する	
31	総括	総括の復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適時，資料を用意して配布します。
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に輪読する本について図書館を利用することが望ましい。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠とレポート提出，発表内容で評価を行う。
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域経済学Ⅰ」や「地域経済学Ⅱ」の知識をフィールドワークを通して実証し，より専門的な分野を学習する。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅰ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 伊津子	3年	授業の前後に問い合わせてください。	

学びの準備	ねらい 受講者が主体的に学び、金融・経済に関して自らの意見を持ち、卒業論文のテーマ、方向性を設定することをねらいとする。	メッセージ ゼミは学生が作りあげるものだと思います。主体的に、積極的に取り組んで下さい。【実務経験】を活かした授業を展開する。
	到達目標 金融・経済に関してテーマを設定し、調査し、論文を作成できる。	

学びの準備	到達目標 金融・経済に関してテーマを設定し、調査し、論文を作成できる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1週 ガイダンス 第2週～第6週 FP3級程度の金融知識を学ぶ。 第7週 各人で興味のあるテーマについて報告する。 第8週～第9週 グループで論文テーマを設定する。 第10週～第14週 設定したテーマに関する先行研究をまとめる。 第15週～第16週 グループでゼミ論文の前半部分を完成させる。後期の作業の方向性を決定し、計画を立てる。中間報告。
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。参考文献・資料は適宜紹介する。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。参考文献・資料は適宜紹介する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て ・授業の時間外にも必要に応じて指導します。 ・やむをえない事情で遅刻・欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
	評価 ・平常点（50%）＋ 報告点（50%）

学びの実践	評価 ・平常点（50%）＋ 報告点（50%）
-------	---------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 「演習Ⅱ」、「演習Ⅲ」、「演習Ⅳ」
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉 錫畢	3年	研究室5508、メールでのアポを取ってくることに。	

学びの準備	ねらい 企画能力と討論の基本を身に付ける。	メッセージ 悩む力を鍛える。
	到達目標 自分の意思を相手にきちんと伝えて討論ができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1週目：ゼミと学問	「知の技法」を配る
	2	2週目：ゼミの進め方	「知の技法」を読む
	3	3週目：口頭発表の作法と技法	600字で自己紹介文を作成
	4	4週目：レジュメの作り方	レジュメの事例を読んでくる
	5	5週目：「15の春」の映画鑑賞	「15の春」の本を読む
	6	6週目：調査及びボランティア対象地域を選定	「15の春」の本を読む
	7	7週目：選定地域について勉強会	選定された地域の情報蒐集
	8	8週目：グループ別企画案検討	先方との連絡し情報蒐集
	9	9週目：グループ別企画案発表及び討論1	先方との連絡し情報蒐集
	10	10週目：グループ別企画案発表及び討論2	先方との連絡し情報蒐集
	11	11週目：グループ別企画案発表及び討論3	先方との連絡し情報蒐集
	12	12週目：グループ別企画案発表及び討論4	先方との連絡し情報蒐集
	13	13週目：グループ別企画案発表及び討論5	先方との連絡し情報蒐集
	14	14週目：選定された離島のボランティア活動確認1	企画案の作成をグループで確認
15	15週目：選定された離島のボランティア活動確認2	企画案の作成をグループで確認	
16	16週目：総括	役員と各班長と最終案をチェック	
	テキスト・参考文献・資料など 小林・船曳編（1994）『知の技法』、東京大学出版会。 沖縄タイムス南部総局（2013）『十五の春』、沖縄タイムス社。		
	学びの手立て 議論が成り立つようにする。		
	評価 演習参加への積極性、個人とグループでの議論内容・姿勢。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 企画の点検とディベート準備・演習 II
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	3年	研究室 5号館405研究室 hmaedomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。</p>	<p>沖縄経済に関する基本文献、論文、資料、データを収集し、調査研究の基本的な準備を行い、問題意識を醸成しましょう。</p>
	到達目標	
	<p>1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ゼミ運営基本方針の説明（ガイダンス）	参考文献、基本データの収集
	2	企業研究班、基地経済班、公共交通研究班の編成・研究方針	参考文献、基本データの収集
	3	企業研究に関する調査計画策定・研究方針・調査手法の確認	参考文献、基本データの収集
	4	基地経済に関する調査計画策定・研究方針・調査手法の確認	参考文献、基本データの収集
	5	公共交通に関する調査計画策定・研究方針・調査手法の確認	参考文献、基本データの収集
	6	沖縄県内上位100社の研究・資料収集・データの確認	参考文献、基本データの収集
	7	県内32米軍基地に関する基本データの収集、データの整理	調査計画の策定
	8	沖縄県内バス交通に関する基本データの収集、データの整理	調査計画の策定
	9	米軍基地視察フィールドワーク	調査先のアポイント
	10	バス協会・第一交通・沖縄バスヒヤリング	調査先のアポイント
	11	バス協会・第一交通・沖縄バスヒヤリング	ヒアリングデータの整理
	12	企業研究「かりゆしグループ」「金秀グループ」「国場グループ」等主要企業調査	調査先のアポイント
	13	企業研究「かりゆしグループ」「金秀グループ」「国場グループ」等主要企業調査	ヒアリングデータの整理
14	企業班、基地班、交通班調査報告	PP作成	
15	報告書とりまとめと前期総括	PP作成	
16	後期演習計画の策定と調査研究計画の策定	研究計画策定	
	テキスト・参考文献・資料など		
	内閣府沖縄総合事務局、沖縄振興開発金融公庫、沖縄県、県内41市町村データ、資料を収集。各研究テーマの文献を紹介します。		
	学びの手立て		
	図書館、インターネット、政府・沖縄県など公的資料の収集、分析のための手法を先行研究から学びます。		
	評価		
	ゼミへの積極的な参加、資料収集、調査分析、研究成果発表に関する内容によって総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	データの収集方法、調査分析の手法、発表・プレゼンテーションの技術を高め、4年次ゼミで強化。卒論にまとめます。

※ポリシーとの関連性 自らが専攻する学問的関心を喚起し、専門知識を系統的に習得させるための専門科目の提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	3年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい (1)経済地理学の調査・研究に必要な地域調査の考え方や手法の把握。(2)調査によって得られたデータを用いて基礎的な地域分析手法を用いて空間的な特性の一端を明らかにする。(3)夏休みを利用して、沖縄本島内の特定地域を選定して地域農業と環境問題をテーマとする地域調査を実施する予定である。	メッセージ 演習 I はGISを含めた専門的調査方法、分析を中心とする積み上げ型専門科目です。休まないようにしてください。
	到達目標 地域に関する諸課題解決のための調査、分析を行うスキルを身につける。それらを基礎として、卒論執筆のための基礎づくりを行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済地理学の地域調査の目的と役割	配布プリント・テキストの確認
	2	調査の種類について	配布プリント・テキストの確認
	3	データの種類と資料の活用方法	配布プリント・テキストの確認
	4	仮説の構築と検証	配布プリント・テキストの確認
	5	調査票の設計と調査実施方法	配布プリント・テキストの確認
	6	ヒアリング調査について	配布プリント・テキストの確認
	7	調査データの集計方法の設計と実際(3回)	配布プリント・テキストの確認
	8	基本統計量の説明と算出(3回)	配布プリント・テキストの確認
	9	夏休みの地域調査準備(3回)	配布プリント・テキストの確認
	10	夏休みにおける地域調査(2泊3日)	調査資料の整理と分析
	11	まとめ	報告会にむけての資料作成
	12		
	13		
	14		
15			
16			
テキスト・参考文献・資料など 野間晴雄他「ジオ・パルNEO —地理学・地域調査便利帖—」第2版、2017年、海青社、定価2625円			
学びの手立て 出欠を重視する。課題提出は厳守のこと。演習 I での発表にあたっては発表内容等について事前に指導教授のチェックを受ける事。			
評価 演習 I での発表・発言などの平常点(50点)、課題提出等(50点)で評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習 II
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘 もえ子	3年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、沖縄の主力産業である観光産業の現状を把握し、今後の発展について議論する。また、観光情報産業において活用されている地理情報システム (GIS) の基本について学習し、GISを利用した演習も行う。これらを通して、観光産業と情報産業の融合について考える。	メッセージ ゼミでは調査・まとめ・報告・ディスカッションが重要です。自ら積極的に動き、ゼミ内でも活発に交流して下さい。ゼミでわからないことがあれば気軽に相談して下さい。
	到達目標 ・文書作成およびデータ分析の基本を修得する。 ・GISに関する基礎知識を身につける。 ・沖縄観光の問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 学習形態としては、沖縄の観光をテーマとするインターネットおよび現地調査を行い、情報の収集、収集データの分析、GIS演習、文献の講読を行う。 また、調査結果、分析結果、GIS演習内容、輪読それぞれにおいて、発表報告会を行う。 (1) データ収集・分析手法の学習 アンケート調査結果をExcelを用いて集計・分析する。 (2) GIS学習 GISの基本的用語や動向を学習する。 (3) 観光テーマに関する調査 グループ単位でテーマに関する調査および発表
	テキスト・参考文献・資料など テキストは講義時に指定する。 参考文献は講義時に紹介する。
	学びの手立て 履修の心構え ・ゼミへしっかりと出席することで、GISへの理解が深まり、また沖縄観光の課題について明確にすることが可能になります。 学びを深めるために ・新聞記事を読むこと、ゼミ生同士のディスカッションが学びを深める助けになります。
	評価 平常点 (講義への取組、課題の内容、課題の提出) 50%、各課題の最終発表50%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目: 「観光情報論」は観光情報について学習できます。「地理情報システム論I・II」はGISについて学習できます。 (2) 次のステージ: 前期「演習I」で学んだことを踏まえて、後期「演習II」へ活かして下さい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山川 (矢敷) 彩子	3年	メール: a.yamakawa@okui.ac.jp 研究室: 9号館505室、実験室: 3号館505室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	演習Iでは、沖縄のサンゴ礁環境や海岸生物についての理解を深めるために、アクティブラーニング、現地調査、専門書の購読等を実施する。	演習 I は事前の予備登録で許可された学生のみ、登録可とする。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・サンゴ礁環境やサンゴ礁生物に関する基礎的な知識を身に付ける。 ・干潟調査、イノー調査の野外調査の仕方を身につける。 ・データ整理、科学レポートの書き方、レジメの書き方、パワーポイントプレゼンテーションを習得する。

学びのヒント
<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>演習Iは以下の (1) ~ (4) からなる。</p> <p>(1) サンゴ礁と海岸生物に関する講義と実習 サンゴ礁とはなにか、海岸にどのような生物が生息しているか調べ生物の役割や体の構造について、座学授業とフィールド実習から学ぶ。実習は3~4人程度のグループで実施する。</p> <p>(2) レポート作成・発表 (1)の実習後、グループでデータを共有し、処理・分析し考察を加えレポートとしてまとめる。グループ内でディスカッションして作業を進める。</p> <p>(3) 輪読 自然科学に関する専門書を読み込み、レジメを作成し、パワーポイントでプレゼンテーションする。</p> <p>スケジュール (予定) は以下の通りである。天候等により変更の可能性がある。</p> <p>第1~2週 オリエンテーションなど 第3~5週 Coral Reef Studiesの実施 (アクティブラーニング) 第6~8週 海岸実習およびレポート作成 第9~13週 専門書の輪読 第14~15週 4年次の卒研中間発表会の参加</p> <p>(4) 時間外学習 (1) では、毎回簡単な調べ学習の課題を課して理解を促す。(2) のレポート作成、(3) の輪読発表も準備のために、それなりの時間外学習が必要である。</p>

実践
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特に指定しない。適宜紹介する。</p>

学びの手立て
<p>山川ゼミは出席重視です。まずは毎回出席し、課題も提出しましょう。</p> <p>ゼミの内容を効果的に学習するために、山川が担当している「環境資源論」と「産業と環境」は、2・3年次のうちに必ず講義を受講してください。</p> <p>提出されたレポート、レジメは添削して返却し完成度を高めます。</p>

評価
<p>単位取得には、3分の2以上の出席、課題 (レポート、レジメ) の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。</p> <p>評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。</p> <p>欠席する場合には、事前に必ず連絡をすること。メールによる連絡を受け付ける。</p> <p>授業参加度30%、課題の取組姿勢、出来60%、プレゼンテーション10%とする。</p>

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目</p> <p>演習 II、III、IV、環境資源論 (山川ゼミ必修)、産業と環境 (山川ゼミ必修)、生物学I・II、自然科学概論I・II、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、など。</p>

※ポリシーとの関連性

地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、演習（ゼミ）などの実体験できる科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	砂川 かおり	3年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 環境政策論ゼミ入門として、沖縄と香港における湿地のワイズユースやスマートシティ開発及び深センの経済発展の現状と課題等について学ぶ。	メッセージ ・何事にも積極的に取り組んで、楽しいゼミにしていこう。
	到達目標 環境政策論ゼミ入門として、沖縄と香港における湿地のワイズユースやスマートシティ開発及び深センの経済発展の現状と課題等について学ぶ。 グループで、県内におけるヒアリングの実施、海外調査の計画策定・実施、報告書作成、発表ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、成績・時間割確認、メール設定等。学外ゼミ日程決定、各自航空券の手配。	香港研究と銀のアンカーまとめ
	2	香港・深センゼミ調査の進め方・調査準備の説明。学外ゼミ詳細日程決定。調査グループ分け。	グループ毎のテーマと訪問先決定
	3	沖縄知の風講話（予定）・リフレクションシート（RS）①作成・グループテーマと県内外訪問先発表	訪問予定先にアポを取る
	4	沖縄ITイノベーション戦略センター 講話（予定）・RS②作成・銀のアンカーのまとめ発表	テーマと訪問先について事前調査
	5	沖縄市東部海浜開発計画見学（予定）・リフレクションシート③作成	訪問先への質問作成
	6	テーマ毎の先行研究まとめ、県内事前調査結果及び海外ゼミ調査計画書を提出・発表	海外ゼミ調査準備
	7	香港・深センゼミ事前準備	海外ゼミ調査準備
	8	香港・深センゼミ調査実施（予定：6月1～8日）	海外ゼミ調査結果まとめ
	9	グループ毎にPPT作成	グループ毎にPPT完成・提出
	10	グループ毎にPPT添削・修正	グループ毎にPPT修正・再提出
	11	グループ毎にPPT発表	グループ毎に報告書作成
	12	グループ毎に調査報告書作成・提出	報告書の内容を読み返してみる
	13	グループ毎に調査報告書添削・修正	グループ毎に報告書修正・再提出
	14	グループ毎に調査報告書完成・再提出	前期の学習内容振り返り
15	報告書読み合わせ・授業評価アンケート実施	銀のアンカー復習	
16	キャリアセミナー（1）（予定） / 夏季休暇課題発表	インターンシップ、課題をする。	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは、特に指定なし。 参考文献は、適宜紹介する。		
	学びの手立て ・欠席する場合は、必ず事前にメールで連絡すること。事前又は後日、欠席届を提出すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。		
	評価 2/3以上の出席、調査への参加、課題等の提出を単位取得の最低条件とする。 評価の割合：銀のアンカーまとめ（5%）、香港に関する文献まとめ（5%）、リフレクションシート（15%）、先行研究まとめ、県内事前調査結果及び海外ゼミ調査計画書（15%）、海外ゼミ調査PPT作成・発表（30%）、調査報告書（30%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「演習II」、「環境教育論」、「環境政策論I」、「環境政策特別講義I（開発と環境）」、「エネルギーと社会」、「英語（TOEIC講座）」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	3年	研究室 5号館405研究室 hmaedomari@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。	メッセージ 沖縄経済に関する基本文献、論文、資料、データを収集し、調査研究の基本的な準備を行い、問題意識を醸成しましょう。
	到達目標 1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	後期 演習Ⅱの研究計画とゼミ運営方針の確認	後期計画の策定
	2	企業・基地・交通研究班の後期ブラッシュアップ調査・研究方針の確認	研究班ごとの調査の実施
	3	企業・基地・交通研究班の後期ブラッシュアップ調査報告①	研究班ごとの調査報告書の作成
	4	企業・基地・交通研究班の後期ブラッシュアップ調査報告②	研究班ごとの調査報告書の作成
	5	企業・基地・交通研究班の後期ブラッシュアップ調査報告③	研究班ごとの調査報告書の作成
	6	企業ヒアリング調査①上場企業（サンエー、沖電、セルラー等）	有価証券報告書の収集・分析
	7	企業ヒアリング調査②県内上場企業（琉銀、沖銀、ほか海銀）	有価証券報告書の収集・分析
	8	公共交通ヒアリング調査（沖縄県、沖縄総合事務局等）①公共交通の実態	交通調査報告書の収集・分析
	9	公共交通ヒアリング調査（沖縄県、沖縄総合事務局等）②公共交通活性化調査結果の分析	交通調査報告書の収集・分析
	10	基地調査班＝自衛隊基地調査①基本データの収集・整理（陸自、海自、空自）	自衛隊基地に関する調査
	11	基地調査班＝自衛隊基地調査②フィールドワーク（陸自、海自、空自）基地視察	自衛隊調査のアポイント
	12	フィールドワーク調査のとりまとめ・報告	調査報告書の仕上げ
	13	ゼミ旅行の計画、実施に向けた調査	ゼミ旅行予備調査
	14	企業班、基地班、交通班調査報告	県外、国外調査の実実施計画策定
	15	演習Ⅰ・Ⅱの総括	ゼミ活動の総括
16	演習Ⅲ、Ⅳに向けた計画策定		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 内閣府沖縄総合事務局、沖縄振興開発金融公庫、沖縄県、県内41市町村データ、資料を収集。各研究テーマの文献を紹介します。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 図書館、インターネット、政府・沖縄県など公的資料の収集、分析のための手法を先行研究から学びます。
-------	--

学びの実践	評価 ゼミへの積極的な参加、資料収集、調査分析、研究成果発表に関する内容によって総合的に評価します。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 データの収集方法、調査分析の手法、発表・プレゼンテーションの技術を高め、4年次ゼミで強化。卒論にまとめます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉 錫畢	3年	研究室5508、メールでアポをとって来ること。	

学びの準備	ねらい 演習Ⅰで鍛えた力を発揮し、書く力を鍛え（卒論執筆）きちんとしたディベートを行う。	メッセージ 討論の力を鍛える。
	到達目標 社会でも自分の意思を論理的に説明できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1週目：調査やボランティア活動のグループ別報告1	演習Ⅰから続く活動内容確認
	2	2週目：調査やボランティア活動のグループ別報告2	演習Ⅰから続く活動内容確認
	3	3週目：離島地域活性化に関する報告書作成1	グループ別で確認
	4	4週目：離島地域活性化に関する報告書作成2	グループ別で確認
	5	5週目：グループ別活動内容を討論1	グループ別検討及び報告準備
	6	6週目：グループ別活動内容を討論2	グループ別検討及び報告準備
	7	7週目：グループ別活動内容を討論3	グループ別検討及び報告準備
	8	8週目：グループ別活動内容を討論4	グループ別検討及び報告準備
	9	5週目：グループ別プレゼンテーション作成1	知の技法を読んでくる
	10	6週目：グループ別プレゼンテーション作成2	知の技法を読んでくる
	11	7週目：グループ別プレゼンテーション作成3	プレゼンテーションのリハーサル
	12	8週目：グループ別プレゼンテーション作成4	プレゼンテーションのリハーサル
	13	9週目：在学生にプレゼンテーションを行う1	プレゼンテーションの手法を読む
	14	10週目：在学生にプレゼンテーションを行う2	プレゼンテーションの手法を読む
15	15週目：離島の時事に関するテーマ別討論の成果を検証	離島の振興策案を作成	
16	16週目：総括	討論準備	
	テキスト・参考文献・資料など 小林・船曳編（1994）『知の技法』、東京大学出版会。		
	学びの手立て テレビ討論を真似する。		
	評価 プレゼンテーションを主に対象とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 口頭の表現で芽生えた問題意識を書く力へ継承する・演習Ⅲ
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 伊津子	3年	授業の前後に問い合わせてください。	

学びの準備	ねらい 受講者が主体的に学び、金融・経済に関して自らの意見を持ち、卒業論文のテーマ、方向性を設定することをねらいとする。	メッセージ ゼミは学生が作りあげるものだと思います。主体的に、積極的に取り組んで下さい。【実務経験】を活かした授業を展開する。
	到達目標 金融・経済に関してテーマを設定し、調査し、論文を作成できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1週～第6週 ヒアリング調査の準備及び実施。 第8週 ヒアリング調査の結果報告 第9週～第15週 ゼミ論文作成（ヒアリング調査のまとめ、データ分析） 第16週 論文完成、最終報告
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。参考文献・資料は適宜紹介する。

学びの実践	学びの手立て ・授業の時間外にも必要に応じて指導します。 ・やむをえない事情で遅刻・欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
	評価 ・平常点（50%）＋ 報告点（50%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 「演習Ⅱ」、「演習Ⅲ」、「演習Ⅳ」
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性 自らが専攻する学問的関心を喚起し、専門知識を系統的に習得させるための専門科目の提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	3年	メールでお願いします。ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	(1)経済地理学の調査・研究に必要な地域調査の考え方や手法の把握。(2)調査によって得られたデータを用いて基礎的な地域分析手法を用いて空間的な特性の一端を明らかにする。(3)夏休みを利用して、沖縄本島内の特定地域を選定して地域農業と環境問題をテーマとする地域調査を実施する予定である。演習Ⅱでは、得られたデータをもとに、分析をおこない、最終的に報告書にまとめる。	演習ⅡではGISを含めた専門的調査方法、分析を中心とする積み上げ型専門科目です。休まないようにしてください。

到達目標	地域に関する諸課題解決のための調査、分析を行うスキルを身につける。それらを基礎として、卒論執筆のための基礎づくりを行う。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	夏休みの地域調査報告会	調査結果の整理
	2	空間データの種類と取得	配布プリント、テキストの復習
	3	空間データ構造	配布プリント、テキストの復習
	4	地図測地系と座標系	配布プリント、テキストの復習
	5	レイヤーの編集	配布プリント、テキストの復習
	6	レイヤーの構造	配布プリント、テキストの復習
	7	デジタル地図の表示と装飾①	配布プリント、テキストの復習
	8	デジタル地図の表示と装飾②	配布プリント、テキストの復習
	9	バッファーとティポリゴン	配布プリント、テキストの復習
	10	重ね合わせ分析法①	配布プリント、テキストの復習
	11	重ね合わせ分析法②	配布プリント、テキストの復習
	12	通路ネットワーク分析法①	配布プリント、テキストの復習
	13	通路ネットワーク分析法②	配布プリント、テキストの復習
14	三次元表現について、GPSデータ取得とレイヤー作成	配布プリント、テキストの復習	
15	経済地理学論文購読(5回)	発表論文、レジュメの準備	
16	報告書執筆と配布	報告書分担執筆	
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など 野間晴雄他「ジオ・パルNEO —地理学・地域調査便利帖—」第2版、2014年、海青社、定価2625円 出欠を重視する。課題提出は厳守のこと。演習Ⅱでの発表にあたっては発表内容等について事前に指導教授のチェックを受けること。		
評価	演習Ⅱでの発表・発言などの平常点(50点)、課題提出等(50点)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習Ⅲ、演習Ⅳ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘 もえ子	3年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、沖縄の主力産業である観光産業の現状を把握し、今後の発展について議論する。また、観光情報産業において活用されている地理情報システム（GIS）の基本について学習し、GISを利用した演習も行う。これらを通して、観光産業と情報産業の融合について考える。	メッセージ ゼミでは調査・まとめ・報告・ディスカッションが重要です。自ら積極的に動き、ゼミ内でも活発に交流して下さい。ゼミでわからないことがあれば気軽に相談して下さい。
	到達目標 ・GISの基本操作を修得する。 ・沖縄観光の問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。 ・卒業論文を執筆するための基本的知識および技術を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 演習形態としては、沖縄の観光をテーマとするインターネットおよび現地調査を行い、情報の収集、収集データの分析、GIS演習、文献の講読を行う。 また、調査結果、分析結果、GIS演習内容、輪読それぞれにおいて、発表報告会を行う。 (1) GIS演習 ・地図データ：国土数値情報、基盤地図情報等 ・使用GIS：MANDARA ・演習内容：空間データの種類、空間データ構造、地図測地系と座標系、レイヤの構造、レイヤの編集、デジタル地図の表示と装飾、重ね合わせ分析法、ジオコーディング、GPSデータ取得とレイヤ構造 (2) 観光産業の現状把握 「観光要覧」や「観光白書」等の講読 (3) 観光テーマに関する調査 グループ単位でテーマに関する調査および発表
	テキスト・参考文献・資料など テキストは講義時に指定する。 参考文献は講義時に紹介する。
	学びの手立て 履修の心構え ・ゼミへしっかりと出席することで、GISへの理解が深まり、また沖縄観光の課題について明確にすることが可能になります。 学びを深めるために ・新聞記事を読むこと、ゼミ生同士のディスカッションが学びを深める助けになります。
	評価 平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）50%、各課題の最終発表50%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：「観光情報論」は観光情報について学習できます。「地理情報システム論Ⅰ・Ⅱ」はGISについて学習できます。 (2) 次のステージ：3年次ゼミで学んだことを踏まえて、卒業論文へ活かして下さい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山川（矢敷） 彩子	3年	メール：a.yamakawaアットokiu.ac.jp 研究室：9号館505室、 実験室：3号館505室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	演習Ⅱでは、沖縄の海岸、河川環境、生物などの自然環境を対象にグループ研究を実施し、実際に自分たちでデータをとることで理解を深める。	演習Ⅱは演習Ⅰ（山川ゼミ）を取得した学生のみ登録可とする。

学びの準備	到達目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・干潟調査、イノー調査、海岸ゴミ調査、水質調査等の野外調査の仕方を身につける。 ・調査で得られた生データを整理し表やグラフにすること、科学レポートの書き方、パワーポイントプレゼンテーションを習得する。 ・自分が興味を持って取り組む卒業研究のテーマを決める。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>演習Ⅱは主に以下の（1）～（4）からなる。</p> <p>（1）自然環境や生物に関するグループ研究 サンゴ礁、干潟、河川、タイモ畑、湧水、海岸ゴミなど、沖縄の自然環境やそこに生息する生物に関して、教員の指導の下、3名程度のグループワークで調査研究をおこなう。</p> <p>（2）レポート作成・発表 （1）で得られたデータを整理し、基本的な表やグラフの作成をおこない、何が読み取れるか考え、自分たちの考察を加えレポートとしてまとめる。レポートとしてまとめた後、レジメとパワーポイントを用いてグループでプレゼンテーションをおこなう。</p> <p>（3）卒業研究のテーマの決定と予備調査の実施 グループ研究実施後、自ら取り組む卒業研究のテーマを選定し、研究計画をたて、予備調査を実施する。春休みには、フィールドに出て予備調査をおこない、本調査に入れるようにする。</p> <p>スケジュール（予定）は以下の通りである。 第1週 オリエンテーション 第2～8週 グループ研究の実施、レジメ報告 第9～11週 グループ研究のレポート作成、プレゼンテーション 第12～16週 卒業研究のテーマ選定、研究計画発表、予備調査の実施</p> <p>（4）時間外学習 （1）のグループ研究は、基本的に講義外にグループで時間を調整し、調査に行く。（2）のレポート作成も、講義内、講義外両方の時間を用い、グループで協力し、ディスカッションしつつ作業を進める。（3）の卒業研究のテーマ決めについても、予備調査や本調査は講義外および春休みの時間を用いて行っていく。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特に指定しない。適宜紹介する。</p>

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>グループ研究や卒業研究では、生きもの相手の調査の場合、とにかく、外へ出ること。億劫がらずに、ダメモトで行動を起こす。そうすると、いずれ結果はついてきます。</p> <p>野外調査を行う場合は、天候や潮などに左右されます。あまりアルバイトを入れすぎず、少し融通が聞くほうが順調に進みます。</p> <p>ゼミの内容を効果的に学習するために、山川が担当している「環境資源論」と「産業と環境」は、2・3年次のうちに必ず講義を受講すること。</p>
	<p>評価</p> <p>単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。</p> <p>評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。</p> <p>欠席する場合には、事前に必ず連絡をすること。メールによる連絡を受け付ける。</p> <p>授業参加度30%、課題の取組姿勢、出来60%、プレゼンテーション10%とする。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>演習Ⅲ、Ⅳ、環境資源論（山川ゼミ必修）、産業と環境（山川ゼミ必修）、生物学Ⅰ・Ⅱ、自然科学概論Ⅰ・Ⅱ、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、など。</p>

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、演習（ゼミ）などの実体験できる科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	砂川 かおり	3年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> 環境調査や米国の情報公開法に基づく請求など、在沖米軍基地に起因する環境問題の現状を知る方法について学んでいく。 エコプロ2019に参加し、県内外の団体の環境ビジネス・環境取り組み等への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 何事にも積極的に取り組んで、楽しいゼミにしていこう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 在沖米軍基地に起因する環境調査の方法を理解できる。 米国の情報公開法を用いて、在沖米軍基地に起因する環境問題の情報収集ができるようになる。 エコプロ2019にて調査を実施し、結果をまとめ、発表できるようにする。 卒論発表会へ参加し、卒論制作について理解を深める。 キャリアセミナーを通して、就活に対する意識も高めていく。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、成績・時間割確認、夏季休暇中の活動報告、夏季休暇中課題の提出など	シラバスをよく読む。
	2	エコプロ2019事前準備（1）エコプロ2019の説明、参加登録、旅行手配。	配布資料を読んで、復習する。
	3	キャリアセミナー（1）、事前準備（2）参加登録、名刺作成、調査報告の作成方法説明	配布資料を読んで、復習する。
	4	講演「在沖米軍基地に起因する環境問題の調査について」（田代豊先生）（予定）・RS①作成	リフレクションシート①作成
	5	「米国の情報公開法に基づいた請求文書（英文）の読み方」説明・演習課題②	演習課題②
	6	「米国の情報公開法に基づいた請求文書（英文）の書き方」説明・演習/文書（英文）③作成	請求文書③作成
	7	「米国の情報公開法に基づいた請求文書」③の添削・修正・再提出	請求文書③修正・再提出
	8	エコプロ2019事前準備（3）	エコプロ事前準備
	9	エコプロ2019事前準備（4）	エコプロ事前準備
	10	エコプロダクツ2019 参加・調査（12/5～7）	PPT原稿④作成
	11	エコプロ2019 調査結果 PPT原稿④作成・提出	PPT④の引用・参考文献の確認
	12	エコプロ2019 PPT原稿④添削・修正・再提出	報告書⑤作成、発表練習
	13	PPT発表(1)・報告書⑤提出・添削	発表練習
14	PPT発表(2) 報告書⑤修正・再提出、報告書についての意見交換会	配布資料を読んで、復習する。	
15	まとめ、授業評価アンケート、卒論発表会参加、キャリアセミナー（2）	卒論テーマ案について考える。	
16	2019年度 卒論ポスターセッション 見学（1月31日予定）	春季休暇中の計画を立て、実行。	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：指定なし。適宜、資料を配布する。 参考文献：①砂川ゼミの卒論集、②花井等・若松篤『論文の書き方 マニュアル』有斐閣アルマ、2011年、③その他、適宜紹介する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。事前又は後日、欠席届を提出すること。 自己管理をしっかりと、就活などで欠席する場合には、個別に指導を受けること。 わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。 		
評価	2/3以上の出席が必要です。 その上で、評価の割合は、リフレクションシート（5%）、情報公開請求文書と訳まとめ（15%）、情報公開請求文書英文作成（20%）、エコプロ2019参加報告PPT（20%）、発表（10%）、報告書（30%）とします。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「演習III」・「演習IV」
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	3年	t. toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 社会に出るための準備を主目的に、地域経済の抱える問題を自ら解決する方法を獲得し、フィールドワークを通して実証する。	メッセージ 今までの学習を基に自ら調査を行い実証分析を行うことで、実社会の問題解決を熟考する。
	到達目標 ・これまでの学習から自ら課題を持ち、課題解決の方法を学習する。 ・課題について調査を行い、課題解決の方法を計量分析と通して提示する。 ・調査結果をまとめ、次年度の研究課題を模索する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業計画について説明	配布資料を参照
	2	調査計画1	配布資料を参照
	3	調査計画2	調査計画を確認する
	4	調査に向けた参考資料のサーベイ1	参考資料を確認する
	5	調査に向けた参考資料のサーベイ2	参考資料を確認する
	6	参考資料の輪読1	配布資料を参照
	7	参考資料の輪読2	授業内容を復習する
	8	参考資料の輪読3	授業内容を復習する
	9	参考資料の輪読4	授業内容を復習する
	10	調査1	配布資料を参照
	11	調査2	調査計画を確認する
	12	調査結果の考察	調査計画を確認する
	13	企業研究1	配布資料を参照
	14	企業研究2	授業内容を復習する
15	研究課題の作成	課題内容を確認する	
16	総括	総括の復習をする	
	テキスト・参考文献・資料など ・適時、資料を用意して配布します。		
	学びの手立て ・自身の課題に関連する本や資料について図書館を利用することが望ましい。 ・卒業論文に向けて、自らの課題や分析方法について指導教員に報告を行う。		
	評価 ・出欠とレポート提出、発表、卒業論文で評価を行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・自ら調査を通じて問題を実証し、卒業論文として結果を提示する。実社会でその経験を活かす。
-------	---

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深め、科学的な手法を用いて、実社会の課題に取り組む。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	齋藤 星耕	3年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	演習では、研究することを学ぶ。先行研究を読み解く力、研究計画を立てる力、研究を遂行する力、データを適切に解釈する力、科学的に議論できる力を養う。同時に、各人が具体的なテーマに協力して取り組みながら、自らの独自の研究課題に到達する。	演習I（前期）に引き続き、研究する力を養います。チームに分かれて課題に取り組みながら、研究の作法を学んでいきます。後期の終わりにはこれまでの成果を論文をまとめ、卒業研究への道筋をつけていきます。

到達目標
文献を読み解き、提示されているデータの意味を理解できる。 文献の内容や、自分自身の研究成果をプレゼンテーション出来る。科学的な内容について討論することが出来る。 適切な研究計画を立てることができる。計画に基づいて研究を実行できる。自ら取得したデータを分析でき、適切な結論を導ける。

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>1 オリエンテーション 2～16 生命科学、食品開発、再生可能エネルギーの社会実装の各課題に、校外研修先事業所の協力のもと、チームに分かれて取り組む： 校外研修先：1. 琉球大学分子生命科学研究施設 校外研修先：2. コルネとサンドのお店 Pippi / 宜野湾市観光振興協会 校外研修先：3. 一般社団法人沖縄県環境・エネルギー研究開発機構 「時間外学習の内容」：チームごとに課題に取り組む</p> <p>ゼミでは、輪番により、文献紹介、研究計画、研究発表を行う。 また、適宜、ゲスト講師を招いて特別講義を行う。</p>

テキスト・参考文献・資料など
テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。

学びの手立て
ゼミでは、文献紹介、チームでの課題の計画・進捗の報告を行う。チームごとの課題を進めるには、ゼミの時間外での取り組みが必要である。各人の積極的な貢献を期待する。やむを得ない欠席や遅刻の場合は、教員に直接、事前に連絡すること。また研修先での活動においても、遅刻・欠席の場合には先方の受け入れ担当者の方に事前に連絡をとり、失礼のないようにすること。

評価
出席状況、課題への取り組み、発表、レポートなどを総合的に評価する。

学びの継続
次のステージ・関連科目 演習Ⅱ, 演習Ⅲ, 演習Ⅳ

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、演習（ゼミ）などの実体験できる科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅲ	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	砂川 かおり	4年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文作成に必要な、企画力、調査力、分析力、文章表現力等を学ぶ。	メッセージ ・自己管理をしっかりとって、就活などで欠席する場合には、個別に指導を受けること。 ・何事にも積極的に取り組んで、楽しいゼミにしていこう。 ・授業外の課題にも積極的に取り組んでください。
	到達目標 演習Ⅲでは、自らが研究テーマを設定し、先行研究調査、調査企画、調査実施、調査結果分析、論文作成、発表等を行う。さらに、キャリアセミナーを通して、就活に対する意識も高めていく。	

学びの準備	到達目標 演習Ⅲでは、自らが研究テーマを設定し、先行研究調査、調査企画、調査実施、調査結果分析、論文作成、発表等を行う。さらに、キャリアセミナーを通して、就活に対する意識も高めていく。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、成績・時間割確認、年間計画作成・提出、メール設定等	卒論テーマを考える。
	2	卒論の進め方の説明、文献収集・要約方法の説明、文献収集	文献収集、文献を読み込む。
	3	文献の要約作成・提出	文献を読み込む
	4	文献の要約発表	先行研究文献収集
	5	先行研究調査・まとめ 提出	先行研究文献の読み込み
	6	先行研究調査結果発表	卒論のテーマ・目的・手法を考える
	7	卒論のテーマ・目的・手法決定・発表、卒論作成計画づくり・提出	調査準備
	8	調査準備（1）	調査準備
	9	調査準備（2）	調査準備
	10	調査準備（3）	調査準備
	11	調査実施（1）	調査実施
	12	調査実施（2）	調査実施
	13	調査実施（3）	卒論中間発表用原稿を考える
	14	卒論（中間報告）作成・提出	発表練習
	15	卒論中間発表・教員などからのコメント	中間発表のふりかえり
16	キャリアセミナー（2）	夏季休暇中の計画作成・実施	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：指定なし。適宜、資料を配布する。 参考文献：①砂川ゼミの卒論集、②花井等・若松篤『論文の書き方 マニュアル』有斐閣アルマ、2011年、③その他、適宜紹介する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て ・欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。事前又は後日、欠席届を提出すること。 ・自己管理をしっかりとって、就活などで欠席する場合には、個別に指導を受けること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。
-------	---

学びの実践	評価 2/3以上の出席が必要です。その上で、評価の割合は、先行研究調査結果発表（30%）、卒論（中間報告）（50%）、卒論中間発表会での発表（20%）とします。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「演習Ⅳ」
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅲ	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 武	4年	takeshiアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 環境関連の調査を通じて、情報収集能力・分析能力・プレゼンテーション能力・報告書作成能力を高め、物事を幅広い視点から理解する能力も身につける。	メッセージ 演習 I&II で学んだ事をさらに発展させましょう。演習では環境コンサルタント（技術士）としての経験に基づく実務的な指導も行います。
	到達目標 環境関連のテーマについての調査計画を作成して実施できるようになる。	

学びの準備	到達目標 環境関連のテーマについての調査計画を作成して実施できるようになる。
-------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>各自がテーマを選択して、それについての、調査を行い、発表を行う。また、最終的にレポートを作成する。テーマは次の中から選定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水質汚濁と底質汚染 2. 大気汚染 3. 騒音問題 4. 太陽光発電 5. その他 <p>時間外学習：演習時間外においても選択したテーマについて現地調査や資料調査を行うこと。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>身近な環境関連の問題などに興味をもって考える習慣を身につけましょう。演習は講義よりも教師とのコミュニケーションが重要なので欠席は極力避けましょう。</p>
-------	--

学びの実践	<p>評価</p> <p>演習参加度（20%）、発表状況（30%）、レポート（50%）などにもとづき評価する。</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>演習Ⅳ</p>
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅲ	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 伊津子	4年	授業の前後に問い合わせてください。	

学びの準備	ねらい 卒業論文作成を通じて、分析能力、課題発見能力を高める。	メッセージ 大学生活での学習の仕上げとして、卒業論文を作成します。【実務経験】を活かした授業を展開する。
	到達目標 卒業論文を完成させる。	

学びの準備	到達目標 卒業論文を完成させる。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 ガイダンス 第2回 卒業論文テーマ設定（1） 第3回 卒業論文テーマ設定（2） 第4回 研究計画策定（1） 第5回 研究計画策定（2） 第6回 研究計画策定（3） 第7回 先行研究収集（1） 第8回 先行研究収集（2） 第9回 先行研究収集（3） 第10回 中間発表（1） 第11回 中間発表（2） 第12回 中間発表（3） 第13回 中間発表（4） 第14回 修正作業 第15回 修正作業 第16回 卒業論文前半部分完成、提出
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは指定しない。各自のテーマに応じて参考文献を提示する。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは指定しない。各自のテーマに応じて参考文献を提示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>卒業論文の進捗状況の報告を授業時間外にも求めることがあります。</p>

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>卒業論文の進捗状況の報告を授業時間外にも求めることがあります。</p>
	<p>評価</p> <p>単位修得の必須条件は卒業論文を期限内に提出すること。 卒業論文は文字数（15000字以上）、分析内容、先行研究レビューが十分か、引用方法の適切さなどの条件を満たしているかを評価します。 学科で行われるポスター発表会に参加した場合はさらに加点する。</p>

学びの実践	<p>評価</p> <p>単位修得の必須条件は卒業論文を期限内に提出すること。 卒業論文は文字数（15000字以上）、分析内容、先行研究レビューが十分か、引用方法の適切さなどの条件を満たしているかを評価します。 学科で行われるポスター発表会に参加した場合はさらに加点する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>基礎演習Ⅰ・Ⅱ、地域セミナーⅠ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山川（矢敷） 彩子	4年	メール：a.yamakawa@tokiu.ac.jp 研究室：9号館505室、実験室：3号館505室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	演習Ⅲでは、沖縄の自然環境や生物、それらの保全に関して、卒業研究を実施する。また卒業研究に関連する先行研究の論文を読み込み、論文発表をおこなう。	演習Ⅰ・Ⅱ（山川ゼミ）を登録した学生のみWeb登録を許可する。

学びの準備	到達目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの意思で卒業研究を実施し、オリジナルなデータを定期的に収集できるようになる。 ・得られたデータを毎月レジメにまとめて報告できるようにする。 ・卒業研究を中間発表として、レジメやパワーポイントにまとめプレゼンテーションする。 ・ゼミ内メンバーの卒業研究の野外調査に積極的に参加する。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>演習Ⅲでは以下の（1）～（3）からなる。</p> <p>（1）卒業研究 卒業研究のテーマ、内容は自由であるが、できれば沖縄の自然環境や生物およびそれらに関するを中心におこなうことが望ましい。月2回程度の調査をおこない、自分でデータを収集する。</p> <p><過去の卒業研究の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の海の危険生物に関する意識調査 ・沖縄本島におけるウミガメの産卵場所に関する聞き取り調査 ・泡瀬干潟におけるホソバウミジグサの観察 ・宇座海岸におけるイノーの生物の動向調査 ・金城ダムにおける外来魚ジリティラピアの成長と産卵期推定 ・佐敷干潟に生息するミナミコメツキガニの個体群動態 ・泡瀬干潟の利用形態に関する聞き取り調査 <p>（2）論文発表 自分の卒業研究のテーマに関連する重要な先行研究の論文を探し、読み込み、レジメにまとめ、パワーポイントで発表する。論文紹介をすることで、基本的な論文の構成、文章の表現を学ぶ。</p> <p>（3）時間外学習 卒業研究の調査は、基本的に講義外の時間に自分で調整しておこなう。月2回ほど調査に行きデータを収集する。報告のためのレジメ作成、論文発表の準備などは講義外学習となる。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特に指定しない。適宜紹介する。</p>

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>生きもの相手の調査の場合、とにかく、外へ出ること。億劫がらずに、ダメモトで行動を起こす。そうすると、いずれ結果はついてきます。</p> <p>野外調査は天候や潮に左右されます。アルバイトを入れすぎず、余裕があるスケジュール管理をするようにしてください。調査日には必ず予備日を入れること。</p> <p>ゼミの内容を効果的に学習するために、山川が担当している「環境資源論」と「産業と環境」は、2・3年次のうちに必ず講義を受講すること。</p>
	<p>評価</p> <p>欠席、遅刻する場合には、事前に必ず連絡すること。メールによる連絡を受け付ける。</p> <p>単位取得には、3分の2以上の出席、定期的な卒研報告（レジメ）の提出、中間発表の実施、論文発表が必須である。就職活動による公欠は半期2回までである。</p> <p>評価は平常点（ゼミにおける参加姿勢）30%、卒業研究への取り組み姿勢50%、論文発表20%などを総合し実施する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>演習Ⅳ、環境資源論（山川ゼミ必修）、産業と環境（山川ゼミ必修）生物学Ⅰ・Ⅱ、自然科学概論Ⅰ・Ⅱ、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、など。</p>

※ポリシーとの関連性 自らが専攻する学問的関心を喚起し、専門知識を系統的に習得させるための専門科目の提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅲ	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	4年	問い合わせはメールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	演習Ⅰ・Ⅱで学んだ経済地理学の調査・研究に必要な地域調査の考え方や手法の把握を基礎として、自らテーマを設定し、先行研究の調査、文献調査、フィールドワーク、調査で得られた資料の分析を行い最終的に卒業論文にまとめることを目標とする。	演習ⅢはGISを含めた専門的調査方法・分析を基礎に、卒業論文作成のための積み上げ型専門科目です。卒論提出(1月末日)を目安に各自で卒論の調査、執筆スケジュールをしっかりと立て、計画的に進めてください。

到達目標	演習Ⅰ・Ⅱで学んだ地域に関する諸課題解決のための調査、分析などのスキルを基礎として、自らテーマ設定、調査、分析を行い、最終的に卒業論文にまとめる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	卒業論文についての説明 (2回)	配布プリントの確認
	2	卒業論文のテーマ発表	配布プリントの確認
	3	先行研究に関する調査・発表 (3回)	発表資料の準備
	4	各テーマの分析方法と調査計画についての発表 (3回)	発表資料の準備
	5	各自の調査結果の報告 (3回)	発表資料の準備
	6	補足調査について (3回)	発表資料の準備
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

テキスト・参考文献・資料など	野間晴雄他「ジオ・パルNEO —地理学・地域調査便利帖—」第2版、2016年、海青社、定価2700円
----------------	--

学びの手立て	出欠を重視する。課題提出は厳守のこと。演習Ⅲでの発表にあたっては発表内容等について事前に指導教授のチェックを受ける事。卒論のための調査および執筆スケジュールをしっかりと立てること。
--------	--

評価	演習における卒論の中間報告の内容で評価する (100%)。
----	-------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習Ⅳ: 卒論の完成、提出、卒論集の発行。
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅲ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉 錫畢	4年	簡単なものはメールで、詳しく聞く場合にはオフィスアワーを利用(研究室(5508))	

学びの準備	ねらい 演習Ⅰ・Ⅱで習得した知識に基づいて、実際に足を運んで生のデータによって学問を表現する。つまり、文章を持って知(卒業論文)を表現する。	メッセージ 学問と社会との関係を理解する
	到達目標 地域社会で自分のできることを理解し、自我発展につなげる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1週目：卒業論文とは	学問とは何かについて考える
	2	2週目：卒業論文の作法と技法	知の技法を読む
	3	3週目：環境・経済の調査の方法1	知の技法を読む
	4	4週目：環境・経済の調査の方法2	論文の書き方を整理
	5	5週目：参考資料を活用する	論文の書き方を整理
	6	6週目：テーマを設定する1	関心がある卒論か報告書を読む
	7	7週目：テーマを設定する2	関心がある卒論か報告書を読む
	8	8週目：テーマと関連する参考資料作成1	関心がある卒論か報告書を読む
	9	9週目：テーマと関連する参考資料作成2	関心がある卒論か報告書を読む
	10	10週目：テーマと関連する参考資料の要約発表1	関心がある卒論か報告書を読む
	11	11週目：テーマと関連する参考資料の要約発表2	関心がある卒論か報告書を読む
	12	12週目：卒論テーマを決め、フローチャート作成1	関心がある卒論か報告書を読む
	13	13週目：卒論テーマを決め、フローチャート作成2	論文と関わる資料を整理
	14	14週目：卒論テーマを決め、フローチャート作成3	論文と関わる資料を整理
15	15週目：卒論テーマを決め、フローチャート作成4	中間報告の為の準備	
16	16週目：総括及び夏の合宿での中間報告準備	中間報告の為の準備	
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献として、 ①小林・船曳編(1994)『知の技法』、東京大学出版会。 ②植田和弘(1998)『環境経済学への招待』、丸善ライブラリー。 ③呉錫畢(2008)『環境・経済と真の豊かさ』、日本経済評論社。		
	学びの手立て 卒論のテーマの設定、中間報告を行い、自分の主張を討論で行い、ロジックな思考能力を高める。		
	評価 中間報告、卒業論文の作成を参照。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 執筆要領を覚え、社会で報告書作成等に役立つようにする。
-------	--

※ポリシーとの関連性

沖縄観光の問題点を明確にしまとめることにより、沖縄の地域経済の将来を展望する力を身につけます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅲ	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘 もえ子	4年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習では、3年次で各自が設定した観光情報およびGIS利用に関するテーマについて、詳細な調査や実装を行い、調査・実装結果に考察を加え、卒業論文をまとめる。演習の時間は、各自の進捗状況を報告してもらい、調査方法や調査内容について、ゼミ生同士で意見交換や議論する時間とする。	ゼミでは調査・まとめ・報告・ディスカッションが重要です。自ら積極的に動き、ゼミ内でも活発に交流して下さい。ゼミでわからないことがあれば気軽に相談して下さい。
到達目標	・自らが設定したテーマに関して、調査・分析し、それらに関してまとめあげ報告できる。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) テーマに関する情報収集 (2) 現地調査 (3) 研究の進捗状況発表 (4) 卒業論文の中間報告
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト・参考文献は講義時に適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後卒業して社会の一員になるという意識を高く持ち、自ら問題を見つけ解決することができるよう頑張ります。 <p>学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を読むこと、ゼミ生同士のディスカッションが学びを深める助けになります。
評価	平常点（ゼミ中の取組）20%、卒業論文中間報告80%。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>後期の演習Ⅳにおいて、卒業論文を完成させる。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深め、科学的な手法を用いて、自らの問いの解明に取り組む。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅲ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	齋藤 星耕	4年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい 演習では、研究することを学ぶ。先行研究を読み解く力、研究計画を立てる力、研究を遂行する力、データを適切に解釈する力、科学的に議論できる力を養う。四年次では自らの独自の研究課題に取り組む。	メッセージ 演習III-IV (4年次)では卒業研究を行います。自らの問いに答えるためには、どのような情報が必要か、どうすればそれが得られるか、先行研究と自分のこれまでの知識を動員して考えなければなりません。そして、実験をするにしてもインタビューをするにしても、自分から動いていかねばなりません。そうして得られた情報を総合し、卒業論文に取り組みます。
	到達目標 文献を読み解き、提示されているデータの意味を理解できる。文献の内容や、自分自身の研究成果をプレゼンテーション出来る。科学的な内容について討論することが出来る。適切な研究計画を立てることができる。計画に基づいて研究を実行できる。自ら取得したデータを分析でき、適切な結論を導ける。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>1 オリエンテーション 2~16 卒業研究 (生命科学、食品開発、再生可能エネルギーなどから各自決定) の課題に、各自取り組む* :</p> <p>「時間外学習の内容」 : 各自、課題に取り組む</p> <p>* 必要に応じて下記に挙げる事業所または各自が開拓した事業所からの協力を得る :</p> <p>1. 琉球大学分子生命科学研究施設 2. コルネとサンドのお店 Pippi / 宜野湾市観光振興協会 3. 一般社団法人沖縄県環境・エネルギー研究開発機構</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>ゼミでは、文献紹介、自らの課題の計画・進捗の報告を行う。当然ながら、ゼミの時間外での取り組みが必須である。各人の積極的な貢献を期待する。やむを得ない欠席や遅刻の場合は、教員に直接、事前に連絡すること。また卒業研究における関係先に対しては失礼のないようにすること。</p>
	<p>評価</p> <p>出席状況、課題への取り組み、発表、レポートなどを総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>演習Ⅳ</p>
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	4年	メールでお問い合わせください. t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会に出るための準備を目的に、輪読を通して知識を蓄え、フィールドワークによってその実証を行う。</p>	<p>座学による知識を基に実社会の問題を解決する方法を学ぶことで、社会に出た時に役立つ能力を身につける。</p>

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・座学を通して知識を蓄え、知的好奇心を持つ。 ・調査方法の学習とデータの扱いについて学ぶ。 ・調査結果をまとめ、発表を行う。

学びの実践	学びのヒント																																																			
	授業計画																																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>輪読1</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>2</td><td>輪読1</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>3</td><td>輪読1</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>4</td><td>輪読1</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>5</td><td>輪読1</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>6</td><td>輪読2</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>7</td><td>輪読2</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>8</td><td>輪読2</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>9</td><td>輪読2</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>10</td><td>調査票の作成1</td><td>調査内容を確認する</td></tr> <tr><td>11</td><td>調査表の作成2</td><td>調査内容を確認する</td></tr> <tr><td>12</td><td>フィールドワークによる調査</td><td>調査手順を確認する</td></tr> <tr><td>13</td><td>調査データの扱い1</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>14</td><td>調査データの扱い2</td><td>授業内容を復習する</td></tr> <tr><td>15</td><td>調査データの分析1</td><td>分析内容を確認する</td></tr> <tr><td>16</td><td>調査データの分析2</td><td>分析内容を確認する</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	輪読1	授業内容を復習する	2	輪読1	授業内容を復習する	3	輪読1	授業内容を復習する	4	輪読1	授業内容を復習する	5	輪読1	授業内容を復習する	6	輪読2	授業内容を復習する	7	輪読2	授業内容を復習する	8	輪読2	授業内容を復習する	9	輪読2	授業内容を復習する	10	調査票の作成1	調査内容を確認する	11	調査表の作成2	調査内容を確認する	12	フィールドワークによる調査	調査手順を確認する	13	調査データの扱い1	授業内容を復習する	14	調査データの扱い2	授業内容を復習する	15	調査データの分析1	分析内容を確認する	16	調査データの分析2	分析内容を確認する
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
	1	輪読1	授業内容を復習する																																																	
	2	輪読1	授業内容を復習する																																																	
	3	輪読1	授業内容を復習する																																																	
	4	輪読1	授業内容を復習する																																																	
	5	輪読1	授業内容を復習する																																																	
	6	輪読2	授業内容を復習する																																																	
	7	輪読2	授業内容を復習する																																																	
	8	輪読2	授業内容を復習する																																																	
	9	輪読2	授業内容を復習する																																																	
	10	調査票の作成1	調査内容を確認する																																																	
	11	調査表の作成2	調査内容を確認する																																																	
	12	フィールドワークによる調査	調査手順を確認する																																																	
13	調査データの扱い1	授業内容を復習する																																																		
14	調査データの扱い2	授業内容を復習する																																																		
15	調査データの分析1	分析内容を確認する																																																		
16	調査データの分析2	分析内容を確認する																																																		
テキスト・参考文献・資料など 適時、参考資料を配布する。																																																				
<p>学びの手立て</p> <p>座学で使用する書籍について図書館を利用することが望ましい。</p>																																																				
<p>評価</p> <p>出欠とレポート提出、発表内容で評価を行う。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「地域経済Ⅰ・Ⅱ」の知識をフィールドワークを通して実証し、より専門的な分野を学習する。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	4年	研究室 5号館405研究室 hmaedomari@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。	メッセージ 沖縄経済に関する基本文献、論文、資料、データを収集し、調査研究の基本的な準備を行い、問題意識を醸成しましょう。
	到達目標 1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ゼミ運営基本方針の説明（ガイダンス）	参考文献、基本データの収集
	2	卒論のテーマ選定・個別面談・指導①	参考文献、基本データの収集
	3	卒論のテーマ選定・個別面談・指導②	参考文献、基本データの収集
	4	卒論のテーマ選定・個別面談・指導③	参考文献、基本データの収集
	5	卒論のテーマ選定・個別面談・指導④	参考文献、基本データの収集
	6	卒論のテーマ選定・個別面談・指導⑤	参考文献、基本データの収集
	7	卒論のテーマ選定・個別面談・指導⑥	参考文献、基本データの収集
	8	卒論の概要発表①	卒論の章立て作成
9	卒論の概要発表②	卒論の章立て作成	
10	卒論の概要発表③	卒論の章立て作成	
11	卒論の概要発表④	卒論の章立て作成	
12	卒論「はじめに」「第1章」とりまとめ報告①	PP作成	
13	卒論「はじめに」「第1章」とりまとめ報告②	PP作成	
14	卒論「はじめに」「第1章」とりまとめ報告③	PP作成	
15	卒論前期総括	PP作成	
16	演習Ⅲ総括	PP作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など 卒論の先行研究、卒論関係論文・資料の収集、関係データの収集と整理、分析。		
	学びの手立て 先行研究論文の整理、課題の設定、論文構成員の向上、専門用語の習得、論点整理、執筆力の向上。		
	評価 論点整理、論文の完成度、参考文献の整理・活用、独自の視点・争点・論点・分析の熟度で評価		

学びの継続	次のステージ・関連科目 論点を整理し、データで検証・分析する力を身に着ける。実社会に通用するブラッシュアップの機会を確保する。大学院進学。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	4年	研究室 5号館405研究室 hmaedomari@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢(平成29年度版)』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。</p>	<p>沖縄経済に関する基本文献、論文、資料、データを収集し、調査研究の基本的な準備を行い、問題意識を醸成しましょう。</p>
	到達目標	
	<p>1: 経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2: 基本データの分析・解析手法を習得します。 3: 課題の抽出方法を習得します。 4: 課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5: 調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	後期 演習Ⅳの研究計画とゼミ運営方針の確認	後期計画の策定
	2	卒論「第2章」「第3章」とりまとめ報告①	PP作成
	3	卒論「第2章」「第3章」とりまとめ報告②	PP作成
	4	卒論「第2章」「第3章」とりまとめ報告③	PP作成
	5	卒論「第4章」「第5章」とりまとめ報告①	PP作成
	6	卒論「第4章」「第5章」とりまとめ報告②	PP作成
	7	卒論「第4章」「第5章」とりまとめ報告③	PP作成
	8	卒論総括①「サマリー」の執筆	個別指導(研究室)
	9	卒論総括②「卒論構成」のチェック	個別指導(研究室)
	10	卒論総括③「目次、参考文献、奥付などの整理」	個別指導(研究室)
	11	卒論ポスター作製①PP作成	個別指導(研究室)
	12	卒論ポスター作製②PP校正	個別指導(研究室)
	13	卒論ポスター作製③PP印刷	個別指導(研究室)
14	ゼミ活動の総括(卒論印刷・ゼミ論集仕上げ)	個別指導(研究室)	
15	ゼミ論集の校正、印刷	県外、国外調査の実施計画策定	
16	ゼミ活動の総括と反省	ゼミ活動の総括	
	テキスト・参考文献・資料など 卒論の先行研究、卒論関係論文・資料の収集、関係データの収集と整理、分析。v		
	学びの手立て 先行研究論文の整理、課題の設定、論文構成力の向上、専門用語の習得、論点整理、執筆力の向上。		
	評価 論点整理、論文の完成度、参考文献の整理・活用、独自の視点・争点・論点・分析の熟度で評価		

学びの継続	次のステージ・関連科目 論点を整理し、データで検証・分析する力を身に着ける。実社会に通用するブラッシュアップの機会を確保する。大学院進学。
-------	--

※ポリシーとの関連性 自らが専攻する学問的関心を喚起し、専門知識を系統的に習得させるための専門科目の提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅳ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	4年	問い合わせはメールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	演習Ⅲで進めてきた経済地理学の調査・研究に必要な地域調査の考え方や手法の把握を基礎として、自らテーマを設定し、先行研究の調査、文献調査、フィールドワーク、調査で得られた資料の分析を行い卒業論文の完成を目指す。	演習ⅡはGISを含めた専門的調査方法・分析を基礎に、卒業論文作成のための積み上げ型専門科目です。卒論提出(1月末日)を目安に各自で卒論の調査、執筆スケジュールをしっかりと立て、計画的に進めていってください。 社会に出ても、ゼミで習得した思考力、計画性、分析力等を発揮できるようにがんばって欲しい。

到達目標	演習Ⅲで進めてきた地域に関する諸課題解決のための調査、分析などのスキルを基礎として、自らテーマ設定、調査、分析を行い、最終的に卒業論文にまとめる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	各自、卒論にむけての調査結果の報告と検討(ゼミ生各4回発表してもらう)	発表資料の準備
	2	卒論の執筆・推敲と補足調査(ゼミ生各4回発表してもらう)	発表資料の準備
	3	ポスターセッションのための発表資料の作成	発表資料の準備
	4	論文提出および論文集の作成と発行	論文集発行にあたっての準備
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 野間晴雄他「ジオ・パルNEO —地理学・地域調査便利帖—」第2版、2016年、海青社、定価2700円
-------	--

学びの手立て	出欠を重視する。課題提出は厳守のこと。演習Ⅳでの発表にあたっては発表内容等について事前に指導教授のチェックを受ける事。卒論のための調査および執筆スケジュールをしっかりと立てること。
--------	--

評価	卒業論文提出とその内容をもって評価する(100%)。
----	----------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文をまとめたことを基礎として、社会に出ても、ゼミで習得した思考力、計画性、分析力等を発揮できるようにがんばって欲しい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深め、科学的な手法を用いて、自らの問いの解明に取り組む。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅳ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	齋藤 星耕	4年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい 演習では、研究することを学ぶ。先行研究を読み解く力、研究計画を立てる力、研究を遂行する力、データを適切に解釈する力、科学的に議論できる力を養う。四年次では自らの独自の研究課題に取り組む。	メッセージ 演習III-IV (4年次)では卒業研究を行います。自らの問いに答えるためには、どのような情報が必要か、どうすればそれが得られるか、先行研究と自分のこれまでの知識を動員して考えなければなりません。そして、実験をするにしてもインタビューをするにしても、自分から動いていかねばなりません。そうして得られた情報を総合し、卒業論文に取り組みます。
	到達目標 文献を読み解き、提示されているデータの意味を理解できる。文献の内容や、自分自身の研究成果をプレゼンテーション出来る。科学的な内容について討論することが出来る。適切な研究計画を立てることができる。計画に基づいて研究を実行できる。自ら取得したデータを分析でき、適切な結論を導ける。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>1 オリエンテーション 2~16 卒業研究 (生命科学、食品開発、再生可能エネルギーなどから各自決定) の課題に、各自取り組む* :</p> <p>「時間外学習の内容」 : 各自、課題に取り組む</p> <p>* 必要に応じて下記に挙げる事業所または各自が開拓した事業所からの協力を得る :</p> <p>1. 琉球大学分子生命科学研究施設 2. コルネとサンドのお店 Pippi / 宜野湾市観光振興協会 3. 一般社団法人沖縄県環境・エネルギー研究開発機構</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>ゼミでは、文献紹介、自らの課題の計画・進捗の報告を行う。当然ながら、ゼミの時間外での取り組みが必須である。各人の積極的な貢献を期待する。やむを得ない欠席や遅刻の場合は、教員に直接、事前に連絡すること。また卒業研究における関係先に対しては失礼のないようにすること。</p>
	<p>評価</p> <p>出席状況、課題への取り組み、発表、レポートなどを総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>土壌学概論、島嶼環境論、環境科学実験、農業と環境、エコビジネス論</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、演習（ゼミ）などの実体験できる科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅳ	後期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	砂川 かおり	4年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文作成に必要な、企画力、調査力、分析力、文章表現力等を学ぶ。	メッセージ ・自己管理をしっかりと、就活などで欠席する場合には、個別に指導を受けること。 ・何事にも積極的に取り組んで、楽しいゼミにしていこう。 ・授業外の課題にも積極的に取り組んでください。
	到達目標 演習Ⅳでは、自らで研究テーマを設定し、先行研究調査、調査企画、調査実施、調査結果分析、論文作成、発表等を行う。さらに、キャリアセミナーを通して、就活に対する意識も高めていく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、成績・時間割確認、就活・卒論経過報告	卒論の目的執筆、先行研究の引用
	2	卒論の目的、先行研究の引用、執筆、提出	方法論を執筆
	3	方法論を執筆・提出	卒論データについて執筆
	4	卒論データ分析、執筆、提出	結果について執筆
	5	結果まとめ・執筆、提出	考察について執筆
	6	考察まとめ・執筆、提出	PPT原稿作成
	7	卒論発表会用PPT原稿・ポスターセッション用原稿作成・提出	PPT原稿作成・提出
	8	卒論発表会用PPT原稿・ポスターセッション用原稿添削・再提出	PPT原稿の修正
	9	卒論発表会用PPT原稿（最終版）提出	卒論執筆
	10	卒業論文（1次提出）	発表練習
	11	卒論発表会リハーサル、卒業論文（1次提出）添削	発表練習
	12	卒業論文発表会	卒論修正
	13	卒業論文（2次提出）、ポスターセッション用原稿提出・修正	ポスターセッション修正
	14	ポスターセッション用原稿完成・展示	卒論手直し
15	卒論（最終）提出、授業評価アンケート記入	ポスターセッションの練習	
16	卒論ポスターセッション（2020年1月31日予定）	後期の学びを振り返る。	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：指定なし。適宜、資料を配布する。 参考文献：①砂川ゼミの卒論集、②花井等・若松篤『論文の書き方 マニュアル』有斐閣アルマ、2011年、③その他、適宜紹介する。		
	学びの手立て ・欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。事前又は後日、欠席届を提出すること。 ・自己管理をしっかりと、就活などで欠席する場合には、個別に指導を受けること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。		
	評価 2/3以上の出席が必要です。その上で、評価の割合は、卒論（60%）、卒論発表会での発表（20%）、ポスターセッション（20%）とします。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習Ⅲ
-------	--------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅳ	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 武	4年	takeshiアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 環境関連の調査を通じて、情報収集能力・分析能力・プレゼンテーション能力・報告書作成能力を高め、物事を幅広い視点から理解する能力も身につける。	メッセージ 演習 I, II&III で学んだ事をさらに発展させましょう。演習では環境コンサルタント（技術士）としての経験に基づく実務的な指導も行います。
	到達目標 環境関連のテーマなどについて調査計画を作成して実施できるようになる。	

学びの準備	到達目標 環境関連のテーマなどについて調査計画を作成して実施できるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 各自がテーマを選択して、それについての、調査を行い、発表を行う。また、最終的にレポートを作成する。 テーマは次の中から選定する。 1. 水質汚濁と底質汚染 2. 大気汚染 3. 騒音問題 4. 太陽光発電 5. その他 時間外学習：演習時間外においても選択したテーマについて現地調査や資料調査を行うこと。
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。
	学びの手立て 身近な環境関連の問題などに興味をもって考える習慣を身につけましょう。身近な環境関連の問題などに興味をもって考える習慣を身につけましょう。演習は講義よりも教師とのコミュニケーションが重要なので欠席は極力避けましょう。
	評価 演習参加度（20%）、発表状況（30%）、レポート（50%）などにもとづき評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習I, II, III&IVで培った知識や能力を発展させて行く。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅳ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 伊津子	4年	授業の前後に直接問い合わせして下さい。	

学びの準備	ねらい 卒業論文執筆を通して、資料をよく読み、自分の考えを根拠を持って提示する力をみにつける。	メッセージ 【実務経験】を活かした授業を展開する。
	到達目標 卒業論文を完成させる。 卒業論文部の条件は、15000字以上、実証的な分析、先行研究のレビューを十分行う等。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回 ガイダンス 第2回～第16回 参考研究を踏まえて、自分のオリジナルな分析をし、結論をまとめ卒業論文を完成させる。
	テキスト・参考文献・資料など 各自の卒業論文のテーマに応じて適宜指定する。

学びの実践	学びの手立て 卒業論文執筆を通じて、論文の書き方の基礎的な力を身につけてほしいので、分からないところは自発的に質問してほしい。
	評価 卒業論文の期限内での提出を単位取得の最低条件とする。

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習Ⅰ・Ⅱ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山川（矢敷） 彩子	4年	メール：a.yamakawa@okui.ac.jp 研究室：9号館505室、実験室：3号館505室	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	演習Ⅳでは、沖縄の自然環境や生物、それらの保全に関して、卒業研究の実施、卒業論文の作成をおこなう。	演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（山川ゼミ）を登録した学生のみWeb登録を許可する。		
学びの準備	到達目標			
	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの意思で卒業研究を実施し、オリジナルなデータを定期的に収集できるようになる。 ・得られたデータを毎月レジメにまとめて報告できるようにする。 ・卒業論文を所定の様式にそって、作成する。 ・ポスターを作成し、卒業研究発表会で発表する。 			
学びの実践	学びのヒント			
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）			
	(1) 卒業研究 演習Ⅲに引き続き卒業研究を実施する。月2回程度フィールドに出て調査をおこない、自分でデータを収集する。データはレジメにまとめ、定期的に報告する。			
	<p><過去の卒業研究の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の海の危険生物に関する意識調査 ・沖縄本島におけるウミガメの産卵場所に関する聞き取り調査 ・泡瀬干潟におけるホソバウミジグサの観察 ・宇座海岸におけるイノエの生物の動向調査 ・金城ダムにおける外来魚ジルティラピアの成長と産卵期推定 ・佐敷干潟に生息するミナミコメツキガニの個体群動態 ・泡瀬干潟の利用形態に関する聞き取り調査 <p>(2) 卒業論文の執筆 先行研究の整理をおこない、得られた調査データを整理し、図表にまとめ、結果を読み取る。執筆要領をもとに、卒業論文をまとめていく。卒論ポスターを作成し、発表会に参加する。</p> <p>(3) 時間外学習 卒業研究の調査は、基本的に講義外の時間に自分で調整しておこなう。月2回ほど調査に行きデータを収集する。報告のためのレジメ作成、卒業論文の執筆などは基本的に講義外学習となる。</p>			
テキスト・参考文献・資料など	特に指定しない。適宜、卒業研究に関連する論文を紹介する。			
学びの実践	学びの手立て	<p>生きもの相手の調査の場合、とにかく、外へ出ること。億劫がらずに、ダメモトで行動を起こす。そうすると、いずれ結果はついてきます。</p> <p>野外調査は天候や潮に左右されます。アルバイトを入れすぎず、余裕があるスケジュール管理をするようにしてください。調査日には必ず予備日を入れること。</p> <p>ゼミの内容を効果的に学習するために、山川が担当している「環境資源論」と「産業と環境」は、2・3年次のうちに必ず講義を受講すること。</p>		
	評価	<p>遅刻・欠席する場合には、事前に必ず連絡すること。メールによる連絡を受け付ける。</p> <p>単位取得には、3分の2以上の出席、定期的な卒研報告（レジメ）の提出、中間発表の実施、論文執筆、ポスター発表参加が必須である。就職活動による公欠は半期2回までである。</p> <p>評価は平常点（ゼミにおける参加姿勢）20%、卒業研究への取り組み姿勢35%、卒業論文の出来35%、ポスター発表会の取組10%などを総合し実施する。</p>		
学びの継続	次のステージ・関連科目	環境資源論（山川ゼミ必修）、産業と環境（山川ゼミ必修）、生物学Ⅰ・Ⅱ、自然科学概論Ⅰ・Ⅱ、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、など。		

※ポリシーとの関連性

沖縄観光の問題点を明確にしまとめることにより、沖縄の地域経済の将来を展望する力を身につけます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習IV	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘 もえ子	4年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習では、演習IIIで各自が設定したテーマについて、詳細な調査や実装を行い、調査・実装結果に考察を加え、卒業論文をまとめる。演習の時間は、各自の進捗状況を報告してもらい、調査方法や調査内容について、ゼミ生同士で意見交換や議論する時間とする。	メッセージ ゼミでは調査・まとめ・報告・ディスカッションが重要です。自ら積極的に動き、ゼミ内でも活発に交流して下さい。ゼミでわからないことがあれば気軽に相談して下さい。
	到達目標 ・自らが設定したテーマに関して、調査・分析・まとめ・問題解決の提案ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） (1) テーマに関する情報収集 (2) 現地調査 (3) 研究の進捗状況発表 (4) 卒業論文のまとめ
	テキスト・参考文献・資料など テキスト・参考文献は講義時に適宜紹介する。
	学びの手立て 履修の心構え ・今後卒業して社会の一員になるという意識を高く持ち、自ら問題を見つけ解決することができるよう頑張ります。 学びを深めるために ・新聞記事を読むこと、ゼミ生同士のディスカッションが学びを深める助けになります。
	評価 平常点（ゼミ中の取組）20%、卒業論文報告80%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 大学で学んだ事を活かして、社会の一員として活躍して下さい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	4年	メールでお問い合わせください。 t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地域の抱える問題を調査し、定量的な分析によって客観的な問題解決の方法を身につける。	メッセージ 座学での勉強を基に調査・分析を行い実社会で役立つ知識を蓄えましょう。
	到達目標 ・座学によって知識を蓄え、知的好奇心を持つ。 ・調査方法の学習とデータの扱い方について学ぶ。 ・調査結果をまとめて発表を行う。	

学びの準備	到達目標 ・座学によって知識を蓄え、知的好奇心を持つ。 ・調査方法の学習とデータの扱い方について学ぶ。 ・調査結果をまとめて発表を行う。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業計画についての説明	授業計画を確認する
	2	輪読1	授業内容を復習する
	3	輪読1	授業内容を復習する
	4	輪読1	授業内容を復習する
	5	輪読1	授業内容を復習する
	6	輪読2	授業内容を復習する
	7	輪読2	授業内容を復習する
	8	輪読2	授業内容を復習する
	9	輪読2	授業内容を復習する
	10	調査データの扱い1	調査データの内容を確認する
	11	調査データの扱い2	調査データの内容を確認する
	12	調査データの扱い3	調査データの内容を確認する
	13	分析手法の学習1	授業内容を復習する
	14	分析手法の学習2	授業内容を復習する
	15	調査データの分析1	分析内容を確認する
16	調査データの分析2	分析内容を確認する	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適時、参考資料を配布する。
-------	---------------------------------

学びの実践	学びの手立て 授業中に輪読する書籍について図書館を利用することが望ましい。
-------	--

学びの実践	評価 出欠とレポート提出、発表内容で評価を行う。
-------	-----------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 「地域経済Ⅰ・Ⅱ」の知識をフィールドワークを通して実証し、より専門的な分野を学習する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	演習Ⅳ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉 錫畢	4年	簡単な質問はメールで、多い場合にはオフィスアワーを利用すること（研究室5508）	

学びの準備	ねらい 卒業論文を作成することによって報告書の基本を身に付ける。	メッセージ 書く力を鍛える。
	到達目標 問題意識を身に付け、引用及び参考文献の活用方法を学び卒業論文を完成する。	

学びの準備	到達目標 問題意識を身に付け、引用及び参考文献の活用方法を学び卒業論文を完成する。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1週目：卒業論文の作成準備	夏休み中の調査を整理
	2	2週目：夏休み中の調査内容を中間報告1	テーマ別で報告準備
	3	3週目：夏休み中の調査内容を中間報告2	テーマ別で報告準備
	4	4週目：夏休み中の調査内容を中間報告3	テーマ別で報告準備
	5	5週目：夏休み中の調査内容を中間報告4	テーマ別で報告準備
	6	6週目：夏休み中の調査内容を中間報告5	テーマ別で報告準備
	7	7週目：卒業論文テーマを決定し討論をさらに深める1	卒業生の論文を読む
	8	8週目：卒業論文テーマを決定し討論をさらに深める2	卒業生の論文を読む
	9	9週目：卒業論文テーマを決定し討論をさらに深める3	卒業生の論文を読む
	10	10週目：役員を中心に卒業論文集の編集1	論文集作成
	11	11週目：役員を中心に卒業論文集の編集2	論文集作成
	12	12週目：卒論のプレゼンテーション1	卒論発表のリハーサル
	13	13週目：卒論のプレゼンテーション2	卒論発表のリハーサル
	14	14週目：卒論の編集及び校正1	印刷会社と調整
	15	15週目：卒論の編集及び校正2	印刷会社と調整
16	16週目：卒業論文の完成	総括	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 参考文献として ①小林・船曳編（1994）『知の技法』、東京大学出版会。 ②植田和弘（1998）『環境経済学への招待』、丸善ライブラリー。 ③呉錫畢（2006）『環境・経済と真の豊かさ』、日本経済評論社。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 従来の卒業論文を読み、実際に自分の論文を作成する。
-------	-------------------------------------

学びの実践	評価 卒業論文をパネルプレゼンし、論文の質で評価する。
-------	--------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 論文とは何か、論文の作法を身に付ける。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄経済論 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。</p>	<p>「沖縄に住んでいるのに、沖縄のことを知らない」という受講後の感想が多く寄せられます。「汝の足元を深く掘れ」（Nietzsche＝ニーチェ）という言葉があります。足元にある事実を掘り下げ、真実を探求する。「沖縄」を徹底的に研究することで、世界を知るノウハウ、手法を入手できます。</p>
到達目標	<p>1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の概要解説・受講の注意・評価方法の説明	沖縄経済の特徴について整理
2	沖縄県経済の概況	沖縄の人口の特徴	
3	沖縄県の人口の推移と経済発展	少子高齢化の原因と対策を調査分析	
4	労働力人口の変動と地域経済	なぜ沖縄は高失業県になったのか。	
5	完全失業率の推移と雇用・失業問題（なぜ沖縄の高失業率は改善できなかったのか）	沖縄の「格差社会」の要因とは	
6	沖縄経済の所得分配構造と所得水準	所得分配構造分析	
7	「自立経済」論と域外収支バランス分析（県外受取と県外支出）	収支バランスの分析	
8	農林水産業の現状と課題（キビ経済から健康食品経済へ）	農林水産業の推移と分析手法の習得	
9	畜産業の課題と可能性（ブランド豚あぐーとブランド牛の時代）	急成長する畜産業の特徴と課題分析	
10	製造業の特徴と課題（モノづくり産業の課題と可能性）	沖縄における「製造業」の特徴分析	
11	建設業と公共投資（ザル経済の構造分析）	ケインズ経済学と沖縄経済の分析	
12	沖縄県の商業（商店数と従業者、年間販売額の分析）	開業率と廃業率にみる商業分析	
13	観光産業の課題と展望	沖縄観光の高付加価値戦略分析	
14	情報通信産業の特徴と展望	ICTの利点と弱点の分析	
15	国際物流とアジア経済戦略構想	アジア経済戦略の狙いと実態	
16	沖縄経済経済論 I の総括	沖縄経済の課題と展望Report	
テキスト・参考文献・資料など	<p>沖縄県企画部『経済情勢（平成29年度版）』2018年8月、前泊博盛『もっと知りたい！本当の沖縄』2008年、岩波書店、百瀬恵夫・前泊博盛著『検証沖縄問題』東洋経済新報社、2002年</p>		
学びの手立て	<p>講義皆出席を。毎講義時のリアクション・ペーパーは、口述筆記能力と文章力を高め、講義内容の整理に役立ちます。出席確認にもなります（毎回執筆提出）。</p>		
評価	<p>毎回提出するリアクション・ペーパーの内容を基に出席点を加点します。期末、中間のレポート提出で、調査・分析能力を評価して、成績に反映させます。4回欠席で不可になります。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>島嶼経済論 I II、琉球・沖縄経済史を並行して受講すると、より理解が深まります。その先の専門教育となる大学院地域産業研究科「沖縄経済特集講義」「沖縄経済特殊研究 I II」で、沖縄経済の個別具体的な課題研究と経済理論分析に挑戦してください。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖繩経済論Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	沖繩経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖繩県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖繩県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。	「沖繩に生まれ、沖繩に住んでいるのに、沖繩のことを知らない」という受講後の感想が多く寄せられます。「汝の足元を深く掘れ」（Nietzsche=ニーチェ）という言葉があります。足元にある事実を掘り下げ、真実を探求する。「沖繩」を徹底的に研究することで、「世界」を知るノウハウ、手法を入手できます。

到達目標
1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沖繩経済論Ⅱの講義概要ガイダンス	総論から各論への流れの整理
	2	基地経済①＝3K経済（戦後沖繩経済の概況）	3K経済の生成過程に関する整理
	3	基地経済②＝米軍基地と沖繩経済（3K経済の推移と軍事経済）	基地経済の特徴を学ぶ
	4	基地経済③＝基地依存経済の課題と処方箋（基地依存経済の生成と地域経済）	軍事経済の特徴を学ぶ
	5	基地経済④＝基地返還跡地利用の特徴と課題（跡地利用分析学）	跡利用の手法と結果を整理する
	6	基地経済⑤＝軍用地料と返還跡地利用（軍用地借料の政治経済学）	軍用地借料の動きと沖繩経済
	7	基地経済⑥＝基地従業員と基地返還問題（雇用と基地）	雇用と基地存続の関係性とは
	8	沖繩振興①＝沖繩振興開発計画と沖繩経済	沖繩振興開発計画の概要をつかむ
	9	沖繩振興②＝沖繩振興計画と21世紀ビジョンの経済効果分析	「開発」なき振興計画とは？
	10	沖繩振興③＝国際都市形成構想と基地返還アクションプログラムの検証	国際都市沖繩構想が目指したもの
	11	沖繩振興④＝産業創造アクションプログラムと「脱基地経済」	脱基地経済とは
	12	アジア経済戦略構想と沖繩経済①	アジア経済発展の要因は？
	13	アジア経済戦略構想と沖繩経済②	アジアの中の沖繩とは？
	14	沖繩新10K経済論	新10K経済とは？
15	沖繩経済論Ⅱの総括	新10K経済の課題と展望総括	
16			

テキスト・参考文献・資料など
沖繩県企画部『経済情勢（平成29年度版）』2018年8月、前泊博盛『もっと知りたい！本当の沖繩』2008年、岩波書店、百瀬恵夫・前泊博盛著『検証沖繩問題』東洋経済新報社、2002年

学びの手立て
講義皆出席を。毎講義時のアクション・ペーパーは、口述筆記能力と文章力を高め、講義内容の整理に役立ちます。出席確認にもなります（毎回執筆提出）。

評価
毎回提出するアクション・ペーパーの内容を基に出席点を加点します。期末、中間のレポート提出で、調査・分析能力を評価して、成績に反映させます。4回欠席で不可になります。

学びの継続
次のステージ・関連科目 島嶼経済論ⅠⅡ、琉球・沖繩経済史を並行して受講すると、より理解が深まります。その先の専門教育となる大学院地域産業研究科「沖繩経済特集講義」「沖繩経済特殊研究ⅠⅡ」で、沖繩経済の個別具体的な課題研究と経済理論分析に挑戦してください。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄社会統計セミナー	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-安里 長従	2年	Eメールにて受付します toogoo-asato@woody.ocn.ne.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄の深刻な経済状況や貧困の問題は、県民性や文化などの「沖縄論」として語られることが多い。しかし、これらの問題は戦後から現在に至る沖縄社会の構造的な問題に起因する。各種統計の見方、分析方法の理解を通して、構造的要因を明らかにし、沖縄の貧困・雇用・経済、そして基地問題の解決の道筋を探るとともに、これからの沖縄を形成するための自己決定や社会参加について考える。</p>	<p>本や新聞記事、インターネット等、日常生活にあふれる情報を鵜呑みにせず、常に「疑い」の目をもって、正しい知識と分析により真実を追及する力を養って欲しい。社会構造の帰結として沖縄の貧困や経済の脆弱性、基地問題を語るのではなく、それらを出発点として、社会を考える力を身につけてほしい。</p>
到達目標	<p>・戦後から現在に至る沖縄の構造的問題を踏まえながら、現代の「社会的排除」概念から定義付けられる貧困に関する議論の本質を理解し、「自己決定」とは何か、市民社会の個人としての自由の実質性の確保がなぜ必要なのか、歴史的・世界的な視点を踏まえ、現在の沖縄の経済問題、貧困問題、基地問題を捉え直し、未来の沖縄をどうつくるのか、沖縄の未来をどう生きるのか、沖縄における諸問題の解決方法を構築する知識を習得する。</p> <p>・各種統計の見方、分析の仕方を学び、沖縄経済・貧困問題の現状と課題を理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義概要、評価方法等 -	講義概要、その他資料を熟読
	2	沖縄の経済・貧困問題の現状、その影響、こどもを取り巻く環境	講義資料の復習と次回の予習
	3	真実を覆い隠す統計の引用① ~劣位性の強調、沖縄論	〃
	4	真実を覆い隠す統計の引用② ~統計から導かれる真実①	〃
	5	真実を覆い隠す統計の引用③ ~統計から導かれる真実②	〃
	6	真実を覆い隠す統計の引用④ ~小括	〃
	7	沖縄の経済・貧困問題の背景と構造的問題①～戦前から戦後の経過	〃
	8	沖縄の経済・貧困問題の背景と構造的問題②～復帰後から現在	〃
	9	沖縄の経済・貧困問題の背景と構造的問題③～構造的問題を紐解く	〃
	10	沖縄の経済・貧困問題の背景と構造的問題④～小括	〃
	11	貧困の定義・概念、自己責任論・沖縄論と対峙する	〃
	12	沖縄の経済・貧困問題と基地問題① ~経済、貧困、基地の関係	〃
	13	沖縄の経済・貧困問題と基地問題② ~県民投票からみえた構造的問題、小括	〃
14	見えてくる課題、その解決策①	レポート準備	
15	見えてくる課題、その解決策② ~総括	レポート準備	
16	レポート提出	レポートの読み返し	
テキスト・参考文献・資料など	<p>「沖縄発新しい提案—辺野古新基地を止める民主主義の実践（ボーダーインク）」。その他参考になる文献は適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>沖縄の最新状況を知るために、書籍、新聞記事、インターネット記事等を読むこと、また、これらの根拠となっている文献、データ、統計資料にあたることを薦める。</p>		
評価	<p>小レポート（50%）と期末レポート（50%）を総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>物事を整理、分析する方策を学び、これから社会人として対峙する様々な問題に対して解決する能力を習得することができる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の経済事情 I	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	_沖縄の経済事情 I 教	1 年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄県内の金融業界に関する業界研究・業界分析。	メッセージ 【実務経験】金融系企業14社の社員が、勤務経験に基づき自社の特徴・具体的業務内容・業界事情・自身の職歴等について解説する。 金融業界に興味がある学生・就職希望の学生にお勧めします。 履修登録の対象は、「全学部1～3年生」。ただし定員超過の場合は経済学部3年生・2年生を優先する。
	到達目標 金融業界における業務の多様性を理解する。金融系企業の特徴を理解した上で、多数の企業に積極的に就職活動を行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・金融業界の基礎知識	<全回共通>
	2	銀行1	・新聞ニュースで金融経済を学ぶ
	3	信金	・可能な範囲で客として、
	4	損害保険会社1	金融系企業を利用し内部観察する
	5	銀行2	<全回共通>を行う
	6	銀行系研究所	<全回共通>を行う
	7	証券会社	<全回共通>を行う
	8	日本銀行	<全回共通>を行う
	9	銀行3・中間レポート提出	<全回共通>を行う
	10	保証会社	<全回共通>を行う
	11	損害保険会社2	<全回共通>を行う
	12	リース会社	<全回共通>を行う
	13	銀行4	<全回共通>を行う
	14	損害保険会社3	<全回共通>を行う
	15	銀行系カード会社	<全回共通>を行う
	16	期末レポート提出	<全回共通>を行う
	テキスト・参考文献・資料など 毎回資料を配布する。テキストなし。		
	学びの手立て 社会人講師による貴重な講義であることを理解し、真剣に取り組む、記録すること。 資料や記録は大切に保存し、就職活動時に役立ててほしい。 毎回、小レポートを記述し提出すること。		
	評価 平常点20%、提出物(小レポート、中間レポート、期末レポート)80%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「金融論 I・II」「証券市場論 I・II」「金融投資 I・II」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の経済事情Ⅱ	後期	土3・4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	_沖縄の経済事情Ⅱ教	1年	itukoアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 金融の理論と実務を学ぶ。	メッセージ この授業は寄付講座で、県内5大学の教員・学生と一緒に学びます。金融機関への就職を強く望み、時間外のグループ学習についても積極的に取り組む意志を持った者のみ受講して下さい。 【実務経験を活かした授業を展開する】 ※受講対象：経済学部3年次が望ましい。
	到達目標 金融論の基礎的な理論および実務について説明できる。グループで金融に関連するテーマについて発表できる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>下記のとおり、場所や日にちがイレギュラーですのでご注意ください。 土曜日の3, 4時限目に行います。 ①～⑯は回数を示します。</p> <p>(1) 10/5 キリスト教学大学 南3-5教室 ①ガイダンス②金融と経済について (2) 10/12 キリスト教学大学 南3-5教室 ③貨幣について④日本銀行による講演 (3) 10/19 沖縄国際大学 5-311教室 ⑤保険の基礎⑥大同火災にうよる講演 (4) 11/16 沖縄国際大学 5-311教室 ⑦金融機関の種類⑧グループワーク (5) 11/30 沖縄大学 3-305教室 ⑨大和証券による講演⑩中間発表会 (6) 12/7 琉球大学 法文新棟111 ⑪金融政策⑫グループワーク (7) 12/14 琉球大学 法文新棟111 ⑬沖縄銀行による講演⑭グループワーク (8) 12/21 沖縄国際大 5-311教室 ⑮最終発表会⑯OBOGとの情報交換会</p> <p>※上記時間外に、グループ発表に向けて教員やメンバーとの打ち合わせを行います。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：指定しない。毎回資料を配布する。参考文献：『金融入門』岩田規久男(著) 東洋経済新報社 2008年、『図解これだけでわかる日本の金融』家森信善(著) 東洋経済新報社2006年、『金融のしくみ』ビックベン(編)ダイヤモンド社2003年、『金融システム』酒井良清・鹿野義昭(著)有斐閣アルマ2011年など。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>授業は毎週実施ではなく土曜日3,4時限目集中で、上記のスケジュールになります。変更が生じる場合もあるので、メール連絡等を確認してください。</p>
評価	グループ発表（50%）＋レポート（50%）。原則として皆出席を求めます。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>「金融論ⅠⅡ」「証券市場論ⅠⅡ」「沖縄の経済事情Ⅰ（寄付講座）」</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境アセスメント I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 武	3年	takeshiアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 道路建設、港湾建設、ダム建設等の各種開発事業の実施による環境への影響を事前に予測評価して、その対策を検討することが良好な環境を保全し、持続可能な開発を行うために、必要不可欠となっている。環境アセスメントIでは、このような環境影響評価の実施に関連する法律、現地調査手法、予測評価手法等について学ぶ。	メッセージ 環境アセスメントの基礎を解説します。現代社会においてよく話題になる環境アセスメントについて、この授業で学びましょう。授業では環境コンサルタント（技術士）としての経験に基づく実務的な内容についても取り扱います。
	到達目標 環境アセスメントについての基礎知識を得ることによってメディアなどで報じられる環境アセスメントに関する話題を理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 講義概要 1 週目 2. 環境アセスメントに関する法律（環境影響評価法、県条例など） 2 週目～3 週目 3. 環境影響評価項目（大気質、水質、騒音、振動等）毎の調査及び予測評価手法 3 週目～1 5 週目 4. 1 6 週目期末テスト 時間外学習：2～3 週目は環境影響評価に関連した法律や沖縄県条例について事前学習を行うこと。4～1 5 週目は環境影響評価項目（大気質、水質、騒音、振動等）について現況調査及び影響予測手法について事前学習を行うこと。また、全ての週において講義終了後に事前学習と講義で得た知識を整理すること。さらに、常日頃から開発事業に伴う環境アセスメント調査について注目するように務めること。
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。 参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。
	学びの手立て 身近な環境関連の問題などに興味をもって考える習慣を身につけましょう。毎回出欠確認を行います。やむをえず欠席する場合は事前か事後に欠席届を提出してください。
	評価 レポート（50%）、試験（30%）、授業参加度（20%）などを総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 環境アセスメント II
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境アセスメントⅡ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 武	3年	takeshiアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 環境アセスメントⅠでは、環境影響評価の実施に関連する法律、現地調査手法、予測評価手法等について講義を行ったが、環境アセスメントⅡでは環境影響評価事例について紹介する。	メッセージ 環境アセスメントの基礎を解説します。現代社会においてよく話題になる環境アセスメントについて、この授業で学びましょう。授業では環境コンサルタント（技術士）としての経験に基づく実務的な内容についても取り扱います。
	到達目標 環境アセスメントについての基礎知識を得ることによってメディアなどで報じられる環境アセスメントに関する話題を理解できるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 1週目 2. 環境影響評価項目毎（大気質、水質、騒音、振動等）の調査及び予測評価手法の事例紹介 2～15週目 3. 期末テスト 16週目 <p>時間外学習：時間外学習：2～15週目は今回の環境影響評価調査の事例となっている与那国空港拡張計画について各環境影響評価項目（大気質、水質、騒音、振動等）について現況調査及び影響予測について事前学習を行うこと。参考資料として講義で使用するプレゼンファイルを入手する。また、全ての週において講義終了後に事前学習と講義で得た知識を整理すること。さらに、常日頃から開発事業に伴う環境アセスメント調査について注目するように務めること。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは指定しない。 参考文献は適宜紹介する。また、参考資料は適宜配布する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>身近な環境関連の問題などに興味をもって考える習慣を身につけましょう。毎回出欠確認を行います。やむをえず欠席する場合は事前か事後に欠席届を提出してください。環境アセスメントⅠを受講済みであることが望ましいです。</p>
	<p>評価</p> <p>レポート（50%）、試験（30%）、授業参加度（20%）などを総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>環境アセスメントⅠ</p>
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境会計	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-船越 沙香	3年	e-mailにて受付致します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>近年、企業が環境保全への取組を環境会計として表現することにより、利害関係者が企業等の姿勢や取組を正しく理解し、評価、支援することが社会的責任になっています。そこで本講義では環境会計の概要等を学び、企業がどのような環境会計への取組を行っているかを学習します。</p>	<p>企業活動が自然資源に重要な影響を与えており、自然環境を保護し持続可能な開発を推進することが、企業の長期的存続の基礎となる。授業はレジュメを配布します。環境会計について興味を持って参加して下さい。</p>

到達目標	<p>環境会計についての基礎的知識と企業の社会的責任について、様々な視点から理解することが可能となる。また、ケーススタディを通して、企業の環境会計に対する取り組みを理解する。環境会計の大切さがわかってもらえたら嬉しい。</p>
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読む
	2	環境会計ガイドラインの概要①	授業時に配布する文献を読む
	3	環境会計ガイドラインの概要②	授業時に配布する文献を読む
	4	環境会計の定義	授業時に配布する文献を読む
	5	環境会計の機能と役割	授業時に配布する文献を読む
	6	環境会計の一般的要因	授業時に配布する文献を読む
	7	環境報告ガイドラインの概要①	授業時に配布する文献を読む
	8	環境報告ガイドラインの概要②	授業時に配布する文献を読む
	9	内部機能と外部機能	授業時に配布する文献を読む
	10	ケーススタディ	授業時に配布する文献を読む
	11	排出量取引及び土壌汚染の会計	授業時に配布する文献を読む
	12	CSR	授業時に配布する文献を読む
	13	世界の環境会計	授業時に配布する文献を読む
	14	統合報告書	授業時に配布する文献を読む
15	総括	総合的な復習①	
16	予備日	総合的な復習②	

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>環境省の資料および特定企業のCSR・環境報告書等を活用するため用意するものではありません。筆記用具をお持ちください。</p>
-------	---

学びの手立て	<p>2/3以上の出席がない場合は不可とします。出席は講義終了前にまとめテストを行うのでまとめテスト提出にて出席確認します。やむを得ず欠席する場合は学籍番号、名前、欠席理由を記入の上、事前にメール送付して下さい。</p>
--------	--

評価	<p>平常点：45点、レポート：55点</p>
----	-------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>環境経営の履修をすることが望ましい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境科学実験	後期	火3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	齋藤 星耕	1年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	環境科学の履修過程において環境の現況把握に必要な現況観測は必要不可欠な事項だと考えられる。環境科学実験においては環境要素の中で最も基本的な項目である水質、騒音についての測定方法を習得するとともに、結果の取りまとめ方法を学ぶ。今後の環境問題とその対策を考える上で重要な、再生可能エネルギーに関連する実験を行う。	実験を行うことによって環境科学がより深く理解できるようになります。
到達目標	環境科学に関連した実験について理解し実施することが出来るようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 配布資料を読む	配布資料を読む
	2	水質分析(1): 水素イオン指数(pH) (1) 座学、パックテスト	配布資料を読む、 レポート作成
	3	水質分析(2): 水素イオン指数(pH) (2) 電位差法	配布資料を読む、 レポート作成
	4	実験レポートの書き方	配布資料を読む、 レポート作成
	5	水質分析(3): 溶存酸素量(DO) (1) 座学、パックテスト、隔膜電極法	配布資料を読む、 レポート作成
	6	水質分析(4): 溶存酸素量(DO) (2) ウィンクラー法	配布資料を読む、 レポート作成
	7	水質分析(5): 化学的酸素要求量(COD) (1) 座学、パックテスト	配布資料を読む、 レポート作成
	8	水質分析(6): 化学的酸素要求量(COD) (2) 過マンガン酸カリウム法	配布資料を読む、 レポート作成
	9	水質分析(7): 浮遊物質(1) 浮遊物質(SS)	配布資料を読む、 レポート作成
	10	水質分析(8): 浮遊物質(2) 底質中懸濁物質含量(SPSS)	配布資料を読む、 レポート作成
	11	再生可能エネルギー: 座学、太陽光発電、燃料電池	配布資料を読む、 レポート作成
	12	騒音測定: 座学、校内の騒音測定	配布資料を読む、 レポート作成
	13	校外調査(1): 騒音測定または水質調査	配布資料を読む、 レポート作成
14	校外調査(2): 騒音測定または水質調査	配布資料を読む、 レポート作成	
15	総括	配布資料を読む、 レポート作成	
16			
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。 参考文献は適宜紹介する。また参考資料は適宜配布する。		
	学びの手立て 学びの手立て 実験は実際に行うことが重要です、欠席は極力避けてください。万が一欠席した場合においても他の学生の実験データを使って考察、レポート作成を行ってください。		
	評価 レポート、出席状況・貢献などを総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 環境科学 I & II、環境アセスメント I & II
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境科学実験	後期	火3・4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	齋藤 星耕	1年	5号館520室 s.saitoh@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	環境科学の履修過程において環境の現況把握に必要な現況観測は必要不可欠な事項だと考えられる。環境科学実験においては環境要素の中で最も基本的な項目である水質、騒音についての測定方法を習得するとともに、結果の取りまとめ方法を学ぶ。今後の環境問題とその対策を考える上で重要な、再生可能エネルギーに関連する実験を行う。	実験を行うことによって環境科学がより深く理解できるようになります。
到達目標	環境科学に関連した実験について理解し実施することが出来るようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	配布資料を読む
	2	水質分析(1): 水素イオン指数(pH) (1) 座学、パックテスト	配布資料を読む、 レポート作成
	3	水質分析(2): 水素イオン指数(pH) (2) 電位差法	配布資料を読む、 レポート作成
	4	実験レポートの書き方	配布資料を読む、 レポート作成
	5	水質分析(3): 溶存酸素量(DO) (1) 座学、パックテスト、隔膜電極法	配布資料を読む、 レポート作成
	6	水質分析(4): 溶存酸素量(DO) (2) ウィンクラー法	配布資料を読む、 レポート作成
	7	水質分析(5): 化学的酸素要求量(COD) (1) 座学、パックテスト	配布資料を読む、 レポート作成
	8	水質分析(6): 化学的酸素要求量(COD) (2) 過マンガン酸カリウム法	配布資料を読む、 レポート作成
	9	水質分析(7): 浮遊物質(1) 浮遊物質(SS)	配布資料を読む、 レポート作成
	10	水質分析(8): 浮遊物質(2) 底質中懸濁物質含量(SPSS)	配布資料を読む、 レポート作成
	11	再生可能エネルギー: 座学、太陽光発電、燃料電池	配布資料を読む、 レポート作成
	12	騒音測定: 座学、校内の騒音測定	配布資料を読む、 レポート作成
	13	校外調査(1): 騒音測定または水質調査	配布資料を読む、 レポート作成
14	校外調査(2): 騒音測定または水質調査	配布資料を読む、 レポート作成	
15	総括	配布資料を読む、 レポート作成	
16			
テキスト・参考文献・資料など			
テキストは特に指定しない。 参考文献は適宜紹介する。また参考資料は適宜配布する。			
学びの手立て			
実験は実際に行うことが重要です、欠席は極力避けてください。万が一欠席した場合においても他の学生の実験データを使って考察、レポート作成を行ってください。			
評価			
レポート、出席状況などを総合的に評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 環境科学 I & II、環境アセスメント I & II
-------	--

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、実体験できる科目を提供。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境教育論	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	砂川 かおり	2年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>湿地の価値を伝え、ラムサール条約の重要な柱であるCEPA（コミュニケーション・能力養成・教育・参加・普及啓発）活動を担える知識と技術を身に着ける。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湿地の価値を理解し、ラムサール条約の3つの重要な要素、保全、ワイズユース、CEPAについて説明できるようになる。 ・沖縄市の泡瀬干潟を事例として、湿地の機能、環境や生物相の概要を説明できるようになる。 ・実際に、室内や野外での授業を計画し、実施できるようになる。 	<p>フィールドワークが多いです。土曜日や日曜日にもフィールドに出かけますので、受講希望者は日程調整をしっかりと行ってください。</p>

学びの準備	到達目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・湿地の価値を理解し、ラムサール条約の3つの重要な要素、保全、ワイズユース、CEPAについて説明できるようになる。 ・沖縄市の泡瀬干潟を事例として、湿地の機能、環境や生物相の概要を説明できるようになる。 ・実際に、室内や野外での授業を計画し、実施できるようになる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業概要説明・湿地の役割について（4/9）	シラバスをよく読む
	2	干潟観察（4/20 9時30分～12時、泡瀬干潟）（予定）	レポート①作成・提出
	3	バードウォッチング シギ・チドリ類（4/20 13～16時、比屋根湿地・泡瀬干潟）	レポート②作成・提出
	4	漫湖水鳥・湿地センター 見学（4/23 予定）	レポート③作成・提出
	5	講話「湿地教育の授業について」（5/14）	レポート④作成・提出
	6	授業担当のグループ分け、説明、授業計画・役割分担・準備（1）（5/21）	模擬授業①の準備
	7	模擬授業①とコアジサシ探鳥会（5/25 14時～15時30分、泡瀬干潟）	レポート⑤作成・提出
	8	模擬授業①とコアジサシ探鳥会（5/25 15時30分～17時、泡瀬干潟）	レポート⑥作成・提出
	9	各グループで練習 授業の準備（2）（5/28）	模擬授業②の準備
	10	模擬授業②（6/11）	教室での授業③準備
	11	授業③：小学生2年生向けの座学（6月18日予定）	レポート⑦作成・提出
	12	各グループで練習 授業の準備（3）（6/25）	模擬授業④の準備
	13	模擬授業④（7/2）	野外授業⑤準備
	14	小学生2年生向けの野外授業⑤（7月7日（日）予定）	レポート⑧作成・提出
15	自己評価・ふりかえり（7/16）	全講義のふりかえりをする	
16	まとめ・授業評価アンケート（7/23）	関連科目について調べる	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>テキストは指定しない。随時資料を配布する。</p> <p>参考文献は、適宜紹介する。</p>

学びの実践	学びの手立て
	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を受講し、課題がある場合は回答し、提出すること。或いは、実践すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・欠席する場合は必ず、欠席届を提出すること。 ・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。

学びの実践	評価
	<p>1/3以上欠席の者は不可。</p> <p>評価配分：レポート①～⑧：40%、模擬授業①：10%、模擬授業②、④：10%、授業③、⑤：40%。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
	「環境政策論I」・「環境政策特別講義I（開発と環境）」・「演習I（砂川ゼミ）」

※ポリシーとの関連性

全講義終了後に任意企業の環境経営の取組についてレポート提出をさせていただきます。その課程で研究し分析する力を身につけます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境経営	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-船越 沙香	3年	e-mailにて受付致します。	

学びの準備	ねらい 環境経営の概要等を知り、企業が環境経営への取組をどのように行っているか、どのように社会的責任を果たしているかを学習します。	メッセージ 企業活動が自然資源に重要な影響を与えており、自然環境を保護し持続可能な開発を推進することが、企業の長期的存続の基礎となる。授業はレジュメを配布します。環境経営について興味を持って参加して下さい。
	到達目標 環境経営についての基礎的知識と企業の社会的責任について、様々な視点から理解することが可能となる。また、ケーススタディを通して、企業の環境経営に対する取り組みを理解する。環境経営の大切さがわかってもらえたら嬉しい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読む
	2	環境報告の位置づけと環境省のガイドライン	授業時に配布する文献を読む
	3	環境報告の概要①	授業時に配布する文献を読む
	4	環境報告の概要②	授業時に配布する文献を読む
	5	環境報告の概要③	授業時に配布する文献を読む
	6	環境報告の概要④	授業時に配布する文献を読む
	7	環境報告の概要⑤	授業時に配布する文献を読む
	8	環境報告の概要⑥	授業時に配布する文献を読む
9	企業の取組①	授業時に配布する文献を読む	
10	企業の取組②	授業時に配布する文献を読む	
11	企業の取組③	授業時に配布する文献を読む	
12	エコアクション21①	授業時に配布する文献を読む	
13	エコアクション21②	授業時に配布する文献を読む	
14	沖縄国際大学の取組	授業時に配布する文献を読む	
15	総括	総合的な復習①	
16	予備日	総合的な復習②	
テキスト・参考文献・資料など 環境省の資料および特定企業のCSR・環境報告書等を活用するため用意するものではありません。筆記用具をお持ちください。			
学びの手立て 2/3以上の出席がない場合は不可とします。出席は講義終了前にまとめテストを行うのでまとめテスト提出にて出席確認します。やむを得ず欠席する場合は学籍番号、名前、欠席理由を記入の上、事前にメール送付して下さい。			
評価 出席：50点、レポート：50点			

学びの継続	次のステージ・関連科目 環境会計の履修をすることが望ましい。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境経済学 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉 錫畢	2年	メール (sukpil@okiu.ac.jp) で簡略に書いて、研究室に来ること。	

学びの準備	ねらい 地球温暖化の問題がかつてなく大きくクローズアップされている今日である。何が地球環境問題をもたらしたのか。経済要因なきには語れない環境問題であるが、経済成長への優先は環境の犠牲をもたらす。環境を重視すれば経済成長の停滞を感受しなければならない。つまり経済成長と環境保全は効率と公正との緊張関係にある。このような問題意識に基づいて、環境経済学を理解する。	メッセージ 環境と経済！ 豊かさの観点より悩んでみる。
	到達目標 ①環境問題はなぜ起こっているのか、疑問を持つ。 ②環境問題と経済との関わりを地域から探る。 ③環境と経済のメカニズムを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1週目：環境と経済の話 1	第三の波の本を読む
	2	2週目：環境と経済の話 2	第三の波の本を読む
	3	3週目：沖縄経済と地域発展	資料を配り読んでもらう
	4	4週目：環境破壊の経済的メカニズム	資料を配り読んでくる
	5	5週目：市場と外部経済 1	資料を配り読んでくる
	6	6週目：市場と外部経済 2	資料を配り読んでくる
	7	7週目：環境の経済的価値の概念	サンゴ礁の価値を考えてもらう
	8	8週目：環境の価値評価の手段 1	サンゴ礁の価値を考えてもらう
	9	9週目：環境の価値評価の手段 2	環境の価値対象を探す
	10	10週目：開発と社会的共通資本 1	環境の価値対象を探す
	11	11週目：開発と社会的共通資本 2	赤土汚染地域を調べるレポート
	12	12週目：環境政策の手段	赤土汚染地域を調べるレポート
	13	13週目：赤土汚染から見る沖縄の地域振興と開発	赤土汚染地域を調べるレポート
	14	14週目：赤土汚染による生態系破壊	赤土汚染地域を調べるレポート
	15	15週目：赤土汚染の損害評価と環境政策	赤土汚染地域を調べるレポート
	16	16週目：期末テスト	総括
	テキスト・参考文献・資料など		
	呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説一』、日本経済評論社。 (1) 呉錫畢 (1999) 『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。 (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。 (3) その他、テーマに添って随時に資料を配布する。		
	学びの手立て	地域社会における環境と経済との関連性に関するレポートを作成。	
	評価	期末試験 (40%)、レポート (40%)、出欠 (20%) を中心に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 環境経済学 II を理解するための環境経済学の基礎を磨く。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境経済学 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉 錫畢	2年	メール (sukpil@okiu.ac.jp) で簡略に書いて、研究室に来ること。	

学びの準備	ねらい 地球温暖化の問題がかつてなく大きくクローズアップされている今日である。何が地球環境問題をもたらしたのか。経済要因なきには語れない環境問題であるが、経済成長への優先は環境の犠牲をもたらす。環境を重視すれば経済成長の停滞を感受しなければならない。つまり経済成長と環境保全は効率と公正との緊張関係にある。このような問題意識に基づいて、環境経済学を理解する。	メッセージ 環境と経済！ 豊かさの観点より悩んでみる。
	到達目標 ①環境問題はなぜ起こっているのか、疑問を持つ。 ②環境問題と経済との関わりを地域から探る。 ③環境と経済のメカニズムを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1週目：環境と経済の話1	第三の波の本を読む
	2	2週目：環境と経済の話2	第三の波の本を読む
	3	3週目：沖縄経済と地域発展	資料を配り読んでくる
	4	4週目：環境破壊の経済的メカニズム	資料を配り読んでくる
	5	5週目：市場と外部経済1	資料を配り読んでくる
	6	6週目：市場と外部経済2	資料を配り読んでくる
	7	7週目：環境の経済価値の概念	サンゴ礁の価値を考えてもらう
	8	8週目：環境の価値評価の手段1	サンゴ礁の価値を考えてもらう
	9	9週目：環境の価値評価の手段2	環境の価値対象を探す
	10	10週目：開発と社会的共通資本1	環境の価値対象を探す
	11	11週目：開発と社会的共通資本2	赤土汚染地域を調べるレポート
	12	12週目：環境政策の手段	赤土汚染地域を調べるレポート
	13	13週目：赤土汚染から見る沖縄の地域振興と開発	赤土汚染地域を調べるレポート
	14	14週目：赤土汚染による生態系破壊	赤土汚染地域を調べるレポート
	15	15週目：赤土汚染の損害評価と環境政策	赤土汚染地域を調べるレポート
	16	16週目：期末テスト	総括
	テキスト・参考文献・資料など (1) 呉錫畢 (2008) 『環境・経済と真の豊かさ』、日本経済評論社。 (2) 植田和弘 (1997) 『環境経済学』、岩波新書。 (3) その他、テーマに添って随時に資料を配布する。		
	学びの手立て 地域社会における環境と経済との関連性に関するレポートを作成。		
	評価 期末試験 (40%)、レポート (40%)、出欠 (20%) を中心に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 環境経済学 II を理解するための環境経済学の基礎を磨く。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境経済学Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉 錫畢	2年	メール (sukpil@oku.ac.jp) で簡略に書いて、研究室に来ること。	

学びの準備	ねらい 本講義は、沖縄のサンゴ礁の持つ生態系や景観のような自由財の非利用価値を測り、地域経済の発展や豊かさの観点より環境経済学の視点より概説する。自然の尊さを沖縄サンゴ礁の貨幣評価で表現し、沖縄観光経済の現在と将来を診断するとともに、さらに沖縄文化でもあるテーゲーの経済学化を試み、真の豊かさとは何かについて考察する。	メッセージ 豊かさとは何か、環境と経済から考えてみる。
	到達目標 環境と地域経済との関係から課題を発見し、その解決策を探る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1週目：環境はいくらか	環境と経済のメカニズム復習
	2	2週目：CVM(仮想市場評価法)	環境の価値対象を探す
	3	3週目：沖縄におけるサンゴ礁の現状	環境の価値対象を探す
	4	4週目：サンゴ礁の生態系及び景観の経済評価	環境の経済評価事例を読む
	5	5週目：サンゴ礁と環境経済	サンゴ礁の一般的な知識を読む
	6	6週目：サンゴ礁と沖縄地域経済	サンゴ礁の一般的な知識を読む
	7	7週目：竹富島とピノキオ観光	竹富島の観光と地域経済を考える
	8	8週目：アイルランド・濟州島の環境・観光と沖縄	離島の環境と経済の事例を紹介
	9	9週目：環境経済学からみる沖縄の環境1（コモンズとして白保）	離島のエネルギー事情を読む
	10	10週目：環境経済学からみる沖縄の環境2（宮古島の再生可能エネルギー）	離島のエネルギー事情を読む
	11	11週目：環境経済学からみる沖縄の環境3（奄美群島の再生可能エネルギー）	離島のエネルギー事情を読む
	12	12週目：沖縄の再生可能エネルギーとCOP21（パリ協定）	京都議定書の概念を読む
	13	13週目：内発的発展による沖縄経済と環境	パリ協定の概念を読む
	14	14週目：環境・経済・沖縄	パリ協定と日本を考える
15	15週目：真の豊かさとテーゲー経済学	パリ協定と沖縄を考える	
16	16週目：期末テスト	総括	
	テキスト・参考文献・資料など 呉錫畢（2008）『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説一』、日本経済評論社。 (1) 呉錫畢（1999）『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。 (2) 植田和弘（1997）『環境経済学』、岩波新書。 (3) その他、テーマに添って随時に資料を配布する。		
	学びの手立て 環境と地域発展に関するレポートを作成。		
	評価 期末試験（40%）、レポート（40%）、出欠（20%）を中心に評価する		

学びの継続	次のステージ・関連科目 地域からアジア経済と環境問題、また地球環境問題を考える。環境政策論、アジア経済と環境。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境経済学Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉 錫畢	2年	メール (sukpil@oku.ac.jp) で簡略に書いて、研究室に来ること。	

学びの準備	ねらい 本講義は、沖縄のサンゴ礁の持つ生態系や景観のような自由財の非利用価値を測り、地域経済の発展や豊かさの観点より環境経済学の視点より概説する。自然の尊さを沖縄サンゴ礁の貨幣評価で表現し、沖縄観光経済の現在と将来を診断するとともに、さらに沖縄文化でもあるテーゲーの経済学化を試み、真の豊かさとは何かについて考察する。	メッセージ 豊かさとは何か、環境と経済から考えてみる。
	到達目標 環境と地域経済との関係から課題を発見し、その解決策を探る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1週目：環境はいくらか	環境と経済のメカニズム復習
	2	2週目：CVM(仮想市場評価法)	環境の価値対象地を探す
	3	3週目：沖縄におけるサンゴ礁の現状	環境の価値対象地を探す
	4	4週目：サンゴ礁の生態系及び景観の経済評価	環境の経済評価事例を読む
	5	5週目：サンゴ礁と環境経済	サンゴ礁の一般的な知識を読む
	6	6週目：サンゴ礁と沖縄地域経済	サンゴ礁の一般的な知識を読む
	7	7週目：竹富島とピノキオ観光	竹富島の観光と地域経済を考える
	8	8週目：アイルランド・濟州島の環境・観光と沖縄	離島の環境と経済の事例を紹介
	9	9週目：環境経済学からみる沖縄の環境1（コモンズとして白保）	離島のエネルギー事情を読む
	10	10週目：環境経済学からみる沖縄の環境2（宮古島の再生可能エネルギー）	離島のエネルギー事情を読む
	11	11週目：環境経済学からみる沖縄の環境3（奄美群島の再生可能エネルギー）	離島のエネルギー事情を読む
	12	12週目：沖縄の再生可能エネルギーとCOP21（パリ協定）	京都議定書の概念を読む
	13	13週目：内発的発展による沖縄経済と環境	パリ協定の概念を読む
	14	14週目：環境・経済・沖縄	パリ協定と日本を考える
15	15週目：真の豊かさとテーゲー経済学	パリ協定と沖縄を考える	
16	16週目：期末テスト	総括	
	テキスト・参考文献・資料など 呉錫畢（2008）『環境・経済と真の豊かさーテーゲー経済学序説一』、日本経済評論社。 (1) 呉錫畢（1999）『環境政策の経済分析』、日本経済評論社。 (2) 植田和弘（1997）『環境経済学』、岩波新書。 (3) その他、テーマに添って随時に資料を配布する。		
	学びの手立て 環境と地域発展に関するレポートを作成。		
	評価 期末試験（40%）、レポート（40%）、出欠（20%）を中心に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 地域からアジア経済と環境問題、また地球環境問題を考える。環境政策論、アジア経済と環境。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境資源論	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山川（矢敷） 彩子	2年	メール： a.yamakawa@okiu.ac.jp 研究室： 9号館505室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	受講生が琉球列島における自然的環境資源について理解を深めることを目的として、サンゴ礁、海草藻場、干潟、砂浜などにおける環境資源について学ぶ。最終的には、環境資源の有効利用の仕方および環境保全について考える。	抽選から漏れた場合、登録調整期間中に教員に直接申し出れば、追加登録を認める。本講義は最終年次においても追試および再試験は実施しないので、4年次は登録の際注意する。 【実務経験】環境調査会社で勤務した経験をいかし、海岸開発の現状についても説明する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの住む琉球列島の成り立ちを理解する。 海岸にはさまざまな環境があり、それぞれ多様な役割を有していることを理解する。 環境資源の有効利用について、自分なりの考えを持つ。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	シラバスを熟読する。
	2	環境資源とは	関連するTV、ニュースを見る。
	3	日本および琉球列島の成り立ち	関連するTV、ニュースを見る。
	4	海の危険生物	関連するTV、ニュースを見る。
	5	砂浜環境と資源	関連するTV、ニュースを見る。
	6	海岸浸食と防災	関連するTV、ニュースを見る。
	7	干潟環境と資源	関連するTV、ニュースを見る。
8	海草藻場環境と資源	関連するTV、ニュースを見る。	
9	サンゴ礁の資源・磯の恵み	関連するTV、ニュースを見る。	
10	サンゴ礁とは	関連するTV、ニュースを見る。	
11	【フィールド実習】沖縄島のイノー	実際に沖縄の浅い海に行ってみる。	
12	サンゴ礁をめぐる問題①（オニヒトデの大量発生）	イノー生物について調べる。	
13	サンゴ礁をめぐる問題②（サンゴの白化）	関連するTV、ニュースを見る。	
14	サンゴ礁をめぐる問題③（破壊的漁業）	関連するTV、ニュースを見る。	
15	環境資源の有効利用（エコツーリズム：社会人特別講師の招聘）	関連するTV、ニュースを見る。	
16	期末試験	試験対策をする。	
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。 必要に応じて紹介する。		
学びの手立て	海の環境や生物に関するテレビ番組を試しに見てみる。それらのインターネットニュースをクリックしてみる、など日常生活の中で情報に触れ合っておくと、より講義が身近なものに感じるはずです。 また、実際にさまざまな海に行ってみるのもオススメです。		
評価	講義の際に毎回記入する大福帳（意見、感想、質問）の内容、試験およびレポートの内容により総合的に評価する。3分の1以上の欠席、課題の未提出、試験を欠席した学生には単位を与えない。 評価の割合は、大福帳（意見、感想、質問）25%、レポート15%、試験60%とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 産業と環境、生物学I・II、自然科学概論I・II、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、土壌学概論、演習I & II（山川ゼミ）など。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境政策特別講義Ⅰ（開発と環境）	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-清野 聡子	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄の開発と保全の調整の現状と課題、地域の自然観と合意形成について、沖縄市の泡瀬干潟を事例に考える。生態系の特徴、伝統的な利用などの地域知を理解する。開発により失う環境と、利害得失、利活用や維持管理の課題を考える。沿岸環境の制度の変遷と、それに伴う開発計画の進め方の変化、計画と実施の時間差、専門家会議や多セクター連携のあり方、合意形成の課題などに着目する。</p>	<p>事例とする沖縄本島東岸の泡瀬干潟の開発は、日本の沿岸環境制度の変革の時期に、環境調査と計画の一部見直しが行われた。生態系保全や再生の計画の実現化、地域の参加など埋立の今後の利活用が課題となっている。</p>
到達目標	生態系保全と地域開発の課題、調整や解決へのを具体的に考えられるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	沿岸の開発と保全 概説	沿岸開発の背景の確認
	2	泡瀬干潟開発の概要と論点	泡瀬干潟開発の要件の確認
	3	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会（現地）	泡瀬干潟現地の地理の確認
	4	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会（現地）	泡瀬干潟現地の生態系の確認
	5	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会（現地）	泡瀬干潟現地の構造物の確認
	6	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会（現地）	泡瀬干潟現地の歴史・文化の確認
	7	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会（現地）	泡瀬干潟の自然と文化の関係の確認
	8	現地で見た課題の描出、論点整理	泡瀬干潟の課題をリストアップ
	9	解決法の検討	泡瀬干潟の課題解決案を検証的考察
	10	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会（現地）確認	泡瀬干潟開発の要件の再確認
	11	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会（現地）確認	泡瀬干潟現地の地理の再確認
	12	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会（現地）確認	泡瀬干潟現地の生態系の再確認
	13	泡瀬干潟と周辺の生態系、構造物、社会（現地）確認	泡瀬干潟現地の構造物の再確認
14	現地で見た課題の確認と提案	泡瀬干潟の課題解決の実現性を熟考	
15	地域の自然と社会の特性を活かした地域づくり 提案の検討	レポート案を作成	
16	地域の自然と社会の特性を活かした地域づくり 総括	レポート執筆内容の確認	
テキスト・参考文献・資料など 配布資料			
<p>学びの手立て</p> <p>資料で事前学習、現地で確認や発見、問題点と提案をまとめる。 現地見学により、資料では不明確だった点、発見などに特に留意する。課題解決案は実現可能性を熟考する。</p>			
<p>評価</p> <p>レポート 70% 授業参加度 30%</p>			

学びの継続	次のステージ・関連科目 環境政策論Ⅰ・環境政策論Ⅱ
-------	------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境政策論 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-富田 宏	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>私たちの生活はさまざまな自然の恵みによって支えられている。生物多様性の保全是、私たちの社会が将来にわたって豊かな自然の恵みを楽しむ、持続的な発展を実現することを目指している。本講義では生物多様性に関する環境政策を理解するため、その基本的となる生物学的な考え方、私たちの社会との関わり、多様な主体による保全の実践、持続可能な社会の在り方について説明する。</p>	<p>海辺で見つけたいろいろな貝殻、森で出会った不思議な昆虫や鳥、きれいな草花。そうした記憶・体験こそが生物多様性の姿である。近年、地球上の生物多様性は急速に失われている。しかし、大切な自然を守ることだけが生物多様性の保全ではない。生物多様性の恵みを将来にわたって享受できるよう、社会そのものが発展を遂げなければならない。そこで環境政策が担う役割は大きい。</p>
到達目標	<p>本講義では環境政策との関連を意識しながら「生物多様性の保全」について学習する。生物多様性という概念の理解には、基礎となる考え方を学ぶ必要がある。はじめに生物多様性の創出機構について理解を深め、根本的な問いである「生物多様性とは何か」について答えてほしい。次に、私たちの生活・社会は生物多様性と深い関わりを持ち、さまざまな恵みを受けている。こうした生物多様性と私たちの社会を結ぶつながりを生態系サービスと呼ぶ。生態系サービスについて理解し「生物多様性を保全する意味や価値」について自ら考察できるようになってほしい。最後に、私たちは社会の一員として、生物多様性を保全し持続可能な社会を実現する役割を担っている。討論や合意形成のデモンストレーションをとおして自ら主体的に生物多様性保全に関わる方法を見つけてほしい。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：生物多様性って何だろう	配布資料を必読のこと
	2	生物多様性の創出機構：自然選択・適応・種分化	配布資料を必読のこと
	3	生物多様性の階層制：遺伝子・種・生態系	配布資料を必読のこと
	4	生態系サービス：生物多様性と私たちの社会	配布資料を必読のこと
	5	生物多様性の保全と環境経済学	配布資料を必読のこと
	6	生物多様性保全の実際1：国際条約(生物多様性条約・ラムサール条約)	配布資料を必読のこと
	7	生物多様性保全の実際2：企業と生物多様性の保全	配布資料を必読のこと
	8	生物多様性保全の実際3：市民・NPOによる生物多様性の保全	配布資料を必読のこと
	9	生物多様性保全の実際4：地域行政とまちづくり(日本の事例)	配布資料を必読のこと
	10	生物多様性保全の実際5：地域行政とまちづくり(海外の事例)	配布資料を必読のこと
	11	生物多様性保全の実際7：森林資源の持続的利用	配布資料を必読のこと
	12	生物多様性保全の実際7：生物多様性の保全における合意形成	配布資料を必読のこと
	13	ディスカッション1 有明海の保全	配布資料を必読のこと
	14	ディスカッション2 国境を越えて旅する渡り鳥の保全	配布資料を必読のこと
15	まとめ 持続的な社会の実現に向けて		
16			

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>鷲谷いつみ, 矢原徹一. "保全生態学入門: 文一総合出版." (1996): 270.</p>
----	---

学びの手立て	<p>本講義は生物多様性がテーマとなっている。生物の進化などの話題などを扱うが、生物学の講義を受講していることは前提とせず基礎的な事柄から解説を行う。この講義をとして生き物や自然環境に関心を持つきっかけとなるようにしたい。また既に環境政策、生物多様性・自然環境の保全に関心を持つ受講者にとっても有意義な講義となるよう、最新の事例、現場で活動する方々の声を多く紹介したい。</p>
--------	---

評価	<p>1) 講義で扱ったトピックやキーワードについて正しく理解しているかを問う小レポート(200-400字程度)を毎回の講義で課す(計12回: 40%)。小レポートはできるだけ講義の時間内で書き終わるように講義の時間配分を行う。期末にはレポート(800-1200字程度)を課す(計1回: 40%)。2) 講義では少人数のグループでのディスカッションを複数回行う。ディスカッションへの積極的な参加、よく考えられた意見を評価する(計2回: 20%)。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>生物多様性の消失や地球規模の気候変動が顕在化するなか「私たちの社会はどのように発展していくべきか」が問われています。逆説的ですが、生物多様性を保全する意味、方法、目的はこの問いと不可分なものであることがわかります。受講後はこの問いに関心を持ち、探求してほしいと思います。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境政策論Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	砂川 かおり	2年	ksunagawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すために必要な環境政策の基礎的な考え方について理解を深める。	メッセージ 本講義では、環境法政策の基礎を学びつつ、沖縄県における環境問題に係る政策の現状、課題、そして解決のためのヒントについて考えてきます。環境政策について積極的に学びたい学生さんに向けています。
	到達目標 本講義では、環境法政策の目的、原則、環境問題の性質に応じた解決のためのアプローチ、手法、ポリシーミックスのあり方について理解を深める。その上で、それらの知識を基に、沖縄県における環境問題に係る政策を批判的かつ建設的に検証し、より良い政策提言ができる力を身につけることを目的としている。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、環境政策の意義について	復習し、演習課題をする。
	2	環境法政策の基本的考え方の体系の概要、目的（1）「調和条項」から「持続可能な発展」へ	復習し、演習課題をする。
	3	環境法政策の目的（2）環境権・環境公益	復習し、演習課題をする。
	4	環境法政策の基本的考え方（1）環境責任のあり方 ー汚染者負担原則	復習し、演習課題をする。
	5	環境法政策の基本的考え方（1）環境責任のあり方 ー拡大生産者責任	復習し、演習課題をする。
	6	環境法政策の基本的考え方（2）環境リスク管理のあり方 ー未然防止的・予防的アプローチ	復習し、演習課題をする。
	7	環境法政策の基本的考え方（2）環境リスク管理のあり方 ー環境比例原則 等	復習し、演習課題をする。
	8	環境法政策の基本的考え方（3）環境ガバナンスのあり方 ー国と自治体の役割分担	復習し、演習課題をする。
	9	環境法政策の基本的考え方（3）環境ガバナンスのあり方 ー議会と審議会、市民参加	復習し、演習課題をする。
	10	環境規制の法的アプローチ	復習し、演習課題をする。
	11	環境政策の手法、政策手段の活用と組合せ～ポリシーミックス、規制範囲決定にあたっての考慮事項	復習し、演習課題をする。
	12	赤土等流出問題への効果的なポリシーミックスとは何か？（1）	復習し、演習課題をする。
	13	赤土等流出問題への効果的なポリシーミックスとは何か？（2）	復習し、演習課題をする。
	14	環境問題の解決策を何に求めるか	復習し、演習課題をする。
15	まとめ・授業評価アンケート	期末試験に備えて、復習する。	
16	期末試験	試験内容を振り返り、復習する。	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。随時資料を配布する。 参考文献は、適宜紹介する。		
	学びの手立て ・授業に毎回出席し、講義を聞きながら、配布プリントを完成させること。 ・毎回、課題は提出すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。		
	評価 1/3以上の欠席及び、1/3以上の課題未提出の者は不可。 リアクションペーパー（15%）、課題（15%）、期末試験（70%）により評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「環境法」
-------	----------------------

※ポリシーとの関連性

各専門分野を学ぶ上で前提となる、データの表現方法、すなわち、代表値やグラフを用いたデータの読み取りと提示の仕方を学ぶ。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境統計学 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	齋藤 星耕	1 年	5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本講義の目的は、様々な統計指標やグラフ、さらには基本的統計量などの読み方や算出方法などについて学ぶことである。具体的には、経済学部・地域環境政策学科で学んでいく際に重要な統計指標の理解を含め、記述統計学の基礎概念を全般的に学ぶ。	メッセージ 統計学は必要不可欠な学問です。
	到達目標 記述統計学をマスターすること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	
	2	様々な統計指標とグラフ (1)	ノート・資料の見直し
	3	様々な統計指標とグラフ (2)	ノート・資料の見直し
	4	様々な統計指標とグラフ (3)	ノート・資料の見直し
	5	基本統計量 (1) 代表値① (平均値、中央値、最頻値)	ノート・資料の見直し
	6	基本統計量 (2) 代表値② (平均値、中央値、最頻値)	ノート・資料の見直し
	7	基本統計量 (3) 分散、標準偏差、変動係数	ノート・資料の見直し
	8	基本統計量 (4) 分散、標準偏差、変動係数	ノート・資料の見直し
	9	基本統計量 (5) 度数分布表、ヒストグラム	ノート・資料の見直し
	10	基本統計量 (6) 度数分布表、ヒストグラム	ノート・資料の見直し
	11	基本統計量 (7) 相関関係と因果関係、相関係数、擬似相関	ノート・資料の見直し
	12	基本統計量 (8) 相関関係と因果関係、相関係数、擬似相関	ノート・資料の見直し
	13	基本統計量 (9) クロス集計	ノート・資料の見直し
	14	総まとめ①	ノート・資料の見直し
15	総まとめ②	ノート・資料の見直し	
16	最終試験		
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に随時資料を配布する。 ・統計学の基礎、河野光雄・友知政樹共著、牧野書店 (¥1,900+税) ・統計でウソをつく法 (数式を使わない統計学入門) ダレル・ハフ著、高木秀玄訳、講談社 (¥880+税)		
	学びの手立て 毎回出席すること。 新聞、書籍、ネット等で見かけるグラフに意識的に。		
	評価 出席状況、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 環境統計学II
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境統計学Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	齋藤 星耕	1年	5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本講義の目的は、統計的データの分析に必要な確率論の基礎や、推定・検定統計学、さらには相関係数や単回帰分析の手法の基本的概念を習得することである。	メッセージ 統計学は現状をまとめるための受け身な学問ではありません。データから何が言えるか、その現象が偶然おきたことか、なんらかの必然性があるのか、また、どのような関係が背後にあるのかを読み解きます。身につけば大きな武器となるでしょう。
	到達目標 基礎確率論をマスターすること。 推計統計学をマスターすること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	
	2	記述統計学の復習（1）	ノート・資料の見直し
	3	記述統計学の復習（2）	ノート・資料の見直し
	4	確率論の基礎（1）	ノート・資料の見直し
	5	確率論の基礎（2）	ノート・資料の見直し
	6	標本調査と中心極限定理	ノート・資料の見直し
	7	データの標準化と標準正規分布	ノート・資料の見直し
	8	点推定と区間推定（1）	ノート・資料の見直し
9	点推定と区間推定（2）	ノート・資料の見直し	
10	統計的仮説の検定（1）	ノート・資料の見直し	
11	統計的仮説の検定（2）	ノート・資料の見直し	
12	相関係数、単回帰分析	ノート・資料の見直し	
13	単回帰分析、回帰係数の検定	ノート・資料の見直し	
14	重回帰分析	ノート・資料の見直し	
15	総まとめ	ノート・資料の見直し	
16	最終試験		
	テキスト・参考文献・資料など ・適宜、資料を配布する。 ・統計学の基礎、河野光雄・友知政樹共著、牧野書店（¥1,900+税）。 ・統計でウソをつく法（数式を使わない統計学入門）ダレル・ハフ著、高木秀玄訳、講談社（¥880+税）。		
	学びの手立て 毎回出席すること。 概念を復習し整理しておくこと。		
	評価 出席状況、小テスト、最終試験などにより総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 統計情報処理I&II
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境評価実践論	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	3年	t. toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 環境問題を解決する上で、環境に対する便益や費用を適正に評価することが求められています。 授業では環境評価の主要な分析方法を重回帰分析から共分散構造分析まで、計量ソフトAMOSを使いながら実践的に学びます。	メッセージ 統計学の基礎から復習を行い、計量ソフトの使い方を中心に学習していきます。卒業論文などでの分析に役立ててください。
	到達目標 ・初歩の計量分析をEXCELで実行できるようになる。 ・アンケート等の質的データを分析できるようになる。 ・計量ソフトAMOSを使用できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	統計学の復習（基本統計量について）	統計学の復習
	2	統計学の復習（回帰分析について）	授業内容を復習する
	3	統計学の復習（重回帰分析について）	授業内容を復習する
	4	データの扱いと注意点	「授業共有ファイル」参照
	5	重回帰分析の実践	授業内容を復習する
	6	アンケートデータ（質的データ）の扱いと注意点	授業内容を復習する
	7	尺度データの扱いについて	授業内容を復習する
	8	主成分分析の実践	授業内容を復習する
	9	因子分析の実践	授業内容を復習する
	10	計量ソフトAMOSでの分析方法	SPSS[AMOS]の操作ガイド参照
	11	分析モデルの作成方法	「授業共有ファイル」参照
	12	多重指標モデルについて	授業内容を復習する
	13	アンケートを用いた心的評価の方法	授業内容を復習する
	14	共分散構造分析の仕組み	授業内容を復習する
15	共分散構造分析の実践	授業内容を復習する	
16	共分散構造分析の応用	授業内容を復習する	
テキスト・参考文献・資料など 参考文献：栗山浩一『環境の価値と評価方法』，豊田秀樹『共分散構造分析[入門編]』			
学びの手立て ・授業毎にEXCELファイルを用意しているので、大学ポータル「授業共有ファイル」からダウンロードして受講してもらおう。 ・「授業共有ファイル」にあるEXCELファイルを保存できるUSBやクラウドがあることが望ましい。 ・授業毎に完結した授業構成にしているが、計量分析は積み重ねなので続けて受講することが望ましい。			
評価 ・テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。 ・テスト内容はEXCELや計量ソフトAMOSを使用して計量分析を行う。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・授業は計量分析のテクニカルな部分を中心であることから、理論となる「経済学」や「環境経済学」を理解して実証分析に役立てて欲しい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境評価入門	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	3年	t. toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 私たちは身の回りに存在する様々な自然環境を享受していますが、経済活動の拡大とともに環境問題も発生しています。環境問題を抑制するために一定の費用を計上する必要があります。授業では環境対策の考え方と環境評価に必要な基礎統計を中心に説明していきます。	メッセージ 統計学の基礎から復習を行い、EXCELの分析ツールや計量ソフトの使い方を含めて学習していきます。
	到達目標 ・環境問題と環境評価の扱いについて学ぶ。 ・初歩の計量分析をEXCELで実行できるようになる。 ・計量ソフトの使い方を学べる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	環境問題と環境コスト	
	2	環境問題と外部不経済	
		時間外学習の内容	
	3	環境対策と環境政策、その費用対効果について	「授業共有ファイル」参照
	4	環境政策と環境評価の方法	授業内容を復習する
	5	統計学の復習	授業内容を復習する
	6	環境測定値の扱い（度数分布）	授業内容を復習する
	7	環境測定値の扱い（正規分布）	授業内容を復習する
	8	環境測定値の扱い（対数分布）	授業内容を復習する
	9	環境測定値の扱い（相関分析）	授業内容を復習する
	10	環境統計（回帰分析）	授業内容を復習する
	11	環境統計（重回帰分析）	授業内容を復習する
	12	環境統計（多重共線性について）	授業内容を復習する
	13	環境コストの負担問題（共有地問題）	授業内容を復習する
	14	環境コストの負担問題（ゲーム戦略）	授業内容を復習する
	15	環境コストの意思決定モデル	授業内容を復習する
	16	前期期末試験	授業内容を復習する
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献：鷲田豊明『環境評価入門』		
	学びの手立て ・授業毎にEXCELファイルを用意しているので、大学ポータル「授業共有ファイル」からダウンロードして受講してもらう。 ・「授業共有ファイル」にあるEXCELファイルを保存できるUSBやクラウドがあることが望ましい。 ・授業毎に完結した授業構成にしているが、統計学は積み重ねなので続けて受講することが望ましい。		
	評価 ・テスト内容はEXCELとAMOSを使用して計量分析を行う。 ・テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。 ・テスト内容はEXCELと計量ソフトを使用して計量分析を行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・授業は環境経済学の知識を学習したのち、環境評価に必要な統計学と初歩の計量分析が中心になります。そのため、「ミクロ経済学」や「統計学」の復習も併せて行って欲しい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	環境法	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	砂川 かおり	2年	ksunagawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地域社会にとって望ましい環境水準を作り出すために必要な環境法の基礎的な考え方について理解を深める。	メッセージ 環境法について基本的な考え方を学びながら、授業では時事問題も取り上げるため、新聞等のニュースも確認してください。
	到達目標 本講義では、環境法の目的、基本的な考え方や法制度について、これまでの理論的蓄積やアプローチ、判例等を基に学んでいく。また、環境問題を解決する一つの手法として、環境訴訟の要件や判例等への理解を深めることで、環境に係る法的問題点の抽出、解決方法等について考え、分析できる能力を身に付けることを目的としている。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス/環境法の意義について	復習し、演習課題をする。
	2	環境法における「環境」、現代環境法が対応すべき事象、環境法の存在形態等	復習し、演習課題をする。
	3	環境問題への民事法的・行政法的対応、三極関係としての環境法関係等	復習し、演習課題をする。
	4	環境法の基本的考え方の体系の概要、環境法の目的（1）等	復習し、演習課題をする。
	5	環境法の目的（2）：環境権・環境公益	復習し、演習課題をする。
	6	環境法の基本的考え方（1）環境責任のあり方 ー汚染者負担原則	復習し、演習課題をする。
	7	環境法の基本的考え方（1）環境責任のあり方 ー拡大生産者責任	復習し、演習課題をする。
	8	環境法の基本的考え方（2）環境リスク管理のあり方 未然防止的アプローチ・予防的アプローチ	復習し、演習課題をする。
9	環境法の基本的考え方（2）環境リスク管理のあり方 環境比例原則 等	復習し、演習課題をする。	
10	環境法の基本的考え方（3）環境ガバナンスのあり方/環境民主主義について	復習し、演習課題をする。	
11	公害と企業の責任、環境汚染防止のための法システム、環境法の執行の実際	復習し、演習課題をする。	
12	環境影響評価法・沖縄県環境影響評価条例/米国でのジュゴン訴訟について	復習し、演習課題をする。	
13	環境公害訴訟（1）民事訴訟	復習し、演習課題をする。	
14	環境公害訴訟（2）行政訴訟	復習し、演習課題をする。	
15	まとめ・授業評価アンケート	期末試験に備えて、復習する。	
16	期末試験	試験内容を振り返り、復習する。	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。随時資料を配布する。 参考文献：①畠山武道、北村喜宣、大塚直（2007）『環境法の入門』（日本経済新聞出版社）、②北村喜宣（2013）『現代環境法の諸相』（財団法人 放送大学教育振興会）、③交告尚史 他（2012）『環境法入門 第2版』（有斐閣アルマ）、その他 適宜案内する。		
	学びの手立て ・授業に毎回出席し、講義を聞きながら、配布プリントを完成させること。 ・毎回、課題は提出すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。		
	評価 1/3以上の欠席及び、1/3以上の課題未提出の者は不可。 リアクションペーパー（15%）、課題（15%）、期末試験（70%）により評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「環境政策論II」
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	観光経済論	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲 薫	3年	研究室 5-632 kuezu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	観光経済学は、観光事象の経済的側面に関する理解や分析の為に経済学または経済学の分析道具を適用しようとする応用経済学の一分野である。本講義では観光客の行動や観光地開発などによる経済効果の現状を理解するとともに、観光による地域活性化の取り組みやその課題などについて考える。	観光産業や地域振興などに興味がある学生を広く歓迎します。観光地や観光産業における課題を解決するための意見を歓迎しますので、積極的に講義に参加して下さい。
到達目標	①観光による経済効果や地域活性化、観光商品、観光価格、観光投資などに関する専門知識を事例を挙げながら説明できる。 ②観光地の取り組み事例等に自分自身の意見を述べる事ができる。 ③観光地活性化策の提案する事ができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義説明	観光関連用語を調べる
	2	観光の現状と経済効果①：国際観光と国内観光の現状、観光の経済効果の概要など	参考文献：①と④を読む
	3	観光の現状と経済効果②：経済効果の事例、討論「他産業より観光振興を推進すべきか」	討論の意見をまとめ、提出準備
	4	観光地の活性化①：観光による活性化の特徴、地域資源の活用	参考文献：⑥を読む
	5	観光地の活性化②：着地型観光の特徴と取り組み事例	同上
	6	観光地の活性化③：コミュニティビジネスによる地域振興	企画発表の準備
	7	観光によるコミュニティビジネスの企画・立案・発表（各自）	企画の修正
	8	観光地の活性化④：地域ブランディングによる地域振興	参考文献：⑥を読む
	9	観光と自然環境：エコツアーの効果と影響、環境収容能力、討論「どのガイドを優先すべきか」	討論の意見をまとめ、提出準備
	10	観光商品の特徴と需要関係：観光商品の概念・特徴・構成要素、観光需要の法則と弾力性	参考文献：⑦を読む
	11	観光価格①：観光価格の概要・決定メカニズム・設定目標、観光商品の価格戦略	同上
	12	観光価格②：観光価格の具体的設定法、観光商品の差別価格戦略	同上
	13	観光投資①：観光投資の概要・投資基準、観光費用の分析	同上
	14	観光投資②：観光投資リスクと投資決定、観光投資案件の評価法	同上
15	観光課税：種類と特徴、導入理由、討論「観光税の導入は必要か」	討論の意見をまとめ、提出準備	
16	試験	講義内容を復習する	

テキスト・参考文献・資料など	テキスト：特に指定はない。適宜レジュメを配布する。 参考文献：①ジェームズ・マック（2005）『観光経済学入門』日本評論社。②角本伸晃（2011）『観光による地域活性化の経済分析』成文堂。③中崎 茂（2002）『観光の経済学入門—観光・環境・交通と経済の関わり』古今書院。④マーティン・オッパーマンほか（1999）『途上国開発論』学文社。⑤アラン・ウィリアムスほか（1992）『観光と経済開発』成山堂書店。⑥敷田麻実ほか（2009）『観光の地域ブランディング』学芸出版社。⑦河村誠治（2000）『観光経済学の基礎』九州大学出版会。
----------------	--

学びの手立て	履修の心構え：本講義は観光地の紹介や楽しみ方を説明しないため、そのことを理解した上で受講して下さい。 途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。 学びを深めるために：観光に関する新聞を読んだり、観光庁 http://www.mlit.go.jp/kankocho/ のWebサイトをみることを推奨する。
--------	---

評価	テスト（40%）：上記の到達目標の①を評価します。 平常点（30%）：講義やDVD視聴の感想、講義への参加姿勢を評価します。 課題・レポート（30%）：コミュニティビジネスの企画・立案・発表、授業内容の討論内容の意見を評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：観光を視点に地域活性化や経済効果など学んでいるため、観光以外でも地域的課題を解決できるようにして欲しい。 関連科目：「観光入門」「観光情報論」「沖縄の観光」は受講して欲しい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	観光情報論	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘 もえ子	3年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、観光情報メディアとしてのインターネット、観光情報収集・観光情報提供システムについて学習することによって、今後、観光情報をどのように収集し、提供すれば良いかを考える。仮登録者数が上限を超えた場合「初回講義時」に抽選を行うため、登録希望者は必ず初回講義に出席すること。	メッセージ 沖縄経済を支える観光産業において、どのようにITを活用できるかを考えていきましょう。講義でわからないことがあれば気軽に相談して下さい。
	到達目標 ・観光産業におけるIT活用動向について理解できる。 ・IT活用方法について自ら調べ、わかりやすく説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	観光情報に関する調べ学習
	2	観光情報とは (1)	観光情報に関する調べ学習
	3	観光情報とは (2)	観光情報に関する調べ学習
	4	観光空間情報とは (1)	観光空間情報に関する調べ学習
	5	観光空間情報とは (2)	観光空間情報に関する調べ学習
	6	観光情報産業	観光情報産業に関する調べ学習
	7	観光情報とインターネット	インターネット学習
	8	インターネットによる情報提供 (1)	旅行会社の取組に関する調べ学習
9	インターネットによる情報提供 (2)	旅行サイトの取組に関する調べ学習	
10	旅行プランの作成 (1)	旅行プラン作成課題	
11	旅行プランの作成 (2)	旅行プラン作成課題	
12	Google Maps	Google Maps 演習	
13	観光情報提供システム (1)	ARに関する調べ学習	
14	観光情報提供システム (2)	APIに関する調べ学習	
15	期末試験	試験の振り返り	
16	まとめ	講義全体の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など		
	【テキスト】 テキストは使用しません。講義中にレジメを配布する。		
	【参考文献】 観光学入門，岡本伸之編，有斐閣アルマ，2001. Google Maps Hacks，ギブソン リッチ，アール スカイラー著，オーム社，2007. ARのすべて，日経コミュニケーション編，日経BP，2009. 他講義時に紹介する。		
	学びの手立て		
	履修の心構え ・講義内容および課題は各回毎に異なるため、毎回の講義への出席および課題にしっかり取り組むこと。 学びを深めるために ・業界の動き等も紹介するため、新聞記事を読むことも講義の学びを深める助けになる。		
	評価		
	平常点（講義への取組）10%、課題点（課題の内容、課題の提出）20%、期末試験70%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：共通科目の「沖縄の観光」、専門選択科目の「観光経済論」を履修すると、より沖縄の観光業界について理解が深まる事でしょう。 (2) 次のステージ：講義で学んだことを踏まえて、卒業研究および社会へ活かして下さい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

専門科目を受講する前には、大学生として身につけるべき基礎科目を提供。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名 基礎演習 I	期 別	曜日・時限	単 位
	担当者 上江洲 薫	前期	木 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	研究室 5 - 6 3 2 kuezu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 学生間および教員とのコミュニケーションの場を提供し、相互の理解を深めながら、大学生にとって必要な5つの力「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」「話す力」を身につけることを目標とします。	メッセージ 礎演習 I は、大学になれるためや充実した大学4年間を過ごすために必要な内容のオリエンテーションもあります。積極的に出身高校と異なる学生と交流を行うと共に、自発的に活動しようとする意識を持ちましょう。
	到達目標 ①受講生の相互理解を図るため、受講生間でのコミュニケーションをとり共同で課題を行うことができる。 ②レジュメ作成では書籍の一部を要約し、グループで連携して発表することができる。 ③レポートの作成では他の事例や意見を参考にしつつ、自分の意見を書くことができる。 ④各種セミナー等で、内容をメモし、感想等を書くことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期ガイダンス（前期の内容、大学生活等の説明）・研究室案内	自己紹介シート作成
	2	フレッシュマンテスト	4年間の日程表作成
	3	スカベンジャーハント（学内探索）	学内施設の特徴を調べる
	4	図書館オリエンテーション	オリエンテーション課題の作成
	5	海外・国内留学セミナー	セミナー内容理解シート作成
	6	スカベンジャーハントのグループ結果報告	グループ発表準備
	7	プレゼンテーション練習－他己紹介、レジュメ作成方法の説明	他己紹介発表資料作成
	8	グループ学習：レジュメ作成 I 作業①	グループで作業を作成
	9	グループ学習：レジュメ作成 I 作業②	グループで発表内容を打合せ
	10	グループ学習：レジュメ作成 II 発表	グループで発表準備
	11	レポートの作成方法	参考文献：①を読む
	12	個人レポートの作成①	各自でレポートを作成
	13	インターンシップ体験報告会	報告会内容理解シート作成
	14	個人レポートの作成②	各自でレポートを作成
	15	個人面談（1）	後期の目標を立てる
16	個人面談（2）、まとめ	後期の目標を立てる	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：特になし 参考文献：①伊藤義之（2005）『はじめてのレポート』，嵯峨野書院。 ②学習技術研究会編（2002）『知へのステップ－大学生からのスタディ・スキルズ－』くろしお出版。 ③中島勝利・塚本真也（1996）『知的な科学・技術文章の書き方』コロナ社
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え：出席（遅刻厳禁）やゼミの態度、発言内容を重要視する。やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ず事前にメールにて連絡すること。 学びを深めるために：日常的に地域の問題・課題に関心を持ち、新聞や専門図書等を読む。
-------	---

学びの実践	評価 共同活動（10%） 共同で行う課題を他の学生と連携して実施できるかを評価する。 レジュメ作成（20%） 他の学生と分担して、書籍の内容を要約し、グループでの発表内容を評価する。 レポート（40%） グループ発表したレジュメを基に、各自の意見・提言を評価する。 課題提出（30%） 各種セミナー等の課題を評価する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：「基礎演習 I ・ II」で身につけた文書作成力・発言力・論理的思考力などを2年次以降のゼミで活かして欲しい。 関連科目：「地域セミナー I ・ II」「演習 I ・ II」「演習 III ・ IV」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 伊津子	1年	itukoアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学生活に適応させる。学生、教員間のコミュニケーションを深める。	メッセージ 基礎演習で学んだことを今後の大学生活での学習で活かしてください。【実務経験】を活かした授業を展開する。
	到達目標 ・レポートを書く上でのルールを身につける。 ・プレゼンテーションの基本を身につける。	

学びの準備	到達目標 ・レポートを書く上でのルールを身につける。 ・プレゼンテーションの基本を身につける。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読む
	2	学内オリエンテーション	学生便覧をよく読む
	3	フレッシュマンテスト	高校の数学、国語の復習
	4	図書館オリエンテーション	図書館のパンフレットをよく読む
	5	海外留学セミナー	海外留学の制度について調べる
	6	レポート作成 (1)	授業の内容を復習する
	7	レポート作成 (2)	//
	8	レポート作成 (3)	//
	9	プレゼンテーション-レジュメ作成-	//
	10	プレゼンテーション-レジュメ作成-	//
	11	プレゼンテーション-グループ発表-	//
	12	キャリアセミナー	//
	13	学外ゼミ	//
	14	個人面談	大学生活を振り返る
	15	個人面談	//
16	個人面談	//	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜指示します。 入学式の際に配布される「キャリアデザインガイドブック」は最初の課題に使用します。
-------	--

学びの実践	学びの手立て やむを得ない事情で欠席する場合は必ず事前にメールしてください。 この授業の担当教員がアカデミックアドバイザーになりますので、大学生活に関する疑問などがあれば、相談してください。
-------	---

学びの実践	評価 ・レポート (40%)、発表 (20%)、平常点 (40%) 2/3以上の出席がなければ不可になります。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「地域セミナー I II」 「演習 I II」 「演習 III IV」
-------	--

※ポリシーとの関連性 専門科目を受講する前の大学生として身につけるべき学びの技術（PCリテラシー等）を習得するための基礎科目。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山川（矢敷） 彩子	1年	メール： a.yamakawa@okiu.ac.jp 研究室： 9号館505室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習のねらいは、新入生と教員がコミュニケーションを深めながら、大学生としての必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を養うことである。最終的には、個人でレポートを作成し、レジメを作成した上、コンピュータプレゼンテーションをすることを旨とする。二年度以降の学生が登録を希望する場合は、事前に相談すること。	大学生生活を有意義に過ごすためには、最初が大事です。学業面だけでなく、大学生活について疑問に思ったこと、わからないことは気軽に質問してください。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な専門書を読み込み、自分なりに理解しレジメにまとめる事ができる。 ・基本的な論文・レポートの書き方のルールを理解し身に付ける。 ・レジメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。 ・大学生活のルールや学生支援の内容を理解し、4年間の計画および卒業後の目標を立てる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・自己紹介等	「履修ガイド」を熟読する。
2	ノートテイキング、他己紹介	「学生便覧」を熟読する。	
3	スカベンジャーハント	大学のHPをよく見る。	
4	海外・国内留学セミナー	留学について考える時間をとる。	
5	図書館オリエンテーション	図書館オリの課題を実施する。	
6	フレッシュマンテスト	試験対策をする。	
7	フィールドワーク(宜野湾市立博物館)	博物館巡検内容をまとめる。	
8	フィールドワーク(宜野湾市内)	市内巡検内容をまとめる。	
9	Emailの書き方・送り方、理想のキャンパスライフ	Emailを送る。	
10	グループワーク(沖縄の自然を知る)開始	レジメ作成をする。	
11	グループワークレジメ提出	レジメ修正をする。	
12	インターンシップ体験報告会	インターンシップについて考える。	
13	グループワーク発表準備	レジメ修正し、印刷する。	
14	グループワーク発表(1)	発表練習する。	
15	グループワーク発表(2)	発表練習する。	
16	学生個人面談	面談資料に情報を記述する。	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは指定しない。 資料は講義内で配布し、参考文献は必要に応じて紹介する。		
	学びの手立て		
	履修の心構え ・基礎演習は一年次必修の科目なので必ず出席すること。 ・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで教員に連絡をすること。 ・欠席した場合は、できるだけ早く資料を教員の元へ取りに行くこと。 ※無断欠席はグループ作業を遅延させ、報告会等のスケジュールを狂わせ、グループメンバーに多大な迷惑をかけることになる。		
	評価		
	単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。評価は、ゼミにおける発言の内容や課題、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する		
	授業参加度30%、課題の取組姿勢、出来50%、フィールドワークの参加10%、プレゼンテーション10%とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門必修科目：「地域セミナーI・II」、「演習I」、「演習II」
-------	---

※ポリシーとの関連性

専門科目を受講する前に、大学生として身につけるべき読解力、表現力等の演習を行う基礎科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	砂川 かおり	1年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。読む力、考える力、書く力、プレゼンテーション能力を高める。	メッセージ ・指定されたクラスに登録すること。 ・第1回目の授業では、授業概要を説明し、履修仮登録の内容を確認するので、必ず参加すること。 ・4月13日(土)、14日(日)にメンバーシップ・トレーニング(MT)を行うので、全員参加すること。
	到達目標 大学生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。ノートテイク、要約・レジュメ・レポート作成、発表ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、時間割確認、メールの設定等	復習と課題①をする。
	2	大学生活とは？(1) 一講義・ノートテイク実践ー要約の作り方説明・要約作成	復習と課題①をする。
	3	フレッシュマンテスト実施	課題①をする。
	4	合同ゼミ：海外・国内留学セミナー(厚生会館4階ホール)	配布資料を読んで、復習する。
	5	大学生活とは？(2)(個人で課題①発表 各3分、「キャリア入門ガイドブック」を持参。)	配布資料を読んで、復習する。
	6	図書館ガイダンス@図書館4階AVホール(予定)	配布資料を読んで、復習する。
	7	レジュメの書き方(1)：レジュメの作成説明、資料読み込み、レジュメ(課題②)作成	レジュメ(課題②)作成
	8	レジュメの書き方(2)レジュメ(課題②)の発表・評価	配布資料を読んで、復習する。
9	慰霊の日に考えること(1)：戦前の教育と日本国憲法	配布資料を読んで、復習する。	
10	慰霊の日に考えること(2)：祖父母への戦争体験聞き取り(6月23日：課題)	レポート作成	
11	慰霊の日に考えること(3)：聞き取りの分かち合い	配布資料を読んで、復習する。	
12	合同ゼミ：キャリアセミナー(インターンシップ体験報告会)(厚生会館4階ホール)	配布資料を読んで、復習する。	
13	論点・争点・持論の書き方、演習(課題③)	配布資料を読んで、復習する。	
14	レポートの書き方説明、巡検：沖縄県立博物館(予定)	レポート作成・提出	
15	巡検レポート添削・再提出	配布資料を読んで、復習する。	
16	巡検レポート発表・評価、授業評価アンケート、夏季休暇中の課題発表	夏季休暇中の計画を立て、実行。	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。 参考文献は、適宜紹介する。		
	学びの手立て ・欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。後日、欠席届を提出すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・学年合同によるセミナーの開催等、開催場所の変更に注意して下さい。		
	評価 欠席が5回以上の場合「不可」。 評価の配分：授業参加度(30%)、課題3つ(30%)、慰霊の日に関する演習(25%)、 巡検レポート(15%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「基礎演習II」
-------	-------------------------

※ポリシーとの関連性 地域経済・沖縄経済に関する基本情報の収集、分析、解析手法を通して、大学での学びの基本を習得します。

[/演習]

科目基本情報	科目名 基礎演習 I	期別	曜日・時限	単位
	担当者 前泊 博盛	前期	木 2	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1年	5号館405研究室で個人面談。hmaedomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。	メッセージ 大学生生活に必要な基礎知識と基礎情報、ITスキル、調査分析能力の向上を目指し、国内外のフィールド調査を実施します。
	到達目標 1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。	

学びの準備	到達目標 1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション（基礎演習の概要レク）
	2	ITスキルアップ演習（パソコン講習・PP作成・メール送受信）
	3	フレッシュマンテスト（国語）
	4	フレッシュマンテスト（数学）
	5	合同ゼミ（海外・国内留学セミナー）厚生会館4階
	6	図書館セミナー
	7	フィールドワーク演習（学食調査①）
	8	フィールドワーク演習（学食調査②）
	9	フィールドワーク演習（大学周辺飲食店調査①）
	10	フィールドワーク演習（大学周辺飲食店調査②）
	11	フィールドワーク調査結果の報告書作成①
	12	合同ゼミ（インターンシップ体験報告会）厚生会館4階
	13	フィールドワーク調査結果の報告書作成②
	14	フィールドワーク調査結果の報告書作成③
	15	演習総括発表＝PP発表
16	基礎演習 I 総括	
		時間外学習の内容
		大学4年間の学習計画の作成
		将来設計（人生100年計画）作成
		基礎学力のチェック
		基礎学力のチェック
		留学に関する基礎情報の収集・検討
		図書館活用術の習得
		課題研究の調査手法の習得
		課題研究の調査手法の習得
		課題研究の調査手法の習得
		課題研究の調査手法の習得
		調査報告書作成の基本技術の習得
		インターンシップの基礎情報収集
		調査報告書作成の基本技術の習得
		調査報告書のPP作成技術の習得
		前期の基礎演習のまとめ

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 前泊博盛著「もっと知りたい！本当の沖縄」（岩波ブックレット）前泊博盛著「沖縄と米軍基地」（角川新書） その他
-------	---

学びの実践	学びの手立て 経済辞典、経済学辞典を活用した基本書の読破と読書ノートの作成。経済学の基本用語、キーワード、基本理論の習得
-------	---

学びの実践	評価 演習における積極的な調査・研究活動への参加状況、調査報告書の作成・発表の内容などで総合的に評価
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 基本書を通読、読書や新聞講読の習慣化、日常生活の中での経済問題に対する関心を高め、沖縄経済論、琉球・沖縄経済史の受講へ
-------	--

※ポリシーとの関連性 基礎演習Ⅰを通して、社会におけるさまざまな価値観を受け入れ、それに対応できるための基礎力を培います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲 律子	1年	オフィス・アワー（木曜4校時）に、5号館436研究室で対応します。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	さまざまな価値観との出会いの始まりとして、学生同士だけではなく学生と教員がコミュニケーションを行える場となることを目的とします。	知らないもの、慣れていないもの、変わったものに触れるのは不安なことです。でも、そこに触れることで初めて、新しい世界への窓が開かれるものです。一緒に、まだ見ぬ世界を見に行きましょう。
到達目標	「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」「話す力」は大学生にとって必要な5つの力です。基礎演習Ⅰでは、まず、個人でこの力を身につけることを目標とします。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと自己紹介	課題の作成
	2	他者紹介	課題の作成
	3	フレッシュマンテスト	課題の作成
	4	海外・国内留学セミナー（合同）	課題の作成
	5	図書館オリエンテーション（合同）	課題の作成
	6	図書館オリエンテーション課題の作成と提出	課題の作成
	7	キャンパスライフシートの作成と発表	課題の作成
8	メール作成のレッスンとノートテイクのレッスン（1）	課題の作成	
9	メール作成のレッスンとノートテイクのレッスン（2）	課題の作成	
10	学外見学	課題の作成	
11	書評のレッスン（1）ガイダンスと作成準備	課題の作成	
12	インターンシップ報告会（合同）	課題の作成	
13	書評のレッスン（2）作成	課題の作成	
14	書評のレッスン（3）提出	課題の作成	
15	書評のレッスン（4）講評会とまとめ	課題の復習	
16			
テキスト・参考文献・資料など	授業内で必要に応じてプリントを配付します。 ※参考文献についても授業内で必要に応じて紹介します。		
学びの手立て	読書や映画鑑賞、スポーツや旅行、人や人が表現したものであれば、どういったものでも構いません。大学以外の場で、さまざまな感性に触れる機会を意識的に作るようにして下さい。そして、その際に自分の内に生まれた心や思考の動きを言葉にして表すようにして下さい。ささやかでも日々のそうした心掛けが、コミュニケーションの力のゆるぎない礎となります。		
評価	平常点（40％）と、課題やプレゼンテーションの得点（60％）で評価します。 ※ただし、単位取得のためには、授業における3分の2以上の出席を義務づけます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅱでは基礎演習Ⅰで身に付けた力をさらに深めます。基礎演習ⅠとⅡを通して、大学生としてのコミュニケーション力の基礎を育みますので、基礎演習Ⅰに引き続いて基礎演習Ⅱを受講して下さい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

専門科目を受講する前に、大学生として身につけるべき読解力、表現力等の演習を行う基礎科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	齋藤 星耕	1年	5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習では、新入生相互または教員との間でコミュニケーションを深めながら、大学とはどのような場所であるかを知り、学生生活に必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を習得する。また、将来に目を向ける機会とする。	大学での学び方を学ぶセミナーです。また、新入生同士が協力しながら課題をこなす中で、お互いを知る機会ともなるでしょう。ぜひ欠席しないで、このセミナーを大学生活のスタートアップの場として活用していきましょう。また大学生活にかかわる様々な疑問についても気軽に教員に相談してください。
到達目標	グループで共同して調べたり、議論して集約することが出来る グループで調べた/議論したことに基づいてレジュメを作成することが出来る 調べたこと/考えたことをレポートにまとめることが出来る	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	時間割の検討
	2	回転自己紹介	ゼミメンバーを良く知る
	3	スカベンジャーハント	学内の各施設について調べる
	4	フレッシュマンテスト	高校までの学習内容を振り返る
	5	図書館オリエンテーション	課題レポート
	6	キャリアガイダンス	内容の整理・振り返り
	7	留学セミナー	内容の整理・振り返り
	8	グループディスカッション	議論の進め方について振り返る
	9	プレゼンのやりかた：他者紹介	プレゼンについて振り返る
	10	レジュメのつくり方	レジュメ作成、プレゼン練習
	11	レジュメを用いたプレゼン	レジュメ作成、プレゼン練習
	12	インターンシップセミナー	内容の整理・振り返り
	13	レポート作成(1) 資料の探し方	レポート作成
	14	レポート作成(2) 作成	レポート作成
15	レポート作成(3) 修正作業	レポート作成	
16	個人面談	今後の学生生活の展望をまとめる	
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。	
学びの手立て	毎回出席し、やむを得ず欠席の場合には事前に連絡すること。無断欠席はグループでの作業・発表で他のメンバーに迷惑をかけることとなります。		
評価	出席状況、発表、レポートなどを総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：基礎演習 II、地域セミナー I & II、演習 I & II
-------	---

※ポリシーとの関連性

専門科目を受講する前には、大学生として身につけるべき基礎科目を提供。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲 薫	1年	研究室5-632 kuezu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	学生間および教員とのコミュニケーションの場を提供し、相互の理解を深めながら、大学生にとって必要な5つの力「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」「話す力」を身につけることを目標とします。	基礎演習Ⅱは、文章能力やグループ活動によるコミュニケーション能力の向上を目指す共に、2年次必修のゼミ「地域セミナー」を踏まえて、野外実習に関心を持ちましょう。

到達目標	①書評作成を通じて小論文の書き方やプレゼンテーションの方法を学び、実践できる。②巡検（野外実習）を行い、地域性および地域資源の発見することができる。③「環境政策」か「地域経済政策」のいずれかをテーマにして、グループで政策提言を行うことができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	後期ガイダンス、書評作成①	書評対象書籍を選定・読む
	2	書評作成②	書評を作成
	3	海外体験報告会	報告会説明理解シート作成
	4	書評作成③・提出・添削	書評を作成
	5	書評作成④・提出・添削・完成	書評の修正・加筆
	6	巡検（宜野湾市内）	巡検レポート作成
	7	インターンシップ体験報告会	報告会説明理解シート作成
	8	巡検レポート作成・提出・添削①	各自レポートを作成
	9	巡検レポート作成・提出・添削②	各自レポートを作成
	10	政策提言発表の説明、政策提言のパワーポイント作成①	対象地域の選定、役割分担の決定
	11	政策提言のパワーポイント作成②	グループで作成
	12	政策提言のパワーポイント作成③	グループで作成
	13	政策提言発表・ディスカッション①	議論内容をまとめる
	14	政策提言発表・ディスカッション②	議論内容をまとめる
15	政策提言発表・ディスカッション③	議論内容をまとめる	
16	まとめ（受講生の達成度と反省・今後）	各自が1年間を振り返る	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：使用しない。 参考文献：①伊藤義之（2005）『はじめてのレポート』嵯峨野書院。②学習技術研究会編（2002）『知へのステップ-大学生からのスタディ・スキルズ-』くろしお出版。③中島勝利・塚本真也（1996）『知的な科学・技術文章の書き方』コロナ社。④高橋伸夫・溝尾良隆編（1989）『地理学講座 第6巻 実践と応用』、古今書院
-------	--

学びの手立て	履修の心構え：出席（遅刻厳禁）やゼミの態度、発言内容を重要視する。やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ず事前にメールにて連絡すること。 学びを深めるために：日常的に地域の問題・課題に関心を持ち、新聞や専門図書等を読む。
--------	---

評価	書評（30%）内容を把握し、他の事例を踏まえながら、自分自身の意見を記述できるかを評価する。 巡検レポート（40%）巡検に参加し、見聞きした内容をまとめることができるかを評価する。 グループ発表（30%）他の学生と分担してパワーポイントを作成し、各自が意見・提言を発言できるかを評価する。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」で身につけた文書作成力・発言力・論理的思考力などを2年次以降のゼミで活かして欲しい。 関連科目：「地域セミナーⅠ・Ⅱ」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」
-------	---

※ポリシーとの関連性 専門科目を受講する前には、基礎科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 伊津子	1年	itukoアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 今後の大学生活でどう学ぶかを計画的に考えることをねらいとします。	メッセージ 大学生活という貴重な時間を大事に過ごしてください。【実務経験】を活かした授業を展開する。
	到達目標 小論文を書くことができる。基本的なプレゼンテーションができる。ディスカッションができる。	

学びの準備	到達目標 小論文を書くことができる。基本的なプレゼンテーションができる。ディスカッションができる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読む
	2	プレゼンテーションの基礎	授業の内容を復習
	3	新聞を使ったプレゼンテーション(1)	新聞を読む
	4	新聞を使ったプレゼンテーション(2)	//
	5	国際交流セミナー	授業の内容を復習
	6	小論文の書き方(1)	//
	7	小論文の書き方(2)	//
	8	小論文の書き方(3)	//
	9	キャリアセミナー	//
	10	学外ゼミ	//
	11	グループディスカッション(1)	//
	12	グループディスカッション(2)	//
	13	グループディスカッション(3)	//
	14	ディベート(1)	//
15	ディベート(2)	//	
16	ディベート(3)	//	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書は指定しません。適宜授業の中で指導します。		
学びの実践	学びの手立て やむをえない事情で欠席する場合は必ず事前にメールをしてください。		
学びの実践	評価 レポート課題(30%)、発表(20%)、平常点(50%) 2/3以上の出席がなければ不可となります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「地域セミナーⅠⅡ」「演習ⅠⅡ」「演習ⅢⅣ」
-------	---------------------------------------

※ポリシーとの関連性

専門科目を受講する前に、大学生として身につけるべき読解力、表現力等の演習を行う基礎科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	齋藤 星耕	1年	5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習では、新入生相互または教員との間でコミュニケーションを深めながら、大学とはどのような場所であるかを知り、学生生活に必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を習得する。また、将来に目を向ける機会とする。	大学での学び方を学ぶセミナーです。後期は、より実践的に、小論文やディベート、スライドを用いた発表に取り組みます。
到達目標	新聞記事などについて自分の考察・意見を小論文としてまとめることができる。意見の異なる相手と論理的・対話的な討論ができる。スライドを用いたプレゼンテーションの作成・発表ができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 履修指導、e-mailの書き方	時間割の検討
	2	人権・公民権 (1) 振り返りワークショップ	内容の整理・復習
	3	インターンシップセミナー	内容の整理・復習
	4	人権・公民権 (2) 選挙・被選挙権、デモンストレーション	内容の整理・復習
	5	人権・公民権 (3) 被雇用者の権利	内容の整理・復習
	6	留学セミナー	内容の整理・復習
	7	レクリエーション	レクリエーションの反省
	8	人権・公民権 (4) 両性の平等	内容の整理・復習
	9	人権・公民権 (5) 性的マイノリティ	内容の整理・復習
	10	人権・公民権 (6) 民族	内容の整理・復習
	11	発表スライド作成 (1) パワーポイントの使い方、資料の探し方	スライド、レジュメ、読み原稿作成
	12	発表スライド作成 (2) パワーポイントによるスライド作成	スライド、レジュメ、読み原稿作成
	13	発表スライド作成 (3) レジュメ、読み原稿の準備	スライド、レジュメ、読み原稿作成
14	スライド発表(1)	発表練習	
15	スライド発表(2)	発表練習	
16	個人面談、まとめ	半期の振り返り、今後の展望	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。		
学びの手立て	毎回出席し、やむを得ず欠席の場合には事前に連絡すること。		
評価	出席状況、レポート、発表などを総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目： 地域セミナー I & II、演習 I & II
-------	--

※ポリシーとの関連性 専門科目を受講する前の大学生として身につけるべき学びの技術（PCリテラシー等）を習得するための基礎科目。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山川（矢敷） 彩子	1年	メール： a.yamakawaアットokiu.ac.jp 研究室： 9号館505室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習のねらいは、新入生と教員がコミュニケーションを深めながら、大学生としての必要なスキル（情報収集能力・読解力・文章作成能力・プレゼンテーション能力）を養うことである。最終的には、個人でレポートを作成し、レジメを作成した上、コンピュータプレゼンテーションをすることを旨とする。基礎演習Ⅱは基礎演習Ⅰ（山川）を登録許可した学生のみ登録すること。	大学生生活を有意義に過ごすためには、最初が大事です。学業面だけでなく、大学生活について疑問に思ったこと、わからないことは気軽に質問してください。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な専門書を読み込み、自分なりに理解しレジメにまとめる事ができる。 ・基本的な論文・レポートの書き方のルールを理解し身に付ける。 ・レジメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。 ・大学生活のルールや学生支援の内容を理解し、4年間の計画および卒業後の目標を立てることが出来る。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを熟読する。
	2	レポート作成①	レポート用の資料収集をする。
	3	海外体験報告会（合同ゼミ）	フィードバックシートを記入する。
	4	レポート作成②	レポート作成をする。
	5	レポート作成③	レポート作成をする。
	6	レポート作成④	レポート修正をする。
	7	インターンシップ体験報告会（合同ゼミ）	フィードバックシートを記入する。
8	レジメ作成①	レジメ作成とレポート修正をする。	
9	パワーポイント作成①	レジメ修正とPPT作成をする。	
10	パワーポイント作成②	PPTスライド作成をする。	
11	パワーポイント発表①	PPT作成と発表練習をする。	
12	パワーポイント発表②	PPT作成と発表練習をする。	
13	パワーポイント発表③	PPT作成と発表練習をする。	
14	パワーポイント発表④	PPT作成と発表練習をする。	
15	レポート課題①	レポート修正をする。	
16	レポート課題②	レポート修正をする。	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは指定しない。 資料は講義内で配布し、参考文献は必要に応じて紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習は一年次必修の科目なので必ず出席すること。 ・やむを得ず欠席する場合は、必ず事前にメールで教員に連絡をすること。 ・欠席した場合は、できるだけ早く資料を教員の元へ取りに行くこと。 <p>※無断欠席はグループ作業を遅延させ、報告会等のスケジュールを狂わせ、グループメンバーに多大な迷惑をかけることになる。</p>		
評価	<p>単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出、およびプレゼンテーションの実施が必須である。評価は、ゼミにおける発言の内容やレポート、プレゼンテーションの内容により総合的に評価する。</p> <p>評価は、授業参加度30%、課題（レポートやレジメ）の取組姿勢、出来60%、プレゼンテーション10%とする。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	専門必修科目：「地域セミナーⅠ・Ⅱ」、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」

※ポリシーとの関連性 専門科目を受講する前に、大学生として身につけるべき読解力、表現力等の演習を行う基礎科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	砂川 かおり	1年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。読む力、考える力、書く力、プレゼンテーション能力を高める。	メッセージ ・指定されたクラスに登録すること。
	到達目標 大学生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。レポート、パワーポイント資料等の作成方法を習得し、表現力・プレゼンテーション能力を高める。	

学びの準備	到達目標 大学生活に適応し、教員、学生同士のコミュニケーションを深める。レポート、パワーポイント資料等の作成方法を習得し、表現力・プレゼンテーション能力を高める。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、成績・時間割確認、夏期休暇中の課題提出	資料を読んで復習する。
	2	ボウリング大会（予定）	夏期休暇中の課題復習
	3	合同ゼミ（10月10日） 海外体験報告会（厚生会館4階ホール）	配布資料を読んで予習する。
	4	書評（1）本選び	本を読む、書評の骨子を考える。
	5	書評（2）書評作成、提出	書評の再チェック
	6	書評（3）書評についての意見交換会	配布資料を読んで、復習する。
	7	合同ゼミ（11月7日（木）） インターンシップ体験報告会（厚生会館4階ホール）	配布資料を読んで、復習する。
	8	巡検レポートの書き方の説明、PPT作成の説明	配布資料を読んで、復習する。
	9	おきなわ国際協力・交流フェスティバル2019 参加（11月22・23日予定）	PPTを作成する。
	10	発表用PPT原稿作成・提出	PPT原稿の見直し
	11	発表用PPT原稿添削・修正・再提出	PPT修正・再提出
	12	レポート作成	レポートの作成・提出
	13	発表1、レポート提出・添削	発表練習・レポート修正
	14	発表2 レポート修正・再提出	レポートの見直し
	15	レポートについての意見交換会	後期の授業の振り返り
16	まとめ・授業評価アンケート	春季休暇中の計画を立て、実行。	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。 参考文献は、適宜紹介する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て ・欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。事前又は後日、欠席届を提出すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・学年合同によるセミナーの開催等、開催場所の変更に注意してください。
-------	--

学びの実践	評価 欠席が5回以上の場合「不可」。 評価配分：授業参加度（15%）、合同ゼミ・リフレクションシート（5%）、書評（20%）、 巡検PPT（20%）、PPT発表（10%）、巡検レポート（30%）。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「地域セミナーI」・「地域セミナーII」
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名 基礎演習Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 木2	単位 2
	担当者 前泊 博盛	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ 5号館405研究室で個人面談。hmaedomari@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。	メッセージ 「沖縄に住んでいるのに、沖縄のことを知らない」という受講後の感想が多く寄せられます。「汝の足元を深く掘れ」（Nietzsche＝ニーチェ）という言葉があります。足元にある事実を掘り下げ、真実を探求する。「沖縄」を徹底的に研究することで、世界を知るノウハウ、手法を入手できます。
	到達目標 1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	基礎演習Ⅱ後期演習ガイダンス	後期基礎演習の課題の確認
	2	経済学の基本書講読・PP発表①	経済学の基本書講読術の習得
3	合同ゼミ（海外留学体験報告会）＝厚生会館4階		海外留学の基礎情報収集
4	経済学の基本書講読・PP発表②		経済学の基本書講読術の習得
5	経済学の基本書講読・PP発表③		経済学の基本書講読術の習得
6	経済学の基本書講読・PP発表④		経済学の基本書講読術の習得
7	経済学の基本書講読・PP発表⑤		経済学の基本書講読術の習得
8	合同ゼミ（インターンシップ体験報告会）＝厚生会館4階		インターンシップの基礎情報収集
9	論文執筆指導①（個別指導）		論文執筆力の向上・基本論文の熟読
10	論文執筆指導②（個別指導）		論文執筆力の向上・基本論文の熟読
11	論文執筆指導③（個別指導）		論文執筆力の向上・基本論文の熟読
12	論文執筆指導④（個別指導）		論文執筆力の向上・基本論文の熟読
13	論文執筆指導⑤（個別指導）		論文執筆力の向上・基本論文の熟読
14	フィールドワーク（離島調査）		フィールドワーク準備、アポイント
15	フィールドワーク調査結果のとりまとめと報告		1年間の基礎演習のとりまとめ
16	基礎演習Ⅱの総括		最終報告書のとりまとめ
	テキスト・参考文献・資料など 前泊博盛著「もっと知りたい！本当の沖縄」（岩波ブックレット）前泊博盛著「沖縄と米軍基地」（角川新書） その他		
	学びの手立て 経済辞典、経済学辞典を活用した基本書の読破と読書ノートの作成。経済学の基本用語、キーワード、基本理論の習得		
	評価 演習における積極的な調査・研究活動への参加状況、調査報告書の作成・発表の内容などで総合的に評価		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基本書を通読、読書や新聞講読の習慣化、日常生活の中での経済問題に対する関心を高め、沖縄経済論、琉球・沖縄経済史の受講へ
-------	--

※ポリシーとの関連性

基礎演習Ⅰに引き続き、基礎演習Ⅱでは、社会におけるさまざまな価値観を受け入れ、それに対応できる基礎力を高めます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上江洲 律子	1年	オフィス・アワー（木曜4校時）に、5号館436研究室で対応します。	

学びの準備	ねらい メディアを通して伝えられるさまざまな価値観を受容し、それに関する自分の考え方を構築し、それを自ら発信できる力を身につけることを目的とします。	メッセージ 大学生にとって必要な5つの力「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」「話す力」は社会を生き抜く力でもあります。大学時代にその力を培えるよう、相談しながら一緒に歩んでいきましょう。
	到達目標 基礎演習Ⅱでは、基礎演習Ⅰを通して育んだ「読む力」「聞く力」「考える力」「書く力」「話す力」という5つの力が、他者とのコミュニケーションを前提とするグループ活動においても発揮されるようになることを目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスと夏休みの報告会	課題の作成
	2	映画評のレッスン（1）ガイダンスと映画鑑賞	課題の作成
	3	海外体験報告会（合同）	課題の作成
	4	映画評のレッスン（2）作成と提出	課題の作成
	5	映画評のレッスン（3）講評会	課題の復習
	6	PPTプレゼンのレッスン（1）ガイダンスとグループ活動準備	課題の作成
	7	インターンシップ体験報告会（合同）	課題の作成
	8	PPTプレゼンのレッスン（2）グループ活動	課題の作成
9	PPTプレゼンのレッスン（3）グループ活動	課題の作成	
10	PPTプレゼンのレッスン（4）発表会	課題の作成	
11	PPTプレゼンのレッスン（5）講評会	課題の復習	
12	キャンパスライフシートの作成と発表	課題の復習と作成	
13	まとめと個人面談（1）	課題の作成と復習	
14	個人面談（2）	課題の作成と復習	
15	個人面談（3）	課題の作成と復習	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 授業内で必要に応じてプリントを配付します。 ※参考文献についても、授業内で必要に応じて紹介します。		
	学びの手立て どんな場合でも、前もって考えておくことはとても重要です。少しずつ構わないので、自分が発表する時は勿論、他の人の発表を聞く際にも、先に自分の考えをまとめておく習慣をつけるようにして下さい。そうすることで、伝えられることへの理解が一層深まっていくと思います。		
	評価 平常点（40%）と、課題やプレゼンテーションの得点（60%）で評価します。 ※ただし、単位取得のためには、授業における3分の2以上の出席を義務づけます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1年生で基礎演習ⅠとⅡを終えた後、2年生で受講するのがフィールドワークを中心とした地域セミナーⅠとⅡとなります。基礎演習ⅠとⅡを通して身につけた大学生として必要な5つの力を、地域セミナーⅠとⅡで発揮して下さい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 企業からのミッションを解決することを通じて、自らの意見を明確に筋道立てて説明できる能力を向上させる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリアデザイン論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	2年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業から与えられたミッション（課題）に対して、グループに分かれて作業を分担し、主に学生同士の質疑応答で授業は進行する。したがって、プレゼン力、コミュニケーション力が養われ、本格的な就職活動に向けて、自分に相応しい職業や進路を見出すきっかけとなることができる。	メッセージ この講義は PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）形式の講義である。PBLとは、「課題解決型授業」のことで、通常の座学中心の講義とは一線を画するものである。時間外に会社訪問や打ち合わせ等あり、大変ではあるが、企業の方も学生への課題解決のため協力してくれる。講義を通して社会人との交流が深まる。もっと積極的になり、大学生生活を充実させ、就活にも活かしたい人向け。
	到達目標 自ら課題を見つけ、解決するための行動を起こすことができる。 仲間と一緒に考えたり、自分の意見を言うなどのコミュニケーション力がつく。 自らの言葉で発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	社会人に求められる力を考える
	2	チームづくりと1シート企画	企画提案のしかたを調べる
	3	企業からのミッション	ミッションに対する解決法を考える
	4	チームワークとコミュニケーション	チームメンバーをよく知る
	5	課題解決（1）～企業ミッションと課題を探る～	ミッションに対する解決法の検討
	6	課題解決（2）～課題解決のアプローチ方法～	企業訪問・インタビューなど、打ち合わせや情報収集を行う
	7	課題解決（3）～ユニーク発想法～	同上
	8	課題解決（4）～提案の事業プランの作り方～	同上
	9	中間プレゼンテーション	同上
	10	プレゼンテーション技術基礎～プレゼン本番に向けた企画書のブラッシュアップ～	チームで企画書を作成する
	11	課題解決（5）	同上
	12	課題解決（6）	同上
	13	プレゼン本番前リハーサル	発表の事前練習を行う
	14	プレゼン本番	本番に向けた準備と練習を行う
15	各チーム企画提案書の振り返り	提案に対する事後評価を行う	
16	自身の学びの振り返り	自身の行動指針を立てる	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特にな 講義時に指定する		
	学びの手立て 出席を重視する。 講義のねらいをしっかりと自覚し、積極的に発言、チーム活動に参加すること。 チームとしての活動が中心になるので、チームリーダー及びメンバーの役割分担が重要になる。 社会人との付き合いがあるので、社会人としてのマナーを守ることを心がけること。 3大学（沖国大、琉大、女子短大）合同プレゼン大会も予定しており、他大学との競争を通してプレゼン力に磨きをかけることができる。2017年度は、沖国大のグループが最優秀賞をもらった。		
	評価 出席、グループワークの進め方、プレゼンの結果を総合的に勘案して評価する。 出席と毎回提出するリアクションペーパー（80点） プレゼン結果（20点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 自らの行動力や課題解決力が高まっているので、目的を持って専門科目等をとることができる。また、学外活動も積極的に行う。 就職活動に対しても積極的に取り組むことができる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	近代沖縄経済史	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>琉球王国時代の経済から薩摩の琉球入り、琉球処分による琉球王国の廃止と明治政府下の沖縄経済に関する分析を行います。 基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。</p>	<p>琉球王国時代の経済の特徴、薩摩支配による経済の変化、琉球処分後の経済振興策、米軍統治下の基地経済、復帰後の沖縄振興策を検証することで、沖縄経済の課題と展望を概観します。</p>
到達目標	<p>1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球経済史の概要（ガイダンス）	琉球史のまとめ
	2	琉球王国経済の特徴（後進性、零細性、従属性）	琉球王国の特徴
3	近世沖縄の経済構造	琉球王国経済のしくみを学ぶ	
4	首里王府の財政構造	首里王府の税収、公共事業は？	
5	「薩摩の琉球入り」と王府経済の変貌	大交易時代の貿易規模は？	
6	「大交易時代」と琉球経済	琉球処分は何をもたらしたか？	
7	「琉球処分」と明治期の沖縄経済	明治政府の中の「沖縄」の位置づけ	
8	明治政府の沖縄経済政策	明治政府の沖縄「振興策」とは？	
9	旧慣制度下の農村経済の構造	旧慣温存策はなぜ必要だったのか？	
10	商品経済の進展と「資本主義」生産様式の形成	資本主義とは？	
11	沖縄経済の近代化	経済の「近代化」とは何か。	
12	農林水産業の近代化	農林水産業の「近代化」とは？	
13	第一次世界大戦と沖縄経済	戦争経済は沖縄に何を与えたか？	
14	昭和恐慌と「ソテツ地獄」	ソテツ地獄とは？	
15	沖縄振興計画と戦時統制経済	戦時統制経済下の沖縄の特徴は？	
16	琉球経済史のまとめ	温故知新。琉球に学ぶ沖縄の未来像	
テキスト・参考文献・資料など	百瀬・前泊著『検証「沖縄問題」－復帰後30年経済の課題と展望』（東洋経済新報社）2002年ほか		
学びの手立て	琉球・沖縄史を整理し、琉球王国時代を経済の視点から再検証する。唐の世から大和の世、大和の世からアメリカ世、アメリカ世から再び大和の世へと変化する琉球・沖縄の歴史の変遷を経済史として再整理する。		
評価	変化する時代を経済の視点から読み解き、課題と展望をまとめる。リアクションpaperと温故知新の実践をもとに書かれたReportで評価。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	琉球経済史と沖縄経済史を通年で受講するのが望ましい。大学院地域産業研究科「沖縄経済特論」「沖縄経済特殊研究ⅠⅡ」への進学も期待したい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	金融論 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 伊津子	2年	itukoアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 金融の基礎的な知識を定着させることをねらいとする。	メッセージ 金融、経済に興味がある学生にお勧めします。 【実務経験】を活かした授業を展開する。
	到達目標 金融の基礎的な用語を理解できる。時事問題についてわかりやすく説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読む
	2	金融とは何か	授業の復習、参考文献を読む
	3	企業の金融行動	〃
	4	家計の金融行動	〃
	5	政府の金融行動	〃
	6	金融機関・金融市場	〃
	7	わが国の金融制度（1）	〃
	8	わが国の金融制度（2）	〃
	9	金融のマイクロ理論（1）	〃
	10	金融のマイクロ理論（2）	〃
	11	金融政策（1）	〃
	12	金融政策（2）	〃
	13	グループ報告会	グループで報告会の準備
	14	グループ報告会	〃
15	グループ報告会	〃	
16	グループ報告会	〃	
テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。参考文献としては、下記。 「入門金融」吉野直行・高月昭年（編著）有斐閣 「エコノミクス入門金融」池尾和人（編著）ダイヤモンド社			
学びの手立て やむを得ない事情で欠席する場合は事前にメールをしてください。 教科書は指定しないが、金融論とついでに書籍で読みやすいものを自分で探して読むとより理解が深まります。 。「金融論Ⅰ」を受けてから「金融論Ⅱ」を受けてほしいと思います。			
評価 評価:小テスト50点+ グループ報告50点 = 100点 ・小テスト: 講義の最後にほぼ毎回行う。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 「マイクロ経済学ⅠⅡ」「マクロ経済学ⅠⅡ」「国際経済論ⅠⅡ」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	金融論Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 伊津子	2年	itukoアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 金融の発展的・実地的な知識を定着させることをねらいとする	メッセージ 金融・経済に興味のある学生にお勧めします。【実務経験】を活かした授業を展開する。
	到達目標 金融の基本的な用語を理解する。金融に関する時事問題をわかりやすく説明できる。	

学びの準備	到達目標 金融の基本的な用語を理解する。金融に関する時事問題をわかりやすく説明できる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	企業の資本構成と企業価値
	3	株主主体のガバナンスと銀行主体のガバナンス
	4	金融市場の基本設備－証券取引所・法制度・規制監督・情報提供機関－
	5	政策金融
	6	日本銀行と金融政策
	7	保険の基礎知識
	8	社会問題と金融－環境金融、開発金融－
	9	社会人になる前に知っておきたい金融知識
	10	国際金融－国民所得勘定、国際収支－
	11	国際金融－外国為替の仕組み、外国為替レート－
	12	国際金融－為替リスクヘッジの手法－
	13	国際金融－金融危機－
	14	報告会
	15	報告会
16	報告会	
		時間外学習の内容
		シラバスを読む
		授業の復習、参考文献を読む
		//
		//
		//
		//
		//
		//
		//
		//
		報告会の準備
		//
		//

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：指定なし。参考文献は、「入門金融」吉野直行・高月昭年（編著）有斐閣 「エコノミクス入門金融論」池尾和人（編著）ダイヤモンド社。
-------	---

学びの実践	学びの手立て やむをえない事情で欠席する場合は、必ず事前にメールすること。
-------	--

学びの実践	評価 評価：小テスト50点+ 報告50点 = 100点 ・小テスト：講義の最後にはほぼ毎回行う。 ・報告：1人1回、講義に関連する新聞記事を各自で用意してその解説を行う。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 「マクロ経済学ⅠⅡ」「ファイナンシャルプランニングⅠⅡ」「国際経済論ⅠⅡ」
-------	--

※ポリシーとの関連性

専門科目を受講する前には、大学生として身につけるべき語学などの基礎科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバルセミナー I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	砂川 かおり	2年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	グローバル化が進行する中で、経済活動も環境協力も国際的な視野が求められます。他国の情報を収集するグローバル適応力と共に、自らを主張できる国際人として、まずは自らの足元、ローカルな情報についても学び、表現力も高めていきます。	外国に興味がある学生の皆さんや、留学の準備をしたい学生の皆さんのためのセミナーです。校外に出かけたり、実践的な指導を行うため、受講者数には定員があります。受講希望者が多い場合は、条件に則って抽選します。詳しくは、授業で説明しますので、初回の授業には必ず参加して下さい。
到達目標	海外に出掛ける時や留学時に必要な情報を収集する力を習得する。また、海外で自らや出身地を紹介できる知識と表現力を身につける。受講生のレベルに合わせて、到達目標を設定し、可能な範囲で外国語での自己紹介、沖縄の紹介（経済分野・環境分野を含む）ができるようになることを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業概要説明、受講生自己紹介、興味のある国・留学希望先報告	留学制度等について調べる
	2	英会話（1）、海外インターンシップ・留学制度の紹介（本学内、学外の制度について）	海外渡航の目的等について整理する
	3	英会話（2）、海外渡航の目的・準備すること等について各自発表（日本語、外国語も可）	訪問希望先の国について調べる
	4	英会話（3）、興味のある国・留学希望先について（経済分野・環境分野を含む）PPTを作成	パワーポイント発表練習
	5	英会話（4）、興味のある国・留学希望先について（経済分野・環境分野を含む）PPT発表（1）	パワーポイント発表練習
	6	英会話（5）、興味のある国・留学希望先について（経済分野・環境分野を含む）PPT発表（2）	巡検先について予習する
	7	沖縄県立博物館訪問（予定）	沖縄の自然や歴史に関するレポート
	8	首里城訪問（予定）	首里城の紹介文（概要）を作成
	9	那覇市久米・天尊廟地 蔡温具志頭親方文若頌徳碑等を訪問（予定）	外国との関係についてレポート作成
	10	沖縄についての発表資料作成・添削（日本語又は、外国語）（1）	発表資料作成
	11	平和の礎・沖縄県平和祈念資料館 訪問（課題/6月23日）	外国との関係についてレポート作成
	12	沖縄についての発表リハーサル（1）、発表資料作成・添削（日本語又は、外国語）（2）	発表練習
	13	沖縄についての発表リハーサル（2）	発表練習
14	沖縄の歴史・文化、経済、環境、時事問題についての発表（1）（日本語又は、外国語）	発表練習	
15	沖縄の歴史・文化、経済、環境、時事問題についての発表（2）（日本語又は、外国語）	前期に学習したことの振り返り	
16	まとめ・授業評価アンケート記入	語学力向上の目標を立てて実践する	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは指定しない。随時資料を配布する。 参考文献：Profile of Okinawa：100 questions and answers / 沖縄の素顔：100 Q&A		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を受講し、課題がある場合は回答し、提出すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 ・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。 ・授業では、主な外国語として英語を使用します。「沖縄についての発表」等でその他の言語を使用したい場合には、初回の授業で担当教員に相談の上、受講について判断して下さい。 		
	評価		
	1/3以上欠席の者は不可。 授業参加度（15%）＋興味のある国に関する発表（10%＋5%） ＋巡検レポート（40%）＋沖縄に関する発表（25%＋5%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 グローバルセミナー I I
-------	------------------------------

※ポリシーとの関連性 専門科目を受講する前には、大学生として身につけるべき語学などの基礎科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバルセミナーⅡ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	砂川 かおり	2年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	グローバル化が進行する中で、経済活動も環境協力も国際的な視野が求められます。他国に関する情報収集能力、外国籍の人々とコミュニケーションできるグローバル適応力と共に、自らを主張できる国際人としての表現力も高めていきます。	外国に興味がある学生、留学に関心のある学生のためのセミナーです。在沖外国人・留学生との交流、学外での見学なども取り入れるため、ランチタイムや土曜日に授業が行われることもあります。

到達目標
海外旅行や留学時に必要な情報を収集する力を習得する。 また、学国籍の方とコミュニケーションする力も身につける。 国外における自らの興味を、沖縄の事例と比較しながら、説明できる能力も身に着ける。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業概要説明 受講生自己紹介、興味のある外国・留学希望先を報告	日本語又は外国語で質問を準備
	2	ゲストの地域を調べて、質問作成・提出（できれば、外国語）	日本語又は外国語で質問の練習
	3	海外事情（1） ゲストスピーカー：アメリカ人（予定）	レポート作成（1）・質問準備
	4	海外事情（2） ゲストスピーカー：澳門からの留学生（予定）	レポート作成（2）・質問準備
	5	海外事情（3） ゲストスピーカー：韓国からの留学生（予定）	レポート作成（3）
	6	OIST Weekend Tour(11月2日 予定)	巡検レポート作成（1）・質問準備
	7	海外事情（4） ゲストスピーカー：台湾からの留学生（予定）	レポート作成（4）
	8	（沖縄と対比させながら）海外で挑戦したいことの紹介 PPT（外国語）作成・提出	PPT原稿 見直し
	9	おきなわ国際協力・交流フェスティバル2019 参加（11月22～23日予定）	巡検レポート作成（2）
	10	（沖縄と対比させながら）海外で挑戦したいことの紹介 PPT（外国語）添削・修正・再提出	発表原稿案を考える
	11	海外で挑戦したいことの紹介 発表原稿（日本語又は、外国語）作成・提出	発表原稿 見直し
	12	海外で挑戦したいことの紹介 発表原稿（日本語又は、外国語）添削・修正・再提出	発表練習
	13	海外で挑戦したいことの紹介 PPT発表（できるだけ外国語で）リハーサル（1）	発表練習
	14	海外で挑戦したいことの紹介 PPT発表（できるだけ外国語で）リハーサル（2）	発表練習
15	海外で挑戦したいことの紹介 PPT発表（1）	発表練習	
16	海外で挑戦したいことの紹介 PPT発表（2）、まとめ・授業評価アンケート記入	後期の授業の振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
テキストは指定しない。随時資料を配布する。 参考文献：Profile of Okinawa：100 questions and answers / 沖縄の素顔：100 Q&A

学びの手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・講義を受講し、課題がある場合は回答し、提出すること。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・欠席する場合は必ず、欠席届を提出すること。 ・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。 ・授業では、主な外国語として英語を使用します。発表等でその他の言語を使用したい場合には、初回の授業で担当教員に相談の上、受講について判断して下さい。

評価
1/3以上欠席の者は不可。 授業参加度（15%）＋レポート（20%）＋巡検レポート（20%）＋発表（35%＋10%）

学びの継続
次のステージ・関連科目 グローバルセミナーⅠ、演習Ⅰ

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学入門Ⅰ	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 伊津子	1年	itukoアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	入門的な経済学を学び、専門科目、応用科目をよりスムーズに理解するために、必要な基礎知識を定着させることをねらいとする。	この講義を受講して、私たちの身近な問題が経済と深くつながり、皆さんの将来にも大きく影響することを理解して欲しい。また、経済学的な思考・視点を身につけ自らの生活に活かしてもらいたい。 【実務経験】を活かした授業を展開する。

到達目標	基礎的なマイクロ経済学の用語の意味を理解する。現実の経済について学んだ知識を使って理解しプレゼンテーションできる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読む
	2	教科書 第1章1, 2 *課題提出開始	事前にテキストを読む
	3	教科書 第1章3	〃
	4	教科書 第2章1	〃
	5	教科書 第2章2	〃
	6	教科書 第3章1, 2	〃
	7	教科書 第3章3	〃
	8	教科書 第4章1	〃
	9	教科書 第4章2	〃
	10	教科書 第4章3	〃
	11	教科書 第5章1	〃
	12	教科書 第5章2	〃
	13	教科書 第5章3	〃
	14	教科書 第6章1	〃
15	教科書 第6章2 *課題提出最終	〃	
16	グループ報告	これまでの授業内容の復習	

テキスト・参考文献・資料など	「最新版 アメリカの高校生が学ぶ経済学」ゲーリー・E・クレイトン（著）2014年、WAVE出版、2592円。
----------------	--

学びの手立て	講義で学んだ内容を日々の経済ニュースと関連させて考えましょう。
--------	---------------------------------

評価	小テスト（30%）、課題（40%）、グループ報告（30%）、平常点を加点。2 / 3以上出席を単位修得の必要条件とする。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 「マイクロ経済学ⅠⅡ」「労働経済学ⅠⅡ」「公共経済学ⅠⅡ」「地域経済学ⅠⅡ」「環境経済学ⅠⅡ」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学入門Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 伊津子	1年	itukoアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	入門的な経済学を学び、専門科目、応用科目をよりスムーズに理解するために、必要な基礎知識を定着させることをねらいとする。	この講義を受講して、私たちの身近な問題が経済と深くつながり、皆さんの将来にも大きく影響することを理解して欲しい。また、経済学的な思考・視点を身につけ自らの生活に活かしてもらいたい。 【実務経験】を活かした授業を展開する。

到達目標	基礎的なマクロ経済学の用語の意味を理解する。現実の経済について学んだ知識を使って理解しプレゼンテーションできる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読む
	2	テキスト第7章	事前にテキストを読む。
	3	テキスト第8章	〃
	4	テキスト第9章	〃
	5	テキスト第10章	〃
	6	テキスト第11章	〃
	7	テキスト第12章	〃
8	テキスト第13章	〃	
9	テキスト第14章	〃	
10	テキスト第15章	〃	
11	テキスト第16章	〃	
12	グループ報告	〃	
13	グループ報告	〃	
14	グループ報告	〃	
15	グループ報告	〃	
16	グループ報告	〃	
実践	テキスト・参考文献・資料など	「最新版 アメリカの高校生が学ぶ経済学」ゲーリー・E・クレイトン（著）2014年、WAVE出版、2592円。	
	学びの手立て	講義で学んだ内容を日々の経済ニュースと関連させて考えましょう。	
	評価	小テスト（30%）、課題（40%）、グループ報告（30%）、平常点を加点。2 / 3以上出席を単位修得の必要条件とする。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 「マクロ経済学ⅠⅡ」「労働経済学ⅠⅡ」「公共経済学ⅠⅡ」「地域経済学ⅠⅡ」「環境経済学ⅠⅡ」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済数学 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘 もえ子	1年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、経済学で使われる数学を初歩の基本的課題から応用分野までを解説する。練習問題を解くことにより、経済学に必要な数学の知識を身につける。「経済数学I」では、行列や行列式等の線形代数について学習する。</p>	<p>経済学を学ぶ上では、「数学」の知識はとても大切です。講義でわからないことがあれば気軽に相談して下さい。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・行列の基本的な計算ができる。 ・行列を利用して経済学の問題が解ける。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	行列の基本学習
	2	行列とは・いろいろな行列・行列の計算 (1) 加法・減法	行列の基本学習
	3	行列の計算 (2) 積	行列の基本学習
	4	行列の計算 (3) 逆行列・連立方程式の解法 (1)	行列の基本学習
	5	集合	集合の基本学習
	6	線形空間 (1)	線形空間の基本学習
	7	線形空間 (2)	線形空間の基本学習
	8	線形空間 (3)	線形空間の基本学習
	9	行列式 (1)	行列式の基本学習
	10	行列式 (2)	行列式の基本学習
	11	掃き出し法 (1)	掃き出し法の学習
	12	掃き出し法 (2)	掃き出し法の学習
	13	連立方程式の解法 (2)	連立方程式の解法の学習
14	経済学への応用 (1)	応用学習	
15	経済学への応用 (2)	応用学習	
16	期末試験	試験の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：テキストは使用しません。レジメを配布し、講義中に板書を行う。また、練習問題を配布する。</p> <p>参考文献：「初歩からの経済数学 (第2版)」, 三土修平, 日本評論社, 1996. 「経済数学」, 藤田渉, 勁草書房. 他講義時に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学は、毎回の講義の積み重ねがとても重要です。毎回の講義への出席および課題にしっかり取り組むこと。 ・学びを深めるために ・行列計算の基本については、高校の教科書や参考書が学びの助けになります。 		
評価	<p>平常点 (講義への取組) 10%、期末試験90%。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目：「経済数学II」は、「経済数学I」とは異なる手法を学びます。経済学の問題を解く手法を学ぶためには、履修すると良いでしょう。</p> <p>(2) 次のステージ：「産業連関論」等の経済系科目において、講義で学んだことを活かして新たな講義の理解を深めることができます。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済数学II	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘 もえ子	1年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、経済学で使われる数学を初歩の基本的課題から応用分野までを解説する。練習問題を解くことにより、経済学に必要な数学の知識を身につける。「経済数学II」では、経済学で扱われる関数について学び、微分法の基礎を習得する。	メッセージ 経済学を学ぶ上では、「数学」の知識はとても大切です。講義でわからないことがあれば気軽に相談して下さい。
	到達目標 ・微分法の基本的な計算ができる。 ・微分法を利用して経済学の問題が解ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス・微分とは	関数の種類学習
	2	いろいろな関数と逆関数	関数の種類学習
	3	指数関数と対数関数	関数の種類学習
	4	極限值	極限値の学習
	5	導関数	導関数の学習
	6	微分法(1)	微分法の基本学習
	7	微分法(2)	微分法の基本学習
	8	微分法(3)	微分法の基本学習
9	関数の増減	微分法の基本学習	
10	経済学への応用(1)	経済学への応用解法	
11	経済学への応用(2)	経済学への応用解法	
12	偏微分	偏微分の基本学習	
13	高階偏導関数	偏微分の基本学習	
14	全微分	全微分の基本学習	
15	ラグランジュ乗数法	ラグランジュ乗数法の学習	
16	期末試験	試験の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：テキストは使用しません。レジメを配布し、講義中に板書を行う。また、練習問題を配布する。 参考文献：「初歩からの経済数学」，三土修平，日本評論社，1996。「経済数学」，藤田渉，勁草書房。他講義時に紹介する。		
	学びの手立て 履修の心構え ・数学は、毎回の講義の積み重ねがとても重要です。毎回の講義への出席および課題にしっかり取り組むこと。 学びを深めるために ・微分法の基本については、高校の教科書や参考書が学びの助けになります。		
	評価 平常点（講義への取組）10%、期末試験90%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目：「経済数学I」では、「経済数学II」とは異なる手法を学びます。経済学の問題を解く手法を学ぶためには、履修すると良いでしょう。 (2) 次のステージ：「ミクロ経済学」等の経済系科目において、講義で学んだことを活かして新たな講義の理解を深めることができます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済地理 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1 年	メールでお問い合わせください。 mail:ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済地理学の課題、方法、視角について概観したあと、日本および沖縄、そして世界の農業地域の形成と構造および農業立地論について考察していく予定である。適宜、関連資料の配付、視聴覚教材も利用する。	メッセージ 日頃、ニュースなどでわからない場所がでてきたら、地図で確認する習慣をつけてください。
	到達目標 日常、新聞やテレビのニュースでみる農業関係の事柄について理解できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済地理学の課題・方法・視角(1)	プリントの復習
	2	経済地理学の課題・方法・視角(2)	プリントの復習
	3	日本の農業(1)	資料地理の研究、プリントの復習
	4	日本の農業(2)	資料地理の研究、プリントの復習
	5	沖縄の農業	資料地理の研究、プリントの復習
	6	世界の農業地域(1)	資料地理の研究、プリントの復習
	7	世界の農業地域(2)	資料地理の研究、プリントの復習
	8	世界の農業地域(3)	資料地理の研究、プリントの復習
	9	世界の農業地域(4)	資料地理の研究、プリントの復習
	10	農業立地論	資料地理の研究、プリントの復習
	11	世界の地域開発	資料地理の研究、プリントの復習
	12	日本の地域開発	資料地理の研究、プリントの復習
	13	農業と食糧問題(1)	資料地理の研究、プリントの復習
	14	農業と食糧問題(2)	資料地理の研究、プリントの復習
	15	まとめ	資料地理の研究、プリントの復習
	16	テスト	
	テキスト・参考文献・資料など 帝国書院「資料地理の研究」、「新詳高等地図」 講義の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て 1. 板書事項、口頭で説明したことを必ずノートに記述すること。 2. 配布プリントは必ずファイルに綴り、復習すること。		
	評価 成績は、テスト【50点】、レポート(2回)【50点】で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. 日本や世界の食料問題、人口問題について関心をもってもらおう。→人口食糧論 2. 日本や世界の鉱工業、商業活動に関心をもってもらおう。→経済地理II
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済地理Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済地理Ⅱでは、日本と世界の工業地域について学習する。とくに、工業の立地変動、についても講義する予定である。さらに、都市地理学、商業地理学についても触れて行きたいと思っている。適宜、関連資料の配付、ビデオ教材等の視聴覚教材も利用する。	メッセージ 日頃、ニュースなどでわからない場所がでてきたら、地図で確認する習慣をつけてください。
	到達目標 日常、新聞やテレビのニュースでみる工業関係の事柄について理解できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを熟読すること
	2	経済地理学の見方、考え方(1)	プリント、テキストの復習
	3	経済地理学の見方、考え方(2)	プリント、テキストの復習
	4	工業の分類と統計	プリント、テキストの復習
	5	工業の発達と経済	プリント、テキストの復習
	6	わが国の工業地域(1)	プリント、テキストの復習
	7	わが国の工業地域(2)	プリント、テキストの復習
	8	わが国の工業地域(3)	プリント、テキストの復習
9	世界の工業地域(1)	プリント、テキストの復習	
10	世界の工業地域(2)	プリント、テキストの復習	
11	世界の工業地域(3)	プリント、テキストの復習	
12	世界の工業地域(4)	プリント、テキストの復習	
13	都市の概念	プリント、テキストの復習	
14	小売業の立地と中心地	プリント、テキストの復習	
15	中枢管理機能の立地と都市システム	プリント、テキストの復習	
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 『新詳高等地図』、帝国書院、1500円、『新詳 資料地理の研究』、帝国書院、定価980円		
	学びの手立て 1. 板書事項、口頭で説明したことを必ずノートに記述すること。 2. 配布プリントは必ずファイルに綴ること。 。		
	評価 成績は、テスト【50点】、レポート(2回)【50点】で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 工業、都市、商業などの地理的事情について、地域的把握、分布論や立地論の視点から理解できるようにする。 関連科目:経済地理Ⅱ、地理学Ⅰ・Ⅱ、沖縄の地理
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	計量経済学Ⅰ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石田 三成	3年	メールアドレス mishida@eve.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義の目的は、多変量解析法のひとつである回帰分析を基軸に計量経済学の基礎を学ぶことである。具体的には、計量経済学の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用して統計処理し、その方法ならびに結果の解釈についての理解を深めいく。	メッセージ 計量経済学は楽しいかつパワフルな学問です。
	到達目標 ねらいの達成。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	テキスト序章を熟読する。
	2	基本統計量とエクセル（1）	テキスト第1章。
	3	基本統計量とエクセル（2）	テキスト第1章。2章。
	4	基本統計量とエクセル（3）	テキスト第2章。
	5	単回帰モデル（1）	テキスト第3章。
	6	単回帰モデル（2）	テキスト第3章。
	7	重回帰モデル（1）	テキスト第4章。
	8	重回帰モデル（2）	テキスト第4章。
9	重回帰モデル（3）	テキスト第4章。	
10	回帰モデルの仮説検定（1）	テキスト第5章。	
11	回帰モデルの仮説検定（2）	テキスト第5章。	
12	ダミー変数（1）	テキスト第6章。	
13	ダミー変数（2）	テキスト第6章。	
14	総まとめ（1）	テキスト第1章～第6章。	
15	総まとめ（2）	テキスト第1章～第6章。	
16	最終試験	テスト問題の見直し。	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト ・ [例題で学ぶ] 初歩からの計量経済学、白砂堤津耶（著）、日本評論社（¥2,800+税）。 参考文献 ・ 計量経済学、田中勝人（著）、岩波書店（¥2,100+税）。・ 計量経済学、山本拓（著）、新世社（¥3,300+税）。 ・ 計量経済学、浅野哲・中村二郎（共著）、有斐閣（¥3,000+税）。		
	学びの手立て 毎回出席すること。		
	評価 講義の評価は、平常点（30%）、最終試験（70%）により総合的に評価する。 出席回数が2/3に満たない者には単位を与えない。（公欠を除く）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 計量経済学Ⅱ
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	計量経済学Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高岡 慎	3年	メールアドレス takaoka@ll.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義の目的は、多変量解析法のひとつである回帰分析を基軸に計量経済学の基礎を学ぶことである。具体的には、計量経済学の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用して統計処理し、その方法ならびに結果の解釈についての理解を深めいく。	メッセージ 計量経済学は楽しいかつパワフルな学問です。
	到達目標 ねらいの達成。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	テキスト第1章～第6章。
	2	回帰モデルの復習（1）単回帰モデル	テキスト第3章。
	3	回帰モデルの復習（2）重回帰モデル	テキスト第4章。5章。
	4	回帰モデルの復習（3）ダミー変数	テキスト第6章。
	5	多重共線性（1）	テキスト第4章。
	6	多重共線性（2）	テキスト第4章。
	7	系列相関（1）	テキスト第7章。
	8	系列相関（2）	テキスト第7章。
9	連立方程式モデル（1）	テキスト第8章。	
10	連立方程式モデル（2）	テキスト第8章。	
11	連立方程式モデル（3）	テキスト第8章。	
12	産業連関分析（1）	テキスト第9章。	
13	産業連関分析（2）	テキスト第9章。	
14	総まとめ（1）	テキスト第1章～第9章。	
15	総まとめ（2）	テキスト第1章～第9章。	
16	最終試験	テスト問題の見直し。	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト ・ [例題で学ぶ] 初歩からの計量経済学、白砂堤津耶（著）、日本評論社（¥2,800+税）。 参考文献 ・ 計量経済学、田中勝人（著）、岩波書店（¥2,100+税）。・ 計量経済学、山本拓（著）、新世社（¥3,300+税）。 ・ 計量経済学、浅野哲・中村二郎（共著）、有斐閣（¥3,000+税）。		
	学びの手立て 毎回出席すること。		
	評価 講義の評価は、平常点（30%）、最終試験（70%）により総合的に評価する。出席回数が2/3に満たない者には単位を与えない。（公欠を除く）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習Ⅰ
-------	--------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	現代沖縄経済史	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。	琉球王国時代の経済の特徴、薩摩支配による経済の変化、琉球処分後の経済振興策、米軍統治下の基地経済、復帰後の沖縄振興策を検証することで、沖縄経済の課題と展望を概観します。

到達目標
1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球・沖縄経済史Ⅱの概要（ガイダンス）	戦後沖縄経済史の整理
	2	「琉球」から「沖縄」へ（政治制度の変化と沖縄経済）	琉球王国から沖縄県への変化
	3	沖縄戦と沖縄経済（戦争が破壊した経済の検証）	戦争は何を破壊し、奪ったか。
	4	米軍基地建設と地域経済	基地経済の生成過程
	5	米軍統治下の沖縄経済	米軍統治下の統制経済とは。
	6	戦後の「沖縄振興計画」の検証	米国は「沖縄」に何を求めたか。
	7	講和条約と基地依存経済（「土地収用令」と「島ぐるみ闘争」）	土地の収奪と産業構造の変化
	8	米軍統治下の「通貨政策」（B円からドル経済へ）	通貨政策は経済をどう変えたか。
	9	施政権の日本移管（「日本復帰」と沖縄経済	米軍統治と日本統治の違いは？
	10	日本政府による沖縄「復帰プログラム」の検証	「復帰」は経済をどう変えたか。
	11	「沖縄振興開発計画」と沖縄経済（復帰後30年の課題と展望）	開発庁方式の検証
	12	「沖縄振興計画」と沖縄経済（第四次振興計画の狙いと展望）	開発なき振興とは？
	13	「21世紀ビジョン」と沖縄経済（自律経済の行方）	21世紀ビジョンは何を目指すか。
	14	アジア経済戦略構想の経済効果	アジアの中の沖縄経済の役割は？
15	政府の沖縄振興策の検証	3K依存経済から新10K経済へ	
16	戦後沖縄経済史の総括	沖縄経済史のまとめ	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 百瀬・前泊著『検証「沖縄問題」－復帰後30年経済の課題と展望』（東洋経済新報社）2002年ほか
-------	---

学びの手立て	琉球・沖縄史を整理し、琉球王国時代を経済の視点から再検証する。唐の世から大和の世、大和の世からアメリカ世、アメリカ世から再び大和の世へと変化する琉球・沖縄の歴史の変遷を経済史として再整理する。
--------	--

評価	変化する時代を経済の視点から読み解き、課題と展望をまとめる。リアクションpaperと温故知新の実践をもとに書かれたReportで評価。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 琉球経済史と沖縄経済史を通年で受講するのが望ましい。大学院地域産業研究科「沖縄経済特論」「沖縄経済特殊研究ⅠⅡ」への進学も期待したい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	公害概論	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-玉栄 章宏	2年	電話：090-8412-1064	

学びの準備	ねらい 本講義では、世界における公害問題の歴史、日本の戦前の公害、戦後の高度経済成長期の公害問題、国による法整備、産業界の努力による公害の克服について紹介する。	メッセージ 国内外、県内の公害に関する新聞、テレビ、ネット情報などを大いに参考にしてください。
	到達目標 過去の国内外の公害の歴史を学ぶことは重要である。学んだことを学内で発表、新聞投稿を行うことなどを期待します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス、公害とは	新聞資料に対しメールで質問下さい
	2	海外における公害の歴史	同上
	3	日本における公害の歴史	同上
	4	戦後の4大公害（イタイイタイ病、他）	同上
	5	戦後の4大公害（イタイイタイ病・DVD）	同上
	6	戦後の4大公害（水俣病・新潟水俣病・DVD）	同上
	7	戦後の4大公害（四日市ぜんそく）	同上
	8	先進国から輸出された公害	同上
	9	公害と法規制の歴史（公害対策基本法、公害国会、他）	同上
	10	生活環境問題への移行	同上
	11	水質汚濁	同上
	12	騒音・振動・悪臭	同上
	13	土壌汚染、地盤沈下	同上
	14	沖縄県の環境問題①（沖縄県環境基本計画、他）	同上
15	沖縄県の環境問題②	同上	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。DVDや各種配布資料など（ファイルに綴じ、毎回持参する）。			
学びの手立て 授業でわからないことがあれば、積極的に質問してください。また、授業中はスマホで検索して学びに活かすことは大いに勧めます。但し、試験中はスマホの使用は禁止です。			
評価 ・ 期末試験によりする。再試験は実施しない。 ・ 欠席日から2週間以上過ぎた欠席届は受け取らないので注意する。 以下の場合、単位は与えない ・ 3分の1以上の欠席（欠席理由は考慮しない）。 ・ 出席で代筆が明らかとなった場合、期末試験を受けなかった場合、試験で不正をした場合。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 授業で学んだことを卒業論文に取り上げる場合や、受講後にもっと勉強したいこと等があれば、遠慮なく連絡ください。電話：090-8412-1064、e-mail：tamae-ak@amber.plala.or.jpです。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	交通と環境	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-玉栄 章宏	2年	電話：090-8412-1064	

学びの準備	ねらい 本講では、はじめに交通による環境への影響、大気汚染や二酸化炭素排出量、騒音を取り上げる。次に交通業界や観光業界、流通業界など交通と関連する業界の現状、特徴、環境保全の取組などを概説する。また、交通環境政策について交通需要マネジメントやモビリティ・マネジメント、環境対策を中心とした都市交通計画、環境政策統合（EPI）からみた交通政策について考える。	メッセージ 国内外、県内の交通に関する新聞、テレビ、ネット情報などを大いに参考にしてください。
	到達目標 ここ最近の「交通と環境」の関わりを学ぶことは大変重要である。学んだことを学内で発表、新聞投稿が出来ることなどを期待する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義説明	新聞資料に対しメールで質問下さい
	2	公共交通と社会	同上
	3	交通と大気汚染①	同上
	4	交通と大気汚染②	同上
	5	交通と大気汚染③	同上
	6	交通と二酸化炭素排出量	同上
	7	交通需要マネジメント①自家用車1)	同上
	8	交通需要マネジメント①自家用車2)	同上
	9	交通需要マネジメント②業務用	同上
	10	交通需要マネジメント③物流	同上
	11	モビリティ・マネジメント①海外：ソフト事業	同上
	12	モビリティ・マネジメント②海外：ロードプライジング	同上
	13	モビリティ・マネジメント③日本	同上
	14	モビリティ・マネジメント④提言・グループ活動：沖国大編	同上
15	業界の環境保全対策：運輸業の環境保全対策	同上	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。DVDや各種配布資料など（ファイルに綴じ、毎回持参する）。			
学びの手立て 授業でわからないことがあれば、積極的に質問してください。また、授業中はスマホで検索して学びに活かすことは大いに勧めます。但し、試験中はスマホの使用は禁止です。			
評価 ・ 期末試験により評価する。再試験は実施しない。 ・ 欠席日から2週間以上過ぎた欠席届は受け取らないので注意する。 ・ 以下の場合、単位は与えない ・3分の1以上の欠席（欠席理由は考慮しない）。 ・ 出席で代筆が明らかとなった場合、期末試験を受けなかった場合、試験で不正をした場合。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 授業で学んだことを卒業論文に取り上げる場合や、受講後にもっと勉強したいこと等があれば、遠慮なく連絡ください。電話：090-8412-1064、e-mail:tamae-ak@amber.plala.or.jpです。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済論 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-当銘 学	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国境を越えたさまざまな経済活動、すなわち貿易・資金移動・国債投資・人の移動・多国籍企業などの動向を、貿易理論・為替変動メカニズム・直接投資理論等の枠組みで捉えることで理解を深め、日本経済ならびに国際経済の直面する課題を考察する。</p>	<p>国際経済の枠組みの変遷の大きな流れを理解し、経常収支・為替等の変動、対外直接投資に伴う多国籍企業の動向を理論的枠組みの中でその根拠と要因の分析を通じて国際経済の直面する課題を理解していく講義内容となります。できるだけ、初学者にも理解できる平易な言葉で解説・説明します。</p>
到達目標	<p>国際的な経済現象を理解できるようになる。具体的には、経済新聞に掲載される為替変動の経済指標の動向に関連する経済解説記事をはじめ、その為替変動に伴って採用される多国籍企業の戦略・活動の動向、そして政府の対応政策などがある程度理解できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・国際経済はいま	時事経済問題に関心をもつ
	2	グローバル経済と日本	テキスト第1章の1節の予習
	3	グローバル化と日本経済構造	同上
	4	世界経済の潮流	同上、プリント予習
	5	戦後の国際経済体制	テキスト第1章の2節の予習
	6	固定相場制から変動相場制へ	同上・参考文献②の第8章
	7	1980年代以降の世界経済	テキスト第1章の2節の予習
8	為替レートと日本経済	テキスト第2章の第1節の予習	
9	為替レートの変動メカニズム	同上	
10	外国為替市場と為替レート	テキスト第2章の2節の予習	
11	為替リスクとヘッジング・為替投機	同上	
12	外国為替市場への介入	テキスト第2章の2節の予習	
13	購買力平価説・アセット・アプローチ	テキスト第2の3節の予習	
14	ファンダメンタルズ	同上	
15	固定相場制	テキスト第2章の4節の予習	
16	総括、期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>講義では基本的に「ゼミナール国際経済入門」伊藤元重(著)から転写したプリントをテキストとして使用しますので、テキストの購入は必要なし。基礎理論は板書で説明します。時間外学習の際の自主学習のための参考文献として以下を推薦する。①「私たちの国際経済」東京経済大学国際経済グループ(著)、②「初めての国際経済」浦田秀四郎(著)、「コア・テキスト国際経済学」大川昌幸(著)。</p>		
学びの手立て	<p>履修のための留意点を以下に挙げる。①毎回、出欠確認をとります。不可抗力等があれば必ず欠席届を提出すること。②理解度を確認するための各章の各節ごとの小テストを行います。③参考文献③に掲載された理論モデルを板書で説明します。受講生には、私たちの生活に影響を与える経済時事問題に関心を持ち、関連する関連記事を読むことを強く要望します。④テキストの購入は必要なし。</p>		
評価	<p>小テスト(計5回)・期末テスト. 計70% 平常点. . . 計30% 講義中の態度や積極性。例えば、質問に答えると適宜加点する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日本経済への影響要因となりうる国際経済の変動を理論的な枠組みの中で把握し、将来起こりうる課題を分析する。経済基礎理論の習得のための、「経済学入門」、「経済学 I・II」、「ミクロ経済学 I・II」、「マクロ経済学 I・II」、関連科目としては、「貿易実務 I・II」、「証券市場論 I・II」、「金融論 I・II」。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済論Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-当銘 学	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国境を越えたさまざまな経済活動、すなわち貿易・資金移動・国債投資・人の移動・多国籍企業などの動向を、貿易理論・為替変動メカニズム・国際収支・直接投資論の枠組みの中で捉えることで理解を深め、日本経済ならびに国際経済の直面する課題を考察する。</p>	<p>国際経済の枠組みの変遷の大きな流れを理解し、国際経済の直面する課題を理解していく講義内容となりますが、できるだけ初学者にも理解できる平易な言葉で解説・説明します。</p>
到達目標	<p>国際的な経済現象を大まかに理解できるようになる。具体的には、経済新聞に掲載される為替変動・原油価格等の経済指標の動向に関連する経済解説記事をはじめ、貿易構造の変化・資本移動等の国際経済における日本経済の動向を国際収支統計の数値変動等の変動要因等を、大まかではあるが程度理解できるようになる。さらには、これまでの貿易体制から通商問題(TPP)等の国際社会が直面する経済的な課題も理解できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・前期のReviewと国際経済はいま	時事経済問題に関心をもつ
	2	国際化するマクロ経済問題	テキスト第三章の予習
	3	国際収支とはなにか	同上
	4	国際マクロ経済	同上
	5	開放経済のマクロ経済政策	同上
	6	拡大する国際金融取引	テキスト第四章の予習
	7	資本移動のメカニズム	同上
8	累積債務問題	同上	
9	貿易の基礎理論	テキスト第五の予習	
10	同上	同上	
11	産業内貿易の理論	同上	
12	通商問題の変貌とWTO体制の機能と課題	テキスト第六章の予習	
13	貿易政策の理論	同上	
14	同上	同上	
15	直接投資の理論と直接投資のインパクト	第七章の予習	
16	総括と期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>講義では、基本的に「ゼミナール国際経済入門」伊藤元重(著)から転写したプリントをテキストとし使用します。テキストの購入は必要なし。基礎理論は板書で説明します。</p>		
学びの手立て	<p>履修のための留意点を以下に挙げる。①毎回、出欠確認を取ります。不可抗力の理由等があれば欠席届を提出すること。②参考文献「コア・テキスト国際経済学」に掲載されている理論を板書で説明します。③私たちの生活に影響を与える経済時事問題に関心を持ち、関連する経済新聞を読むことを強く要望します。④テキストの購入は必要なし。</p>		
評価	<p>小テスト(計5回) ・期末テスト..... 計70% 平常点..... 計30% 講義中の態度や積極性。 例えば、質問に答えると適宜加点する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目としては、「経済学入門」、「経済学Ⅰ・Ⅱ」、「マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」、「応用マクロ経済学」、「貿易実務Ⅰ・Ⅱ」、「証券市場論Ⅰ・Ⅱ」、「金融論Ⅰ・Ⅱ」。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業と環境	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山川（矢敷） 彩子	2年	メールの場合： a.yamakawa@okuu.ac.jp 研究室： 9号館505室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県は四方を海に囲まれた海洋島嶼県であり、サービス産業などの第3次産業とともに、農林水産業の第1次産業も盛んである。本講義では、産業の中でも特に水産業と環境に関して学んでいくこととする。具体的には、沖縄の海岸環境、沖縄の水産業の歴史、サンゴ礁漁業と環境への負荷などについて、座学と巡検（糸満海人工房資料館見学）により理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の海岸の開発状況、埋立状況を理解する。 ・沖縄のサンゴ礁漁業の歴史を知る。 ・沖縄の現在の水産業の様子を実際に直売所に行って実感する。 	<p>抽選から漏れた場合、登録調整期間中に教員に直接申し出れば、追加登録を認める。本講義は最終年次においても追試および再試験は実施しないので、4年次は登録の際注意する。</p> <p>【実務経験】環境調査会社で勤務した経験を活かし、海岸環境の埋め立て、開発に関して講義をする。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	シラバスを熟読する。
	2	沖縄の海岸環境	関連するTV、ニュースを見る。
	3	沖縄の海岸開発	関連するTV、ニュースを見る。
	4	沖縄のサンゴ礁漁業の歴史（1）（貝類利用の歴史）	関連するTV、ニュースを見る。
	5	沖縄のサンゴ礁漁業の歴史（2）（DVD鑑賞）	関連するTV、ニュースを見る。
	6	沖縄のサンゴ礁漁業の歴史（3）（糸満売り～本土復帰）	関連するTV、ニュースを見る。
	7	沖縄の伝統漁業	関連するTV、ニュースを見る。
8	学外巡検（糸満海人工房・資料館）	レポート作成する。	
9	日本の水産業（全般）	関連するTV、ニュースを見る。	
10	沖縄の水産業（1）（獲る漁業）	関連するTV、ニュースを見る。	
11	沖縄の水産業（2）（獲る漁業）	関連するTV、ニュースを見る。	
12	沖縄の水産業（3）（養殖漁業）	関連するTV、ニュースを見る。	
13	学外巡検（泊いゆまちor泡瀬パヤオ直売店or糸満漁協「お魚センター」の見学）	レポート作成する。	
14	海外のサンゴ礁漁業と環境への負荷(1)	関連するTV、ニュースを見る。	
15	海外のサンゴ礁漁業と環境への負荷(2)	関連するTV、ニュースを見る。	
16	筆記試験	試験対策をする。	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは指定しない。必要に応じて資料を配布する。</p> <p>必要に応じて紹介する。</p>	
	学びの手立て	<p>水産業や海の生物に関するテレビ番組を試しに見てみる。それらのインターネットニュースをクリックしてみる、など日常生活の中で情報に触れ合っておくと、より講義が身近なものに感じるはずです。</p> <p>また、実際にさまざまな漁港に行って実際に食べてみるのもオススメです。</p>	
	評価	<p>講義の際に毎回記入する大福帳（意見、感想、質問）の内容、試験結果、2つの巡検レポートの提出により総合的に評価する。3分の1以上の欠席、試験の欠席やレポート未提出の学生には単位を与えない。</p> <p>大福帳25%、レポート25%、試験50%とする。</p>	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	環境資源論、生物学I・II、自然科学概論I・II、生態学概論、島嶼環境論、環境教育論、土壌学概論、演習I&II（山川ゼミ）など。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業連関論の応用	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	3年	t. toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>財やサービスといった各産業の経済の流れを表す産業連関表について、産業連関表の基となる産業や企業の行動を併せて説明していきます。</p> <p>授業の目的は、以下の2点が主体となります。</p> <p>①産業連関表の中身である企業行動について</p> <p>②各産業の企業行動に伴う産業連関の意味について</p>	<p>産業連関表の仕組みを、より詳細に理解することで実経済や企業行動を理解することに役立ちます。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 産業連関表の仕組みをより詳細に理解する。 経済学を基とする企業行動を理解する。 企業行動と産業連関の意味を理解する。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	産業連関表とマクロ経済学	授業ノートを参照
2	産業連関表と産業構造	授業内容を復習する	
3	産業組織と企業行動の関係	授業内容を復習する	
4	産業組織論の基礎	授業内容を復習する	
5	産業均衡と多角化行動	授業内容を復習する	
6	企業と付加価値について	授業内容を復習する	
7	企業による市場の独占及び寡占に伴う産業連関の意味	授業内容を復習する	
8	公共事業の扱いについて	授業内容を復習する	
9	企業競争と価格差別	授業内容を復習する	
10	企業行動と厚生損失について	授業内容を復習する	
11	産業連関にみる企業行動の影響	配布資料を参照	
12	企業合併に伴う産業連関の変化	授業内容を復習する	
13	企業の市場参入と退出の条件	授業内容を復習する	
14	地域における産業組織の行動変化	授業内容を復習する	
15	産業連関分析と将来予測	授業内容を復習する	
16	試験	授業内容を復習する	
テキスト・参考文献・資料など	<p>・適時、資料を用意して配布します。</p>		
学びの手立て	<p>・必要なときに授業内容を振り返れるよう、授業ノートを作ることが望ましい。</p>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> 中間テストと期末テストの2回のテストを持って評価する。 テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業連関から実経済の企業行動について学ぶことから、「マクロ経済学」や「地域経済学」の理解に役立てて欲しい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業連関論の基礎	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	3年	t. toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	財やサービスといった各産業の経済の流れを表す産業連関表について、見方や考え方について説明していきます。授業では基礎となる行列から復習し、Excelを用いた産業連関表による経済波及効果の算出方法から、公務員試験範囲にある産業連関の解き方まで広く学びます。	産業連関表の仕組みを理解することで実経済や企業行動を理解することに役立ちます。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 産業連関表の仕組みを理解する。 Excelで経済波及効果を算出できるようになる。 公務員試験範囲の産業連関の問題を解けるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	産業連関表について	授業ノートを参照
	2	産業連関表の意義	授業内容を復習する
	3	国内の産業連関表の役割について	授業内容を復習する
	4	海外の産業連関表について	授業内容を復習する
	5	産業連関分析のための準備－産業連関表の仕組み	配布資料を参照
	6	産業連関分析のための準備－行列式について	授業内容を復習する
	7	競争輸入型産業連関表と非競争輸入型産業連関表	授業内容を復習する
8	レオンチェフ逆行列について1	授業内容を復習する	
9	レオンチェフ逆行列について2	授業内容を復習する	
10	逆行列と波及効果の計算方法1	配布資料を参照	
11	逆行列と波及効果の計算方法2	授業内容を復習する	
12	最終需要と波及効果について	授業内容を復習する	
13	産業連関分析の事例1	授業内容を復習する	
14	産業連関分析の事例2	授業内容を復習する	
15	付加価値波及効果について	授業内容を復習する	
16	試験	授業内容を復習する	
実践	テキスト・参考文献・資料など ・適時、資料を用意して配布します。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 必要なときに授業内容を振り返れるよう、授業ノートを作ることが望ましい。 産業連関分析を行う際にEXCELファイルを保存できるUSBやクラウドがあることが望ましい。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> 中間テストと期末テストの2回のテストを持って評価する。 テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目 <ul style="list-style-type: none"> 後期にある「産業連関論の応用」を続けて受講すると、より詳細な産業連関表の役割と実経済の企業行動が理解できると思います。 公務員志望の学生は「マクロ経済学」を併せて受講することで経済の試験範囲をカバーできると思います。
-------	--

科目基本情報	科目名 社会調査演習	期別 通年	曜日・時限 木3	単位 4
	担当者 上江洲 薫	対象年次 3年	授業に関する問い合わせ 研究室5-632 kuezu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本演習の目的は、受講生が社会調査のすべての段階を経験することによって、社会調査の理論と方法を体得することである。具体的には、沖縄の消費・観光行動と地域社会を主要テーマに、少人数の単位のグループごとに詳細調査テーマを決定し、学内の学生や学外の事業社や地域住民などを対象に、量的調査や質的調査を実施し、収集したデータを分析した後報告書を作成する。	メッセージ 本演習は「社会調査士」の資格科目である。社会の意識やニーズを把握する手法として、社会人になっても大いに役立つため、積極的に受講して欲しい。
	到達目標 社会調査の全段階（詳細な調査テーマの決定、調査計画、調査票や質問項目の作成、調査実施、集計・分析、報告書作成）を主体的に実施することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） (1) 調査テーマの決定（4月） (2) 調査テーマに関する現状と課題調査（5月） (3) 調査テーマに関する既存のデータ分析（6月） (4) 調査企画書（対象者・対象地域等）の作成（6月） (5) 調査票の作成とサンプリングの実施（7～8月） (6) 調査の実施（9～10月） (7) 調査データの集計と分析、PASWの使用方法（11月） (8) 調査報告書の作成（12～2月）
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：特に指定はない。 参考文献：①大谷信介他編著（2013）『新・社会調査へのアプローチ—論理と方法—』ミネルヴァ書房。 ②原 純輔・浅川達人（2005）『社会調査』放送大学教育振興会。③盛山和夫（2004）『社会調査法入門』有斐閣。④島崎哲彦編（2000）『社会調査の実際—統計調査の方法とデータの分析』学文社。 ⑤社会調査の基礎（2010）『社会調査の基礎—社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂。⑥小木曾道夫（2006）『SPSSによるやさしいアンケート分析』オーム社。
	学びの手立て 履修の心構え：グループで社会調査の全工程を実施するため、欠席しないようにする。 途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。 学びを深めるために：社会調査士の資格取得希望者は、出来るだけ3年次で単位を取得して欲しい。「社会調査論Ⅰ」と「社会調査論Ⅱ」の単位を取得した後に、本演習を受講することを推奨する。なお、社会調査協会 http://jasr.or.jp/ のWebページで「社会調査士」の取得科目を確認して下さい。 経済学科と地域環境政策学科で、「社会調査士」で指定された資格科目は異なります。
	評価 グループ報告（30%）：グループの調査結果の報告内容を評価します。 報告書（40%）：グループの報告書の水準を評価します。 平常点（30%）：グループ活動における各自の貢献度を評価します。

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：社会に出ても本演習で習得した思考力、計画性、分析力等を発揮できるように頑張ってください。 関連科目：「社会調査論Ⅰ」「社会調査論Ⅱ」「統計学Ⅰ・Ⅱ」「環境統計学Ⅰ・Ⅱ」「統計情報処理Ⅰ・Ⅱ」「計量経済学Ⅰ・Ⅱ」「経済統計処理Ⅱ」は受講して欲しい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査論 I	前期	土 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-千住 直広	2年	授業終了後に教室で受け付けます。 ptt514@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会に対するさまざまな問題を調べ、明らかにしていく社会調査は、現代社会を読み解く中で必要な力となります。また、実際、社会に出たとき、自らの仕事として向かい合うことも出てきます。本講義では、卒論及び研究時の社会調査のノウハウを学ぶだけではなく、実社会に出てからも社会を読み解くノウハウとして、社会調査の意義と方法など一連の基本的事項を実例を交えながら学びます。</p>	<p>リサーチリテラシーを高めたいなど、現代社会を読み解く術としての学びの機会ともなります。</p>
到達目標	社会調査の理解、また、社会調査を活用できるよう手段としてのノウハウを身につけられるようにしたいと思います。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介）	シラバスをよく読むこと
	2	社会調査とは（あるれる社会調査、社会調査の意義、用途）	レジュメをよく読むこと
	3	社会調査史（社会調査の変遷）	同上
	4	さまざまな社会調査法（社会調査の種類）	同上
	5	社会調査の実例	同上
	6	社会調査をやるにあたって（調査上の倫理、注意事項）	同上
	7	社会調査の全体像（調査設計から公表まで）	同上
8	情報収集の方法（1）（官公庁、図書館等の活用）	同上	
9	情報収集の方法（2）（インターネットの活用）	同上	
10	既存の統計データの収集・分析（官公統計の種類と特徴）	同上	
11	量的調査の実例（量的調査の目的・内容）	同上	
12	質的調査の実例（質的調査の目的・内容）	同上	
13	質的調査（1）（聞き取り）	同上	
14	質的調査（2）（参与観察）	同上	
15	質的調査（3）（ドキュメント分析）	同上	
16	テスト（ふりかえりとまとめ）		
テキスト・参考文献・資料など	<p>大谷信介他編著「社会調査へのアプローチ-論理と方法-」ミネルヴァ書房 その都度、レジュメ・資料等を配布します。</p>		
学びの手立て	<p>私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。 病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。 講義内容をより理解するためには、日頃より新聞をよく読むこと。</p>		
評価	レポート及びテスト（50%）、平常点（50%）を総合的に評価する。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として、「統計学」、「計量経済学」などがある。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会調査論Ⅱ	後期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-千住 直広	2年	授業終了後に教室で受け付けます。 ptt514@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	社会調査の基本的事項を踏まえた上で、より実践的なノウハウを習得するために、主に量的調査に重点をおいて、収集した資料やデータを整理し、分析するための具体的な調査企画・設計、サンプリング、調査の実施、データの整理・集計・分析等を学びます。実際に、グループ毎にテーマを設定し、調査票を作成後、調査を実施し、調査結果を発表してもらいます。	リサーチリテラシーを高めたいなど、現代社会を読み解く術としての学びの機会ともなります。

到達目標	社会調査の理解、また、社会調査を活用できるよう手段としてのノウハウを身につけられるようにしたいと思います。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（本講義の目的・内容・スケジュールの紹介）	シラバスをよく読むこと
	2	社会について考える（テーマ設定のための情報収集）	レジュメをよく読むこと
	3	概念の活用（定義の重要性、操作概念の活用）	同上
	4	仮説構成の方法（独立変数と従属変数）	同上
	5	調査の設計、企画（調査企画）	同上
	6	調査票の作成（質問文の作成とその注意点）	同上
	7	調査票の作成（調査票全体構成とその注意点）	同上
	8	調査票作成の実践（グループ学習）	同上
	9	サンプル数の決定法（算出法）と標本誤差	同上
	10	調査の実施方法（量的調査・調査票の配布及び回収法等）	同上
	11	調査の実施方法（質的調査・調査対象者へのアプローチ等）	同上
	12	調査票調査の実施（グループによる配布・回収）	同上
	13	データの整理・集計の実際（コーディング・データクリーニング等）	同上
	14	データ分析、報告の方法（グループ学習）	同上
15	グループによるアンケート調査の結果報告	同上	
16	グループ発表		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 大谷信介他編著「社会調査へのアプローチ-論理と方法-」ミネルヴァ書房 その都度、レジュメ・資料等を配布します。
-------	--

学びの手立て	私語、授業中の携帯電話は厳禁。講義を受講する上での最低限のマナーは、心得ておくこと。病気等やむをえない理由による欠席の場合は次の講義で申し出ること。講義内容をより理解するためには、日頃より新聞をよく読むこと。
--------	--

評価	レポート及びテスト（50%）、平常点（50%）を総合的に評価する。
----	-----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として、「統計学」、「計量経済学」などがある。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	集落地理論 I	前期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	2年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 集落地理論 I では、集落の中でも「村落」の歴史地理に関する講義を行う予定である。とくに絵図資料や地図資料の読解方法、空中写真を用いた景観分析の方法、さらにフィールドワークの方法に重点を置く。また、映像資料、民俗学・地域史などの研究成果を盛り込みながら、沖縄村落の社会構造についてもふれる予定である。	メッセージ 本講義では、主に沖縄の集落について検討するため、沖縄関連の文献を渉猟していることが望ましい。
	到達目標 ・村落の立地・景観と社会構造の特性を関連づける。 ・沖縄村落の地理的・歴史的特性を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 村落地理学の研究史 2 村落と地図①－地形図の基礎－ 3 村落と地図②－地形図の利用方法－ 4 村落と地図③－空中写真の判読と利用方法－ 5 村落と地図④－国土基本図と地籍図－ 6 村落と地図⑤－古地図と絵図資料－ 7 村落の景観①－景観概念－ 8 村落の景観②－沖縄村落の景観－ 9 村落の景観③－景観研究の事例－ 10 村落の景観④－景観調査の方法－ 11 村落の景観⑤－景観調査の実際－ 12 村落の社会構造①－沖縄村落の歴史地理－ 13 村落の社会構造②－村落空間と祭祀構造－ 14 村落の社会構造③－村落社会調査の方法－ 15 村落の社会構造④－村落社会調査の実際 16 期末試験
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。 【参考文献】 ・仲松弥秀著『神と村』 鳥社 ・田里友哲著『論集 沖縄の集落研究』 離宇宙社
	学びの手立て ・講義中に課題を出すことも多くあるので、時間内でまとめて提出すること。
	評価 ・定期テスト（40点） ・レポート（30点） ・平常点：講義中の課題提出と発表（30点）

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・「村落」と「都市」との関係性について理解を深める。 ・現代社会の中で、どのような地域政策が必要かを考える契機になります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	集落地理論Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-濱里 正史	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>今後の地域と地域住民には自らの力で地域づくりをしていく力を養うことが求められる。そのための基礎は地域を知ることである。本講義では、集落地理のみならず人文・社会科学全般において重要な研究対象の1つである都市について、地理学的視点を重視しつつ身近な地域である「沖縄の集落と都市」を事例に学ぶことで、「地域づくりの力」の涵養に資することを目的とする。</p>	<p>地域づくりの力は、皆さんが社会に出て後、1市民としてあるいは職業人として必ず求められる力です。この力をどれだけ多くの人が習得できるかに、今後の沖縄社会、ひいては日本社会の行く末がかかっているといっても過言ではありません。こうした分野に興味を持ち積極的に参加したいという学生は、学年、学科を問わず、広く受け入れますので、ともに学びましょう。</p>
到達目標	<p>地域づくりの力の基礎は、①その地域が形成された過程とそのことに起因する現在の問題・課題を理解する、②それだけでなく、日々変化する地域の問題・課題についてアンテナを張り情報収集する習慣を身に付ける、の2点が重要である。本講義では、我々にとって最も身近な地域である沖縄本島中南部地域を事例に、その歴史と形成過程、その延長としての現在の問題・課題を学ぶだけでなく、新聞情報を活用して、現在進行形の問題・課題やその解決に向けたまちづくり・地域の取り組みを紹介する。そのことを通して、地域を見る目を養い、問題・課題を発見し、論理的に考え、解決策を立案する能力、いわゆる「地域づくりの力」の習得を目指す。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス及び集落地理・都市地理とは？	
	2	戦前における沖縄の集落と都市1（自然条件から見た沖縄の集落と都市）	第2～10週：下記の通り
	3	戦前における沖縄の集落と都市2（歴史過程から見た沖縄の集落と都市）	予習：配布資料を事前に読み込む
	4	沖縄本島中南部地域における戦後の都市形成1（基地と都市）	復習：紹介図書群を用いた発展学習
	5	沖縄本島中南部地域における戦後の都市形成2（沖縄コナベーション）	
	6	戦後の都市形成過程から生じる沖縄本島中南部地域の問題・課題の整理	
	7	戦後那覇市の都市形成と構造1（問題と課題）	
	8	戦後那覇市の都市形成と構造2（問題・課題の解決に向けて）	
	9	北谷町のまちづくり	
	10	読谷村のむらづくり	
	11	まちづくりと地域振興の先進事例1（県内外）	第11～13週：下記の通り
	12	まちづくりと地域振興の先進事例2（県内外）	最新情報を用いるため復習中心
	13	沖縄におけるまちづくりと地域振興の展望	復習：自ら新聞等で先進事例を探す
	14	都市国家・国際都市・海洋都市（シンガポール・香港・韓国済州島）	予習：配布資料を事前に読み込む
15	国際都市としての沖縄の未来	復習：紹介図書群を用いた発展学習	
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など 授業は配布資料を基に行う。</p>
-------	---

学びの手立て	<p><履修の心構え等>：前期、「集落地理論Ⅰ」を履修していることが望ましい。私語や携帯電話・スマホなど他人の迷惑、授業の妨害になるような行為は禁止（場合によっては退室、受講停止を命じる）。 <学びを深めるために> 「地域づくりの力」は短期間で涵養できるものではない。①本講義で紹介する発展学習のための参考図書での学習、②新聞やインターネットなどによる最新情報キャッチの日常習慣化、③実際の地域観察、④様々な人に地域の話聞き・意見交換する習慣の獲得などについて、本講義をキッカケに、講義期間中から可能な範囲で実践・継続することが学びを深める。</p>
--------	---

評価	<p><評価方法・割合>：出席30点満点（2点×15回）及びレポート70点満点。 <評価基準>：出席は、単純に出席したか否かではなく、授業内容のまとめやコメント・感想・意見・質問を書く形式。内容によって評価する（0～2点）。名前・学籍番号のみで授業内容のまとめやコメント・感想・意見・質問がないものは0点とするので注意すること。レポートは、①情報収集、②情報の整理、③収集した情報に基づく分析、④自分なりの意見・見解の有無、⑤プレゼン資料としての説得力などの点について評価する。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 <次のステージ>「地域づくりの力」には広範な知識、現場に関する見聞・経験が求められる。したがって、①本講義で紹介する発展学習のための参考図書での学習、②新聞やインターネットなどによる最新情報キャッチの日常習慣化、③関連する科目の受講、④実際の地域観察、⑤様々な人に地域の話聞き・意見交換する習慣の獲得などについて、可能な範囲で実践・継続することを望む。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報産業論	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘 もえ子	3年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、情報産業への発展過程をはじめ、コンピュータ産業の現状、コンテンツ産業、メディア産業、インターネットビジネス、移動体通信および情報ビジネスについて学ぶことにより、今後の情報産業の動向や情報産業の発展が現代社会にどのような変化をもたらすのかを考察する。仮登録者数が上限を超えた場合「初回講義時」に抽選を行うため、登録希望者は必ず初回講義に出席すること。</p>	<p>高度情報化社会の現在、IT・ICT産業はめざましい発展を遂げています。我々が社会で生きていく中で欠かせない技術の一つになっています。そこで、それら産業を学ぶ事で社会の一員としてIT・ICTを活用してもらいたいと思います。講義でわからないことがあれば気軽に相談して下さい。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ITおよびICT産業の動向について理解できる。 ITおよびICTの時事問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。 情報産業に関する広い視野を養い、情報産業の将来を展望する能力を身につける。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス・情報産業とは	情報産業についての調べ学習
	2	産業の流れ	情報産業についての調べ学習
	3	通信インフラと電話ビジネス(1)	電話ビジネスについての調べ学習
	4	通信インフラと電話ビジネス(2)	電話ビジネスについての調べ学習
	5	通信インフラと電話ビジネス(3)	電話ビジネスについての調べ学習
	6	コンピュータおよび家庭用IT機器(1)	デジタル機器についての調べ学習
	7	コンピュータおよび家庭用IT機器(2)	デジタル機器についての調べ学習
8	ユビキタス・コンピューティング(1)	ユビキタスについての調べ学習	
9	ユビキタス・コンピューティング(2)	ユビキタスについての調べ学習	
10	電子商取引	電子商取引についての調べ学習	
11	金融サービス	金融サービスについての調べ学習	
12	電子書籍	電子書籍についての調べ学習	
13	広告業界	広告業界についての調べ学習	
14	情報犯罪とセキュリティ	セキュリティについての調べ学習	
15	期末試験	試験の振り返り	
16	まとめ	講義全体の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	<p>講義中にレジメを配布する。 参考文献は講義時に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義内容および課題は各回毎に異なるため、毎回の講義への出席および課題にしっかり取り組むこと。 <p>学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> 業界の動き等も紹介するため、新聞記事を読むことも講義の学びを深める助けになる。 		
評価	<p>平常点（講義への取組）10%、課題点（課題の内容、課題の提出）20%、期末試験70%。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目 「情報社会論」は情報社会について学習する講義であるため、履修すると良いでしょう。</p> <p>(2) 次のステージ 講義で学んだことを踏まえて、卒業研究および社会へ活かして下さい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報社会論	前期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘 もえ子	3年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、情報と社会の関係を学習することによって、情報社会について理解することを目的とする。特に、インターネットの仕組みや情報システムについて学習する。情報化が果たしてきた役割を理解することによって、社会、生活、企業、経済などに与える影響について考察する。仮登録者数が上限を超えた場合「初回講義時」に抽選を行うため、登録希望者は必ず初回講義に出席すること。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報社会に関連するキーワードを正しく理解できる。 ・情報社会の時事問題について自ら調べ、わかりやすく説明できる。 	<p>高度情報化社会の現在、情報社会の仕組みを理解することが、我々の生活を豊かにする一助となります。講義でわからないことがあれば気軽に相談して下さい。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス・情報社会とは	情報社会に関する調べ学習
	2	情報社会・情報と人間の関わり	情報社会に関する調べ学習
	3	コミュニケーションの概念	コミュニケーション事例紹介
	4	ユーザインターフェース	インターフェースに関する調べ学習
	5	コミュニケーションモデル	コミュニケーションモデル事例紹介
	6	情報提示システム	情報提示システムに関する調べ学習
	7	情報ネットワーク	情報ネットワークに関する調べ学習
8	情報ネットワークと管理	ネットワーク管理に関する調べ学習	
9	インターネットを支える仕組み	インターネット検索課題	
10	情報システム (1)	情報システム事例紹介	
11	情報システム (2)	情報システム事例紹介	
12	情報システム (3)	情報システム事例紹介	
13	情報社会におけるコミュニケーション	コミュニケーションに事例紹介	
14	情報社会におけるセキュリティ	セキュリティに関する調べ学習	
15	期末試験	試験の振り返り	
16	まとめ	講義全体の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など	<p>講義中にレジメを配布する。 情報化白書（最新版）．情報通信白書（最新版）．他講義時に紹介する。</p>	
	学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容および課題は各回毎に異なるため、毎回の講義への出席および課題にしっかり取り組むこと。 ・学びを深めるために ・世の中の動き等も紹介するため、新聞記事を読むことも講義の学びを深める助けになる。 	
	評価	<p>平常点（講義への取組）10%、課題点（課題の内容、課題の提出）20%、期末試験70%。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1) 関連科目 「情報産業論」は情報産業について学習する講義であるため、履修すると良いでしょう。</p> <p>(2) 次のステージ 講義で学んだことを踏まえて、卒業研究および社会へ活かして下さい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理概論	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 絢子	1年	ptt1071@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報化社会にて必要とされる情報リテラシー力を身につけるために、ITハ スポ ートの内容を中心に学び、情報処理技術の基礎知識・技術を修得することをねらいとします。	メッセージ 板書や動画を中心に学びます。
	到達目標 情報処理技術の基礎・プログラミングの概念の修得	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入-情報とは・コンピュータの歴史-	板書をノートにまとめ提出
	2	ハードウェア	板書をノートにまとめ提出
	3	ハードウェア	板書をノートにまとめ提出
	4	ソフトウェアとマルチメディア	板書をノートにまとめ提出
	5	ソフトウェアとマルチメディア	板書をノートにまとめ提出
	6	ネットワーク	板書をノートにまとめ提出
	7	ネットワーク	板書をノートにまとめ提出
	8	セキュリティ	板書をノートにまとめ提出
9	セキュリティ	板書をノートにまとめ提出	
10	データベース	板書をノートにまとめ提出	
11	データベース	板書をノートにまとめ提出	
12	アルゴリズムとデータ構造	板書をノートにまとめ提出	
13	アルゴリズムとデータ構造	板書をノートにまとめ提出	
14	アルゴリズムとデータ構造	板書をノートにまとめ提出	
15	まとめ・総括	板書をノートにまとめ提出	
16	最終テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献: 栢木厚「栢木先生のITハ スポ ート教室」技術評論社		
	学びの手立て 板書を自分なりに解釈しノートにまとめることで理解を深めます。各分野毎にITパスポート試験の過去問題を解説します		
	評価 レポートの提出状況(65%)+最終試験の点数(35%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目: コンピュータ概論、データベース
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘 もえ子	1年	メールにてお問い合わせ下さい。 nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、コンピュータの基本的な知識および情報リテラシーの習得を目的としている。具体的には、電子メールの使用、インターネットの活用、レポート・論文作成に必要なワープロソフトウェアの操作方法、および、データ分析に必要な表計算ソフトウェア、さらにはプレゼンテーションソフトウェアによる発表資料作成について学習する。	高度情報化社会の現在、情報機器を有用な道具として活用できる能力が求められています。コンピュータ利用スキルを身につけることで、様々な面で活かす事が可能になります。皆さんの先輩もSAとして、講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談して下さい。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① コンピュータを操作するために必要な基本知識と基本技術の習得 ② ワープロソフトによる文書作成技能を習得し、大学生活におけるレポート作成やレジュメ作成等へ活かす事ができる。 ③ 表計算ソフト操作とビジネスデータ加工の習得により、2年次以降のデータ分析等へ活かす事ができる。 ④ プレゼンテーションソフト操作と実践を学ぶ事により、今後の調査発表へ研究発表へ活かす事ができる。 ⑤ インターネットの活用を学習することにより、調査等へ活かす事ができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：グループウェアの使い方・OSとは・日本語入力練習	日本語入力とポータルシステム操作
	2	ワープロソフトの基本操作（1）：文書レイアウト・フォント装飾等	案内文書作成
	3	ワープロソフトの基本操作（2）：表作成・画像挿入・箇条書き等	案内文書作成
	4	ワープロソフトの基本操作（3）：段落設定・脚注等の設定	レジュメ作成
	5	インターネットの活用・画像データ処理：情報検索の仕組・著作権等の学習	検索課題
	6	発表資料ソフトの基本操作（1）：文字入力・図形挿入・レイアウト・表等	発表資料作成
	7	発表資料ソフトの基本操作（2）：画像挿入・アニメーション・スライドショー等	発表資料作成
8	表計算ソフトの基本操作（1）：セルを使った計算・関数の利用等	表の作成および計算処理	
9	表計算ソフトの基本操作（2）：セルの参照方法・グラフ作成等	各種セル参照演習	
10	表計算ソフトの基本操作（3）：統計処理関数の利用等	統計関数による計算処理	
11	表計算ソフトの基本操作（4）：相関係数の計算等	統計処理演習	
12	表計算ソフトの応用操作（1）：IF関数・条件付き書式設定等	条件処理演習	
13	表計算ソフトの応用操作（2）：シート操作・データの並べ替え・絞り込み等	データ処理演習	
14	文書の統合：表計算ソフトで作成した表やグラフをワープロソフトへ統合	統合文書作成	
15	最終課題（期末試験）：各ソフトウェアの基本操作に関する課題	最終課題の振り返り	
16	まとめ	講義全体の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：使用しません。講義にてプリントを配付する。 	
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・履修の心構え 学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。 日本語入力の練習は2回目以降の講義では行わないため、日本語入力が苦手な学生は、各自で入力の練習をすること。 ・学びを深めるために 毎回の講義における課題を行う事で、理解度が確認できます。したがって、毎回の課題にしっかり取り組みましょう。 		
評価	<p>平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）70%、期末試験30%。 各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 関連科目 引き続きExcelの応用を学びたい学生は、後期の「プログラミング演習」を履修すると良いでしょう。 (2) 次のステージ 上級情報処理士の資格取得を目指す学生は、後期の「情報処理概論」も履修すると良いでしょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-赤嶺 有平	1年	講義終了後の教室かメールにてお問合せ下さい。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、コンピュータの基本的な知識および情報リテラシーの習得を目的としている。具体的には、電子メールの使用、インターネットの活用、レポート・論文作成に必要なワープロソフトウェアの操作方法、および、データ分析に必要な表計算ソフトウェア、さらにはプレゼンテーションソフトウェアによる発表資料作成について学習する。	高度情報化社会の現在、情報機器を有用な道具として活用できる能力が求められています。コンピュータ利用スキルを身につけることで、様々な面で活かす事が可能になります。SAも講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談して下さい。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① コンピュータを操作するために必要な基本知識と基本技術の習得 ② ワープロソフトによる文書作成技能を習得し、大学生活におけるレポート作成やレジュメ作成等へ活かす事ができる。 ③ 表計算ソフト操作とビジネスデータ加工の習得により、2年次以降のデータ分析等へ活かす事ができる。 ④ プレゼンテーションソフト操作と実践を学ぶ事により、今後の調査発表へ研究発表へ活かす事ができる。 ⑤ インターネットの活用を学習することにより、調査等へ活かす事ができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：グループウェアの使い方・OSとは・日本語入力練習	日本語入力とポータルシステム操作
	2	ワープロソフトの基本操作（1）：文書レイアウト・フォント装飾等	案内文書作成
	3	ワープロソフトの基本操作（2）：表作成・画像挿入・箇条書き等	案内文書作成
	4	ワープロソフトの基本操作（3）：段落設定・脚注等の設定	レジュメ作成
	5	インターネットの活用・画像データ処理：情報検索の仕組・著作権等の学習	検索課題
	6	発表資料ソフトの基本操作（1）：文字入力・図形挿入・レイアウト・表等	発表資料作成
	7	発表資料ソフトの基本操作（2）：画像挿入・アニメーション・スライドショー等	発表資料作成
8	表計算ソフトの基本操作（1）：セルを使った計算・関数の利用等	表の作成および計算処理	
9	表計算ソフトの基本操作（2）：セルの参照方法・グラフ作成等	各種セル参照演習	
10	表計算ソフトの基本操作（3）：統計処理関数の利用等	統計関数による計算処理	
11	表計算ソフトの基本操作（4）：相関係数の計算等	統計処理演習	
12	表計算ソフトの応用操作（1）：IF関数・条件付き書式設定等	条件処理演習	
13	表計算ソフトの応用操作（2）：シート操作・データの並べ替え・絞り込み等	データ処理演習	
14	文書の統合：表計算ソフトで作成した表やグラフをワープロソフトへ統合	統合文書作成	
15	最終課題（期末試験）：各ソフトウェアの基本操作に関する課題	最終課題の振り返り	
16	まとめ	講義全体の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：使用しません。講義にてプリントを配付する。 	
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・履修の心構え 学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。 日本語入力の練習は2回目以降の講義では行わないため、日本語入力が苦手な学生は、各自で入力の練習をすること。 ・学びを深めるために 毎回の講義における課題を行う事で、理解度が確認できます。したがって、毎回の課題にしっかり取り組みましょう。 	
	評価	<p>平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）70%、期末試験30%。 各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。</p>	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ol style="list-style-type: none"> (1) 関連科目 引き続きExcelの応用を学びたい学生は、後期の「プログラミング演習」を履修すると良いでしょう。 (2) 次のステージ 上級情報処理士の資格取得を目指す学生は、後期の「情報処理概論」も履修すると良いでしょう。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-赤嶺 有平	1年	講義終了後の教室かメールにてお問合せ下さい。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、コンピュータの基本的な知識および情報リテラシーの習得を目的としている。具体的には、電子メールの使用法、インターネットの活用、レポート・論文作成に必要なワープロソフトウェアの操作方法、および、データ分析に必要な表計算ソフトウェア、さらにはプレゼンテーションソフトウェアによる発表資料作成について学習する。	高度情報化社会の現在、情報機器を有用な道具として活用できる能力が求められています。コンピュータ利用スキルを身につけることで、様々な面で活かす事が可能になります。SAも講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談して下さい。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① コンピュータを操作するために必要な基本知識と基本技術の習得 ② ワープロソフトによる文書作成技能を習得し、大学生活におけるレポート作成やレジュメ作成等へ活かす事ができる。 ③ 表計算ソフト操作とビジネスデータ加工の習得により、2年次以降のデータ分析等へ活かす事ができる。 ④ プレゼンテーションソフト操作と実践を学ぶ事により、今後の調査発表へ研究発表へ活かす事ができる。 ⑤ インターネットの活用を学習することにより、調査等へ活かす事ができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：グループウェアの使い方・OSとは・日本語入力練習	日本語入力とポータルシステム操作
	2	ワープロソフトの基本操作（1）：文書レイアウト・フォント装飾等	案内文書作成
	3	ワープロソフトの基本操作（2）：表作成・画像挿入・箇条書き等	案内文書作成
	4	ワープロソフトの基本操作（3）：段落設定・脚注等の設定	レジュメ作成
	5	インターネットの活用・画像データ処理：情報検索の仕組・著作権等の学習	検索課題
	6	発表資料ソフトの基本操作（1）：文字入力・図形挿入・レイアウト・表等	発表資料作成
	7	発表資料ソフトの基本操作（2）：画像挿入・アニメーション・スライドショー等	発表資料作成
	8	表計算ソフトの基本操作（1）：セルを使った計算・関数の利用等	表の作成および計算処理
	9	表計算ソフトの基本操作（2）：セルの参照方法・グラフ作成等	各種セル参照演習
	10	表計算ソフトの基本操作（3）：統計処理関数の利用等	統計関数による計算処理
	11	表計算ソフトの基本操作（4）：相関係数の計算等	統計処理演習
	12	表計算ソフトの応用操作（1）：IF関数・条件付き書式設定等	条件処理演習
	13	表計算ソフトの応用操作（2）：シート操作・データの並べ替え・絞り込み等	データ処理演習
14	文書の統合：表計算ソフトで作成した表やグラフをワープロソフトへ統合	統合文書作成	
15	最終課題（期末試験）：各ソフトウェアの基本操作に関する課題	最終課題の振り返り	
16	まとめ	講義全体の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト：使用しません。講義にてプリントを配付する。 	
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・履修の心構え 学籍番号順にクラス分けをする。無断でクラスを変更しないこと。 日本語入力の練習は2回目以降の講義では行わないため、日本語入力が苦手な学生は、各自で入力の練習をすること。 ・学びを深めるために 毎回の講義における課題を行う事で、理解度が確認できます。したがって、毎回の課題にしっかり取り組みましょう。 		
評価	<p>平常点（講義への取組、課題の内容、課題の提出）70%、期末試験30%。 各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ol style="list-style-type: none"> (1) 関連科目 引き続きExcelの応用を学びたい学生は、後期の「プログラミング演習」を履修すると良いでしょう。 (2) 次のステージ 上級情報処理士の資格取得を目指す学生は、後期の「情報処理概論」も履修すると良いでしょう。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人口食糧論	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	2年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	世界の諸地域をみると、人口の急激に増加しているアジアやアフリカ、ラテンアメリカなどの発展途上国の地域、逆に人口増加の停滞あるいは現象がみられるわが国をはじめアングロアメリカ、ヨーロッパなどの地域があげられる。同時に発展途上国では食糧問題が発生し、先進国では少子高齢化の問題などを抱えている。この授業では、これらの諸問題について考えていきたい。	日頃、新聞やネットのニュースを通じて、人口問題、食料問題に関心を持ってもらいたい。
到達目標	人口問題、環境問題についての基本的な問題点について理解できるようにする。さらには、それらの課題解決について少しでも、どのように取り組んだらいいか関心をもつようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	この授業の開始にあたって(オリエンテーション)	資料地理の研究、プリントの復習
	2	人の分布と変化を考える	資料地理の研究、プリントの復習
	3	人口の動体と構成	資料地理の研究、プリントの復習
	4	人口の構成	資料地理の研究、プリントの復習
	5	発展途上国の人口問題	資料地理の研究、プリントの復習
	6	先進地域の人口問題	資料地理の研究、プリントの復習
	7	日本の人口問題	資料地理の研究、プリントの復習
	8	食糧問題と農産物貿易問題	資料地理の研究、プリントの復習
	9	土地制度と農地改革	資料地理の研究、プリントの復習
	10	世界の農業-1-	資料地理の研究、プリントの復習
	11	世界の農業-2-	資料地理の研究、プリントの復習
	12	日本の農業	資料地理の研究、プリントの復習
	13	沖縄の農業	資料地理の研究、プリントの復習
14	(映像資料)を通じて食料問題を考える。-1-	プリントの復習	
15	(映像資料)を通じて食料問題を考える。-2-	プリントの復習	
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など	『新詳高等地図』、帝国書院、1,500円、『新詳 資料地理の研究』、帝国書院、980円 毎回プリントを配布する。 授業の中で適宜紹介する		
学びの手立て	①日頃から新聞、ネットのニュースをみて、人口問題、食糧問題、農業問題について関心を持つ。 ②授業で学んだ内容について、配布プリントやテキストである「資料地理の研究」を通じて復習する。		
評価	成績は、テスト【50点】、レポート(2回)【50点】で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済地理Ⅰ、経済地理Ⅱ
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	政策金融論	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	政策金融論－教員	3年	授業中もしくは終了後に教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 産業の振興や中小企業の育成等、政府が特定の政策目的を達成するために、政策金融機関を通じて財政資金の供給を行う「政策金融」の機能を理解し、沖縄振興における政策課題に対応した「政策金融」の役割について学ぶ。	メッセージ 沖縄公庫の現役金融マンが講義を担当します。沖縄の実体経済や金融に関する最近の動向についても、トピックスとして適宜解説します。
	到達目標 ・財政投融资及び政策金融の機能を理解できる。 ・沖縄の実体経済・金融構造を把握できる。 ・沖縄振興策における政策金融の役割を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	市場経済と政府の役割	授業で配布した資料を復習
	3	財政投融资の仕組みと特徴	参考資料①
	4	財政投融资の規模の変遷と財投改革	同上
	5	沖縄の実体経済	参考資料②
	6	沖縄の金融構造	同上
	7	沖縄公庫の設立経緯と総合政策金融機能	参考資料③
	8	沖縄振興政策の課題の変化と公庫の対応	参考資料③④
9	観光産業振興と沖縄公庫	参考資料③	
10	創業・ベンチャー支援と沖縄公庫	同上	
11	離島振興・地域活性化と沖縄公庫	同上	
12	駐留軍用地跡地利用と沖縄公庫	同上	
13	政策金融評価の概要	同上	
14	政策金融改革と沖縄公庫	同上	
15	まとめ	授業で配布した資料を復習	
16	レポート提出	授業で配布した資料を復習	
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは使用せず、毎回講師が作成したレジュメを配布する。 ・参考資料（講義時に以下の資料を配布） ①「財政投融资レポート2018」（財務省刊） ②「沖縄経済ハンドブック2018年度版」（沖縄公庫刊） ③「Report2018」（沖縄公庫ディスクロージャー誌） ④「沖縄21世紀ビジョン 基本計画と実施計画」（沖縄県刊）		
	学びの手立て ・履修の心構え 日頃からメディアの金融・経済関連情報に意識を向けて接してもらいたい。		
	評価 平常点40%（出席状況に質問や発言を適宜加点します） レポート60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「関連科目」金融論ⅠⅡ、財政学ⅠⅡ、沖縄経済論ⅠⅡ、経済政策総論ⅠⅡ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	生態学概論	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐藤 寛之	2年	授業前後口頭で受け付ける	

学びの準備	ねらい 生態学の基本的な考え方を紹介する。近年叫ばれている環境の劣化，生物の減少といった問題に対するアプローチにも触れる	メッセージ ネットでも参考書でもいいので自分で調べてみることに
	到達目標 生物の振る舞いについて考えが至る人材になることを目指す	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを参照
	2	生態学とは何か	授業内容を良く復習すること
	3	進化の生態学	授業内容を良く復習すること
	4	遺伝子の生態学	授業内容を良く復習すること
	5	個体の生態学 1	授業内容を良く復習すること
	6	個体の生態学 2	授業内容を良く復習すること
	7	同種間の関係	授業内容を良く復習すること
	8	異種間の関係	授業内容を良く復習すること
	9	繁殖の生態学 1 オスとメス	授業内容を良く復習すること
	10	繁殖の生態学 2	授業内容を良く復習すること
	11	繁殖の生態学 3	授業内容を良く復習すること
	12	個体群の生態学 1	授業内容を良く復習すること
	13	個体群の生態学 2	授業内容を良く復習すること
	14	生物保全の生態学 1	授業内容を良く復習すること
15	生物保全の生態学 2	授業内容を良く復習すること	
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない プリントを配布する		
	学びの手立て 気になる事柄については自信で調べることに		
	評価 テストでのみ評価する		

学びの継続	次のステージ・関連科目 興味関心を持った分野があれば個別にお勧めする
-------	---------------------------------------

※ポリシーとの関連性

本講義では、沖縄が直面する課題を解決するために、戦後日本及び沖縄の地域開発の歴史を学ぶことを目標とする。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域開発論	前期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-藤原 昌樹	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本講義では、戦後の日本及び沖縄における地域開発の歴史を概観することを通して、現在の沖縄の地域開発が抱える問題点について考察することを目的とする。	メッセージ 現在および将来の課題を解決するためには、歴史から学ぶことが必要不可欠です。戦後日本及び沖縄の地域開発の歴史を学ぶことを通じて、これからの「沖縄のあるべき姿」について考察をしていきましょう。
	到達目標 戦後における日本と沖縄の地域開発の課題について学ぶことを通じて、これからの沖縄の地域開発が抱える問題点について理解を深めることを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	
	2	地域開発とは？	
		時間外学習の内容	
	3	地域開発政策とは？	講義のレジュメを事前に読むこと
	4	戦後日本の開発計画（1）	講義のレジュメを事前に読むこと
	5	戦後日本の開発計画（2）	講義のレジュメを事前に読むこと
	6	戦後日本の開発計画（3）	講義のレジュメを事前に読むこと
	7	戦後沖縄の振興開発（1）	講義のレジュメを事前に読むこと
	8	戦後沖縄の振興開発（2）	講義のレジュメを事前に読むこと
	9	戦後沖縄の振興開発（3）	講義のレジュメを事前に読むこと
	10	戦後沖縄の振興開発（4）	講義のレジュメを事前に読むこと
	11	戦後沖縄の振興開発（5）	講義のレジュメを事前に読むこと
	12	沖縄における地域開発の課題（1）	講義のレジュメを事前に読むこと
	13	沖縄における地域開発の課題（2）	講義のレジュメを事前に読むこと
	14	沖縄における地域開発の課題（3）	講義のレジュメを事前に読むこと
	15	沖縄における地域開発の課題（4）	講義のレジュメを事前に読むこと
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 講義はレジュメを用いて行い、特にテキストは指定しない。 講義を進める過程で、参考文献や資料などを紹介する。		
	学びの手立て 講義において、戦後日本の経済開発に歴史に関する書籍や映像作品（映画等）を紹介する。 講義を受講することに加えて、これらの書籍や映像作品に触れることで、より理解を深めることが期待できる。		
	評価 学期末に記述式の試験を行なう。（期末試験100%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「ミクロ経済学」及び「農業と経済」 「ミクロ経済学」：地域開発を論ずる際の理論的な基礎となる「ミクロ経済学」について学ぶことができる。 「農業と経済」：戦後日本の地域開発の歴史の中で、特に農業に特化して論じている。
-------	---

※ポリシーとの関連性

専門科目を受講する前に、大学生として身につけるべき統計学、語学、コンピュータなどの基礎科目を提供。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域環境政策入門	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋伊津子、他専任教員	1年	itukoアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> ・学科で計画的に学ぶことを意識させる。 ・学科教員の研究内容に興味を持たせる。 	<p>地域環境政策学科に入学して半年が経ち、大学生活にも慣れてきたころだと思います。この講義を受講することで本学科で何をどう学ぶかを深く考え、今後の学習計画の参考にしてほしいと思います。 【実務経験】を活かした授業を展開する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学科で学ぶことができる内容を詳しく認識し学習計画を立てる。 ・学科教員の研究・教育内容を知る。 ・学科で学んだことが卒業後どう生かされるかを知る。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス (担当: 島袋伊津子) 9/25	シラバスをよく読む
	2	沖縄における海岸ゴミの現状と課題 (担当: 山川彩子) 10/2	配付資料をよく読み復習する。
	3	土の中の小さな生き物の世界-土壌生態学への招待 (担当: 齊藤星耕) 10/9	//
	4	G I S入門 (担当: 小川護) 10/16	//
	5	環境問題を経済学の視点より考える (担当: 呉錫畢) 10/23	//
	6	観光と情報技術 (担当: 根路銘もえ子) 10/30	//
	7	環境文化論～自然と調和した生き方や社会を考える～ (担当: 砂川かおり) 11/6	//
	8	地域経済と環境保全について (担当: 渡久地朝央) 11/13	//
	9	環境と歴史が培う産業～フランスのワインを視点として～ (担当: 上江洲律子) 11/27	//
	10	環境と観光～エコツーリズムとホテルの環境保全～ (担当: 上江洲薫) 12/4	//
	11	地域経済および環境政策において金融が果たす役割 (担当: 島袋伊津子) 12/11	//
	12	沖縄経済の課題と展望 (担当: 前泊博盛) 12/18	//
	13	沖縄県における自然災害 (担当: 新垣武) 1/8	//
14	中間試験 (担当: 島袋伊津子) 1/15	//	
15	学科の卒業生による講演 (担当: 島袋伊津子) 1/22	これまでの授業内容を整理する。	
16	レポート提出 (担当: 島袋伊津子) 1/29	//	
テキスト・参考文献・資料など			
<p>テキストは指定しない。 参考文献は 「地域と環境ありんくりん」沖縄国際大学公開講座委員会、1500円＋税。 「変わる沖縄—地域環境政策学の視点から—」沖縄国際大学公開講座委員会、1500円＋税。 他の参考文献は各回の担当教員が必要に応じて指導する。</p>			
学びの手立て			
<ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず欠席する場合は必ず事前にメールすること。 ・この授業で学ぶ内容は、各自の今後の学科での学習計画を立てるうえで重要なことなので、このことを意識しながら受講しましょう。 ・教員の日程調整の都合上、担当の順番が変更になることがあります。 			
評価			
レポート (40%) + 試験 (10%) + 平常点 (50%) 1/3以上欠席の者は不可。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 「基礎演習ⅠⅡ」、「地域セミナーⅠⅡ」、「演習ⅠⅡ」、「演習ⅢⅣ」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域経済学 I	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	2年	t. toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>地域経済学は地域における様々な現象について経済学を基に解明していく学問です。経済発展を目的に地域企業を対象とする産業組織論としての見方や、地域の経済格差などを分析する公共経済学としての見方、地域環境を評価する環境経済学としての見方など横断的な分野でもあります。授業では身近な事例を交えながら、経済学を背景とした地域経済の基礎理論を中心に学びます。</p>	<p>地域経済学を理解することで経済学に基づく地域や都市の意味を理解することに役立ちます。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学を通して地域や都市の成り立ちや意味を理解する。 ・産業と地域や都市の経済発展を理解する。 ・地域の産業構造と地域間格差を考える。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地域の概念とその定義	授業ノートを参照
	2	産業立地論（チューネン、ウェーバー）	授業内容を復習する
	3	空間的分業（マッシュィ）	授業内容を復習する
	4	多国籍企業の立地と地域の企業立地	授業内容を復習する
	5	地域経済モデル	配布資料を参照
	6	地域の経済発展と企業の生産要因	授業内容を復習する
	7	地域の成長モデル（カルドア）	授業内容を復習する
8	地域の成長モデル（サールウォール）	授業内容を復習する	
9	地域の成長モデル（ウェーバー）	授業内容を復習する	
10	地域経済と人口移動	授業内容を復習する	
11	人口移動と重力モデル	授業内容を復習する	
12	技術発展に伴う地域経済の市場規模の変化	授業内容を復習する	
13	地域的分業と産業構造変化	授業内容を復習する	
14	地域間格差と失業率	授業内容を復習する	
15	地域政策と6次産業化の取り組み事例	授業内容を復習する	
16	試験	授業内容を復習する	
テキスト・参考文献・資料など	<p>H. アームストロング, J. テイラー 『地域経済学と地域政策』, 流通経済大学出版, 1998. M. E. ポーター 『競争優位の戦略』, ダイヤモンド社, 1985. M. E. ポーター 『競争の戦略』, ダイヤモンド社, 1982.</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なときに授業内容を振り返れるよう、授業ノートを作ることが望ましい。 ・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・中間テストと期末テストの2回のテストを持って評価する。 ・テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域経済から地域や都市、産業について学び、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」や「地域経済学Ⅱ」の理解に役立て、自分たちが住む場所について考えて欲しい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域経済学Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	2年	t. toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地域経済学は地域における様々な現象について経済学を基に解明していく学問です。本授業は地域経済学Ⅰ（前期）の続きにあたります。より詳細に地域と都市、その発展要因を学び、地域経済の意味を考える。	メッセージ 地域経済学を理解することで経済学に基づく地域や都市のあり方を考え、将来の沖縄が進むよりよい方向を考えていきましょう。
	到達目標 ・経済学を通して地域の産業の発展要因を考える。 ・地域の経済成長と地域特性について考える。 ・自分たちの生活する地域の在り方を考える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地域経済と労働格差	授業ノートを参照
	2	地域経済と教育格差	授業内容を復習する
	3	地域間の人口移動と配分利得	授業内容を復習する
	4	地域間の範囲経済	授業内容を復習する
	5	地域の産業集積と新産業空間	授業内容を復習する
	6	都市と地域の関係	授業内容を復習する
	7	地域経済における都市空間論	授業内容を復習する
	8	地域における基盤産業と非基盤産業の捉え方	配布資料を参照
	9	空間経済学による地域経済の視点	授業内容を復習する
	10	都市規模による産業構造の変化	授業内容を復習する
	11	都市規模による企業行動の変化	授業内容を復習する
	12	集積の経済と集積の不経済	授業内容を復習する
	13	新経済地理学による地域経済の視点	授業内容を復習する
	14	地域の経済成長と知識の集積	授業内容を復習する
	15	知識の集積に伴う地域特性の変化	授業内容を復習する
	16	試験	授業内容を復習する
	テキスト・参考文献・資料など	高橋孝明『都市経済学』，有斐閣ブックス，2012。 松原宏『経済地理学－立地・地域・都市の理論』，東京大学出版，2006。 藤田昌久『空間経済学』，東洋経済新報社，2000。	
	学びの手立て	・必要なときに授業内容を振り返れるよう，授業ノートを作ることが望ましい。 ・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい。	
	評価	・中間テストと期末テストの2回のテストを持って評価する。 ・テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・経済を通して地域や都市，産業について学び，自分たちが住む場所について考え，より専門的な分野を学ぶ糧にして欲しい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域経済書講読 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	2年	メールでお問い合わせください。 t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地域経済の課題でもある様々な格差問題について考えていく。 授業では所得格差や地域間格差, 教育格差を中心に, 参考論文を取り上げながら社会的厚生について勉強していく。	メッセージ 授業で取り上げたテーマを掘り下げるために図書館を利用する習慣を身につける。
	到達目標 ・ 社会に対して自らの問題意識を持つ。 ・ 論文の文章構成や読み方を理解する。 ・ 授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地域経済と格差問題について	授業計画を確認する
	2	雇用格差	配布資料を参照
	3	所得格差-その1	授業内容を復習する
	4	所得格差-その2	授業内容を復習する
	5	教育格差-その1	授業内容を復習する
	6	教育格差-その2	授業内容を復習する
	7	教育格差-その3	授業内容を復習する
	8	地方と都市の格差	授業内容を復習する
9	社会的厚生について	授業内容を復習する	
10	独占と資源配分	授業内容を復習する	
11	厚生経済学の考え方	配布資料を参照	
12	厚生経済学と社会的選択論の文献紹介	授業内容を復習する	
13	新厚生経済学の考え方について	授業内容を復習する	
14	厚生経済学と新構成経済学	授業内容を復習する	
15	授業総括	授業内容を復習する	
16	試験	試験内容を確認する	
実践	テキスト・参考文献・資料など 適時, 資料を配布する。 テキスト 伊藤元重『リーディングス格差を考える』日本経済新聞出版社		
	学びの手立て ・ 必要な時に授業内容を振り返れるよう, 授業ノートと作ることが望ましい。 ・ 授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい。		
	評価 ・ 試験を持って評価する。 ・ 試験欠席者はレポート提出で評価を行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本や資料を読み, 自身の興味を持った分野を知る機会となって欲しい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域経済書講読Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	2年	メールでお問い合わせください。 t.toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地域経済の課題でもある社会的厚生について考えていく。 授業では社会や地域、環境問題付いて配布資料の論文を基に勉強していく。	メッセージ 論文を読みながら、関連する文献を紹介します。 自身の興味のある文献をみつけ、図書館利用や読む習慣をつけてください。
	到達目標 ・授業中に紹介する本について図書館を利用する習慣を身につける。 ・社会に対して自らの問題意識を持つ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会的厚生について	授業内容を復習する
	2	地域の抱える問題と社会的厚生について－その1	配布資料を参照
	3	地域の抱える問題と社会的厚生について－その2	授業内容を復習する
	4	市場と財について－その1	授業内容を復習する
	5	市場と財について－その2	授業内容を復習する
	6	外部経済について	授業内容を復習する
	7	不確実性と情報	授業内容を復習する
	8	公共経済学について－その1	配布資料を参照
9	公共経済学について－その2	授業内容を復習する	
10	地域の公共選択－その1	授業内容を復習する	
11	地域の公共選択－その2	授業内容を復習する	
12	社会保障について	授業内容を復習する	
13	地域の環境問題－その1	授業内容を復習する	
14	地域の環境問題－その2	授業内容を復習する	
15	授業総括	授業内容を復習する	
16	試験	試験内容を確認する	
	テキスト・参考文献・資料など 適時、資料を配布します。		
	学びの手立て ・必要な時に授業内容を振り返れるように、授業ノートを作ることが望ましい。 ・授業中に紹介する書籍について図書館を利用することが望ましい。		
	評価 ・試験を持って評価する。 ・試験欠席者はレポート提出で評価を行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 授業を通して、自身の興味を持った分野の本を読む機会になって欲しい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域経済特別講義Ⅱ（地域経済と社会）	前期		2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-伊佐 淳	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講の目的は、NPOの定義や、日本のNPOの現状、NPOと企業や行政との違いを学ぶことによって、NPOについての基本的な知識を身につけてもらい、さらには、これからのNPOが果たすべき役割や可能性について、皆さんに考えてもらうことにあります。</p>	<p>NPOという言葉は耳にするようになってはきたのだけれど、何だかよくわからない、という人も多いのではないのでしょうか。もしかしら、さまざまな誤解もあるかもしれません。そこで、本講義では、以上の点を念頭に置き、さまざまな具体例も交えながら、テキストに基づいて講義を進めていこうと思います。</p>
到達目標	<p>NPOが市民、行政、企業などと協働を図りながら、地域社会を担っていくには何が必要で何が課題であるかについて理解することと、自分自身のこれからの社会での生き方についてより深く考えるようになることの2点です。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義のガイダンス、事例紹介（1）	NPOの基本について理解する
	2	NPOの定義とNPOの分類	事例研究と定義の確認
	3	NPO法人の現状と課題	NPO法人とは何か。
	4	NPO法人の基本的な組織構造	NPOの組織について理解する
	5	NPOについての誤解	講義内容の確認
	6	事例紹介（2）	事例研究と定義の確認
	7	NPOと企業とは何が異なるのか	企業とNPOの違いの理解
8	NPOと行政とは何が異なるのか	行政とNPOの違いの理解	
9	事例紹介（3）	事例研究と定義の確認	
10	そもそもNPOはなぜ存在するのか（1）	NPOの存在理由についての理解	
11	そもそもNPOはなぜ存在するのか（2）	NPOについての調査	
12	NPOと協働、そしてネットワーク（1）	NPOと協働の理念についての理解	
13	NPOと協働、そしてネットワーク（2）	NPOとネットワークの理解	
14	事例紹介（4）	事例研究と講義の整理	
15	まとめ	集中講義の振り返りと総括	
16	テスト	試験内容の確認と講義内容の整理	
テキスト・参考文献・資料など	伊佐淳『NPOを考える（第2版）』創成社、2016年。適宜、参考文献を紹介します。		
学びの手立て	自分の周りを見回し、地域社会が様々な人たちによって支えられていることに関心を持ちながら毎回の講義に臨んでください。また、講義をきっかけにして、社会貢献活動やボランティア活動に参加するように努めてください。		
評価	講義の最終回に課す「まとめ」のレポート（70%）と受講態度（30%）とで評価します。なお、受講態度良好（建設的な意見、良い質問など）の場合は加点します。逆に、受講態度不良（私語、居眠り、30分以上の遅刻、教科書・筆記用具の持参無しなど）の場合には減点としますので、注意してください。4回欠席で不可になります。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目としては、公共経済学などが考えられます。受講終了後は、NPOに参加し、現実の地域経済社会にとって何が課題で何が必要なのかを理解し、自分自身のこれからの社会での生き方について引き続き考えていきましょう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナー I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。	沖縄経済に関する基本データを収集し、PPで表現するための基本スキルを1年次に身に付け、二年次では実際にフィールドワークで調査した内容をパワーポイントで報告できるようにトレーニングを行います。

到達目標
1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地域セミナーの概要説明（ガイダンス）	経済インフラとは
	2	沖縄経済を支える「経済インフラ」とは	沖縄経済の概要とインフラの関係
	3	経済インフラの調査割り振り	調査項目の整理とデータの収集
	4	インフラ調査報告①「インフラとは（総論）」	調査項目の整理とデータの収集
	5	インフラ調査報告②「空港（那覇空港、離島空港）」	フィールドワーク調査とPP作成
	6	インフラ調査報告③「港湾（クルーズ船バース・ターミナル等）」	フィールドワーク調査とPP作成
	7	インフラ調査報告④「道路（高速道路、国道・県道・市町村道）」	フィールドワーク調査とPP作成
	8	インフラ調査報告⑤「橋梁（橋）」	フィールドワーク調査とPP作成
	9	インフラ調査報告⑥「橋梁（離島架橋）」	フィールドワーク調査とPP作成
	10	インフラ調査報告⑦「ダム（水資源開発・確保）、浄水場、下水道」	フィールドワーク調査とPP作成
	11	インフラ調査報告⑧「観光施設（美ら海水族館、首里城公園等）」	フィールドワーク調査とPP作成
	12	インフラ調査報告⑨「公共施設（MICE, コンベンションセンター等）」	フィールドワーク調査とPP作成
	13	インフラ調査報告⑩「交通（モノレール等）」	フィールドワーク調査とPP作成
	14	インフラ調査報告⑪「米軍基地」	フィールドワーク調査とPP作成
15	全体フィールドワーク（米軍基地、空港、美術館・博物館）	調査の実施	
16	地域セミナーの総括	セミナーの学びの総括	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 経済インフラに関する論文、文献、データに関する資料の収集、新聞資料の活用
-------	--

学びの手立て	データをもとに関係団体、企業、専門家へのヒアリング調査の準備と実施、調査結果のPP作成、発表準備、報告
--------	---

評価	課題の調査実施とヒアリング、データの収集と分析、PPの完成度、発表の精度、確度など総合的に評価
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 日々の新聞・テレビのニュースをチェックし、経済インフラ整備による地域経済発展の効果分析など、B/C（費用対効果分析）に注目したい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 フィールドワークを通して、地域経済や環境問題への理解をさらに深めます。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナー I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘 もえ子	2年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	実際に地域経済のフィールドに出かけ、現場の空気を肌で感じることで、座学だけでは得られない知見を広めることを目標とする。この講義をきっかけに、受講者が地域経済に興味関心を持つことをねらいとする。	本講義は事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。その他の学生（3・4年次）は、登録前に面談を実施するので、研究室（9-613）に相談に来ること。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な論文・レポートの書き方のルールを理解し身に付ける。 レジメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。 大学生生活のルールや学生支援の内容を理解し、4年間の計画および卒業後の目標を立てる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読む
	2	巡検対象等決定・情報収集	テーマに関する事前学習
	3	事前調査	テーマに関する事前学習
	4	事前調査	テーマに関する事前学習
	5	フィールドワーク	フィールドワーク先の調査
	6	まとめ・提案 資料作成	振り返りとプレゼン資料作成
	7	まとめ・提案 資料作成	振り返りとプレゼン資料作成
	8	発表	前半巡検の振り返り
	9	巡検対象等決定・情報収集	テーマに関する事前学習
	10	事前調査	テーマに関する事前学習
	11	事前調査	テーマに関する事前学習
	12	フィールドワーク	フィールドワーク先の調査
	13	フィールドワーク	フィールドワーク先の調査
	14	まとめ・提案 資料作成	振り返りとプレゼン資料作成
15	まとめ・提案 資料作成	振り返りとプレゼン資料作成	
16	発表	後半巡検の振り返り	

テキスト・参考文献・資料など
<p>テキストは講義時に指定する。 参考文献は講義時に紹介する。</p>

学びの手立て
<ul style="list-style-type: none"> 地域セミナーI・IIは二年次必修の科目なので必ず出席すること。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで教員に連絡をすること。 欠席した場合は、できるだけ早く資料を教員の元へ取りに行くこと。 <p>※無断欠席は作業を遅延させ、報告会等のスケジュールを狂わせ、メンバーに多大な迷惑をかけることになる</p>

評価
講義への取組・参加度20%、事前学習課題等（レポート）の内容50%、各課題の最終発表30%。

学びの継続
次のステージ・関連科目
後期：地域セミナーII 次年度：演習I・演習II

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない実体験できる科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナー I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 伊津子	2年	itukoアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 受講者が実際に地域経済のフィールドに出かけ、現場の空気を肌で感じることで、座学だけでは得られない知見を広めること、さらに、この講義をきっかけに地域経済に興味関心を持つことをねらいとする。	メッセージ フィールドワークをメインとする授業です。地域経済の現場を対象とします。【実務経験】を活かした授業を展開する。
	到達目標 フィールドワークを行い、その成果を発表できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読む
	2	事前学習	テーマに関する情報収集
	3	事前学習	テーマに関する情報収集
	4	事前学習	テーマに関する情報収集
	5	事前学習報告会	プレゼン資料を作成する
	6	フィールドワーク	アポを取る、現地調査する
	7	フィールドワーク	アポを取る、現地調査する
	8	フィールドワーク	アポを取る、現地調査する
9	フィールドワーク結果報告会	プレゼン資料を作成する	
10	フィールドワークの結果に基づく学習	テーマに関する情報収集	
11	フィールドワークの結果に基づく学習	テーマに関する情報収集	
12	フィールドワーク	アポを取る、現地調査する	
13	フィールドワーク	アポを取る、現地調査する	
14	フィールドワーク	アポを取る、現地調査する	
15	フィールドワーク	アポを取る、現地調査する	
16	最終報告会	プレゼン資料を作成する	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 各グループが設定したテーマに応じて適宜教える。		
学びの実践	学びの手立て やむを得ない事情で欠席する場合は、必ず事前にメールしてください。特に、フィールドワークや発表会を無断欠席する場合は不可となります。		
学びの実践	評価 ・単位取得の条件は、2/3以上の出席、フィールドワーク、報告会の参加である。 ・評価の配分は、事前学習報告（30%）、フィールドワーク結果報告（30%）、最終報告（30%）、レポート（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「演習 I・II・III・IV」
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナー I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉 錫畢	2年	メール (sukpil@okiu.ac.jp) で簡略に書いて、研究室に来ること。	

学びの準備	ねらい この授業では、沖縄地域の自然環境及び社会環境に関する諸問題を検討する。授業は少人数ゼミ形式で行い、毎回、各自の発表テーマに沿いながら議論する。また、野外学習やデータ分析を行いながら、地域とかかわる諸問題に対して考察し、社会における問題意識が培われることを目標とする。	メッセージ 地球環境問題は地域から始まる。
	到達目標 地域の発展のために地域を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1週目：地域セミナーのオリエンテーション	地域とは何かを考える
	2	2週目：地域とは何かについて発表（自分の地域を中心に）1	自分の地域を調べる
	3	3週目：地域とは何かについて発表（自分の地域を中心に）2	自分の地域を調べる
	4	4週目：北部地域の経済・環境・観光・基地・社会及び文化・歴史（グループ化する）	北部地域を調査
	5	5週目：北部地域の経済・環境についてグループで発表1	北部地域を調査
	6	6週目：北部地域の経済・環境についてグループで発表2	北部地域を調査
	7	7週目：北部地域の観光・基地についてグループで発表1	北部地域を調査
	8	8週目：北部地域の観光・基地についてグループで発表2	北部地域を調査
	9	9週目：北部地域の社会及び文化・歴史についてグループで発表1	北部地域を調査
	10	10週目：北部地域の社会及び文化・歴史についてグループで発表2	北部地域を調査
	11	11週目：基地からみる辺野古経済を資す	北部巡見
	12	12週目：海洋博からみる沖縄経済と備瀬フクギ並木の環境価値	北部巡見
	13	13週目：国頭村安波からみる観光経済の未来を探る	北部巡見
	14	14週目：北部巡見1	北部巡見
15	15週目：北部巡見2	北部巡見	
16	16週目：地域発展の視点より総括	総括	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて資料を配付する。 講義の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て 地域のことについて調べ、地域の巡見を通して肌で感じてもらう。		
	評価 出席状況、授業への参加度、ディベート等で総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習 I・II を深めるための基礎を磨く。
-------	--------------------------------------

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない実体験できる科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナー I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 伊津子	2年	itukoアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 受講者が実際に地域経済のフィールドに出かけ、現場の空気を肌で感じることで、座学だけでは得られない知見を広めること、さらに、この講義をきっかけに地域経済に興味関心を持つことをねらいとする。	メッセージ フィールドワークをメインとする授業です。地域経済の現場を対象とします。【実務経験】を活かした授業を展開する。
	到達目標 フィールドワークを行い、その成果を発表できる。	

学びの準備	到達目標 フィールドワークを行い、その成果を発表できる。
-------	---------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読む
	2	事前学習	テーマに関する情報収集
	3	事前学習	〃
	4	事前学習	〃
	5	事前学習報告会	プレゼン資料を作成する
	6	フィールドワーク	アポを取る、現地調査する
	7	フィールドワーク	〃
	8	フィールドワーク	〃
	9	フィールドワーク結果報告会	プレゼン資料を作成する
	10	フィールドワークの結果に基づく学習	テーマに関する情報収集
	11	フィールドワークの結果に基づく学習	〃
	12	フィールドワーク	アポを取る、現地調査する
	13	フィールドワーク	〃
	14	フィールドワーク	〃
	15	フィールドワーク	〃
16	最終報告会	プレゼン資料を作成する	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 各グループが設定したテーマに応じて適宜教える。
-------	---

学びの実践	学びの手立て やむを得ない事情で欠席する場合は、必ず事前にメールしてください。特に、フィールドワークや発表会を無断欠席する場合は不可となります。
-------	---

学びの実践	評価 ・単位取得の条件は、2/3以上の出席、フィールドワーク、報告会の参加である。 ・評価の配分は、事前学習報告（30%）、フィールドワーク結果報告（30%）、最終報告（30%）、レポート（10%）
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「演習ⅠⅡ」「演習ⅢⅣ」
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナー I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山川 (矢敷) 彩子	2年	メール: a.yamakawa@okiu.ac.jp 研究室: 9号館505室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域セミナーは、沖縄県の地域経済や自然環境について、実際にフィールド(現地)に行って体験学習する。また野外で学んだことについて、書籍やインターネットで情報を収集し、自分なりに整理してレポートにまとめる。	本講義は事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。その他の学生(3・4年次)は、登録前に面談を実施するので、メールでアポをとり9-505に相談に来ること。 【実務経験】エコツアーをおこなっている社会人特別講師を招聘する。

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的なレポート、メールの書き方のルールを理解し身に付ける。 レジメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。 大学生生活のルールや学生支援の内容を理解し、4年間の計画および卒業後の目標を立てる。
------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>沖縄島の成り立ち(地史)、地質や土壌、自然環境(植物)について学ぶ。実習地としては、浦添城跡周辺があげられる。巡検後、調べ学習し考察を加えレポートとしてまとめる。</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週 メールの書き方 第3～4週 事前学習 第5～6週 フィールドワーク(教員、社会人特別講師の引率) 第7～9週 レポート作成 第10～14週 沖縄の危険生物・外来生物についての調べ発表(PPTプレゼンテーション) 第15週 まとめ</p> <p><時間外学習> レポート作成、修正、および調べ発表の情報収集やレジメ作成の時間は、講義外の時間を用いて作業する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特に指定しない。講義中適宜紹介する。</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> 地域セミナーI・IIは二年次必修の科目なので必ず出席すること。 やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールで教員に連絡をすること。 欠席した場合は、できるだけ早く資料を教員の元へ取りに行くこと。 <p>※無断欠席は作業を遅延させ、報告会等のスケジュールを狂わせ、メンバーに多大な迷惑をかけることになる</p>
--------	---

評価	<p>単位取得には、3分の2以上の出席、課題(レポート、レジメ)の提出が必須である。評価は、演習における発言の内容やレポートの内容により総合的に評価する。</p> <p>授業参加度30%、課題(レポート)の取組姿勢、出来60%、プレゼンテーション10%とする。</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地域セミナーII、演習I・II(山川ゼミ)、島嶼環境論、環境資源論、生態学概論、生物学I・II、自然科学概論I・IIなど。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない実体験できる科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナー I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	齋藤 星耕	2年	5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本セミナーでは、自然に親しみ、生物相の調査を行う。得られた生物相データを統計処理することで、環境条件との因果関係や地点間の類似性を考察する。この過程を通じてデータ整理や、スライド作成、プレゼンテーションなどのスキルを向上させる。</p>	<p>自然の生物相は、適切な計画・方法に基づいて調査することによって、はじめて、科学的な議論の俎上にのせることができます。自然調査における考え方を学ぶことで、皆さんの社会や実生活での物の見え方も変わってくるかもしれません。</p>
	到達目標	
	<p>生物相の調査法の考え方が理解できる。 グループで役割分担して調査を実施できる。 データの整理が出来る。 調査の結果をまとめ、プレゼンテーションできる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	時間割の検討
	2	事前学習(1)	資料の見直し
	3	事前学習(2)	資料の見直し
	4	事前学習(3)	資料の見直し
	5	事前学習(4)	資料の見直し
	6	フィールドワーク(1)	手順の確認、記録の整理
	7	フィールドワーク(2)	手順の確認、記録の整理
	8	フィールドワーク(3)	手順の確認、記録の整理
	9	データ整理(1)	データ処理、結果の解釈
	10	データ整理(2)	データ処理、結果の解釈
	11	データ整理(3)	データ処理、結果の解釈
	12	発表スライド作成(1)	スライド作成
	13	発表スライド作成(2)	スライド作成
14	発表スライド作成(3)	発表練習	
15	スライド発表	発表練習	
16	まとめ	半期の振り返り、今後の展望	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。		
	学びの手立て 毎回出席し、やむを得ず欠席の場合には事前に連絡すること。		
	評価 演習における貢献や発表での取り組みにより総合的に評価する。 3分の2以上の出席と発表が必要。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 *関連科目： 土壌学概論、島嶼環境論、環境と農業、演習
-------	--

※ポリシーとの関連性

地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナー I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	2年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、沖縄の自然環境及び社会環境に関する諸問題を地理情報システム(GIS)を使いながら検討する。授業は少人数ゼミ形式で行い、毎回、課題にそって、GISを活用しながら主題図を作成し提出してもらう。また、野外学習(フィールドワーク)を行いながら、「現場」において地域発展の視点から環境問題や基地問題などの実態を考察する。	メッセージ GIS(地理情報システム)を中心とする内容で積み上げ式に授業を展開していきます。休まないようにしてください。
	到達目標 GISの基礎的な操作方法について取得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめの一步	プリントによる復習
	2	GIS地図についての知識	プリントによる復習
	3	地図太郎を使う	プリントによる復習
	4	背景地図の表示	プリントによる復習
	5	住所データを緯度経度データに変換	プリントによる復習
	6	データの表示	プリントによる復習
	7	統計データの簡単な表示	プリントによる復習
	8	国勢調査データの表示	プリントによる復習
9	グローバルマッピングの利用	プリントによる復習	
10	Web地図サービスの利用	プリントによる復習	
11	計測機能と検索機能	プリントによる復習	
12	公開されている各種データの利用	プリントによる復習	
13	情報ウィンドウの表示	プリントによる復習	
14	巡検(エクスカーション)①	調査事項、説明事項の整理	
15	巡検(エクスカーション)②	調査事項、説明事項の整理	
16	まとめ	レポート作成	
	テキスト・参考文献・資料など 毎回、プリントを配布する。 浮田典良『ジオ・パルNEO 地理学便利帳』海青社、2017年。谷 謙二『フリーGISソフト MANDARA10入門』古今書院 2018年、服部兼敏『地域支援のためのコンパクトGIS 地図太郎入門』2古今書院、2013年。 授業の中でその都度紹介する。		
	学びの手立て 積み上げ式で授業を進めていくので、休まないようにしてください。また、授業で扱ったGIS操作方法は次の時間の授業までに、パソコン上で必ず復習してください。		
	評価 成績は、レポート【100点】で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 GIS学術士資格取得を目指す。→ 演習 I、地理情報システム論 I・II。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナーⅡ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	2年	メールでお問い合わせください。 t.toguchi.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> 座学を通して知識を身につける。 次年度の演習に備えて資料作成の方法を学ぶ。 フィールドワークの結果をまとめて発表資料の作成が出来るようにする。 	メッセージ 座学による知識をもとにフィールドワークで得た結果をまとめて資料に仕上げる方法を学びましょう。
到達目標	次年度の専門的な演習に備え、レポートや資料の作成が出来るようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業計画についての説明	授業計画を確認する
	2	輪読1	授業内容を復習する
	3	輪読1	授業内容を復習する
	4	輪読1	授業内容を復習する
	5	輪読1	授業内容を復習する
	6	レポート作成について1	レポート内容を確認する
	7	レポート作成について2	レポート内容を確認する
	8	レポート作成について3	レポート内容を確認する
	9	発表資料の作成について1	授業内容を復習する
	10	発表資料の作成について2	授業内容を復習する
	11	発表資料の作成について3	授業内容を復習する
	12	フィールドワークによる調査1	調査内容を確認する
	13	フィールドワークによる調査2	調査内容を確認する
14	調査をもとにした発表資料の作成1	発表資料の内容を確認する	
15	調査をもとにした発表資料の作成2	発表資料の内容を確認する	
16	調査をもとにした発表資料の作成3	発表資料の内容を確認する	
実践	テキスト・参考文献・資料など 適時、参考資料を配布する。		
学びの手立て	授業で紹介した書籍について図書館を利用することが望ましい。		
評価	出欠とレポート提出、発表内容で評価を行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次年度の演習に望み、専門的な書籍や資料を読めるようにする。
-------	--

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、ITを活用した科目、実体験できる科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナーⅡ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	2年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、沖縄の自然環境及び社会環境に関する諸問題を地理情報システム(GIS)を使いながら検討する。授業は少人数ゼミ形式で行い、毎回、課題にそって、GISを活用しながら主題図を作成し提出してもらう。また、野外学習(フィールドワーク)を行いながら、「現場」において地域発展の視点から環境問題や基地問題などの実態を考察する。	メッセージ GIS(地理情報システム)を中心とする内容で積み上げ式に授業を展開していきます。休まないようにしてください。
	到達目標 GISの基礎的な操作方法について取得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめの一步	プリントによる復習
	2	GIS地図についての知識	プリントによる復習
	3	地図太郎を使う	プリントによる復習
	4	背景地図の表示	プリントによる復習
	5	住所データを緯度経度データに変換	プリントによる復習
	6	データの表示	プリントによる復習
	7	統計データの簡単な表示	プリントによる復習
	8	国勢調査データの表示	プリントによる復習
9	グローバルマッピングの利用	プリントによる復習	
10	Web地図サービスの利用	プリントによる復習	
11	計測機能と検索機能	プリントによる復習	
12	公開されている各種データの利用	プリントによる復習	
13	情報ウィンドウの表示	プリントによる復習	
14	巡検(エクスカーション)①	調査事項、説明事項の整理	
15	巡検(エクスカーション)②	調査事項、説明事項の整理	
16	まとめ	レポート作成	
	テキスト・参考文献・資料など 毎回、プリントを配布する。 浮田典良『ジオ・パルNEO 地理学便利帳』海青社、2017年。谷 謙二『フリーGISソフト MANDARA10入門』古今書院 2018年、服部兼敏『地域支援のためのコンパクトGIS 地図太郎入門』2古今書院、2013年。 授業の中でその都度紹介する。		
	学びの手立て 積み上げ式で授業を進めていくので、休まないようにしてください。また、授業で扱ったGIS操作方法は次の時間の授業までに、パソコン上で必ず復習してください。		
	評価 成績は、レポート【100点】で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 GIS学術士資格取得を目指す。→ 演習Ⅰ、地理情報システム論Ⅰ・Ⅱ。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナーⅡ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	呉 錫畢	2年	メール (sukpil@okiu.ac.jp) で簡略に書いて、研究室に来ること。	

学びの準備	ねらい この授業では、沖縄地域の自然環境及び社会環境に関する諸問題を検討する。授業は少人数ゼミ形式で行い、毎回、各自の発表テーマに沿いながら議論する。また、野外学習やデータ分析を行いながら、地域とかかわる諸問題に対して考察し、社会における問題意識が培われることを目標とする。	メッセージ 地球環境問題は地域から始まる。
	到達目標 地域の発展のために地域を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1週目：地域セミナーのオリエンテーション	地域とは何かを考える
	2	2週目：地域とは何かについて発表（自分の地域を中心に）1	自分の地域を調べる
	3	3週目：地域とは何かについて発表（自分の地域を中心に）2	自分の地域を調べる
	4	4週目：北部地域の経済・環境・観光・基地・社会及び文化・歴史（グループ化する）	北部地域を調査
	5	5週目：北部地域の経済・環境についてグループで発表1	北部地域を調査
	6	6週目：北部地域の経済・環境についてグループで発表2	北部地域を調査
	7	7週目：北部地域の観光・基地についてグループで発表1	北部地域を調査
	8	8週目：北部地域の観光・基地についてグループで発表2	北部地域を調査
	9	9週目：北部地域の社会及び文化・歴史についてグループで発表1	北部地域を調査
	10	10週目：北部地域の社会及び文化・歴史についてグループで発表2	北部地域を調査
	11	11週目：基地からみる辺野古経済を資す	北部巡見
	12	12週目：海洋博からみる沖縄経済と備瀬フクギ並木の環境価値	北部巡見
	13	13週目：国頭村安波からみる観光経済の未来を探る	北部巡見
	14	14週目：北部巡見1	北部巡見
15	15週目：北部巡見2	北部巡見	
16	16週目：地域発展の視点より総括	総括	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて資料を配付する。 講義の中で適宜紹介する。		
	学びの手立て 地域のことについて調べ、地域の巡見を通して肌で感じてもらう。		
	評価 出席状況、授業への参加度、ディベート等で総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 演習Ⅰ・Ⅱを深めるための基礎を磨く。
-------	-----------------------------------

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない実体験できる科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナーⅡ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	島袋 伊津子	2年	itukoアットマークokiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 受講者が実際に地域経済のフィールドに出かけ、現場の空気を肌で感じることで、座学だけでは得られない知見を広めること、さらに、この講義をきっかけに地域経済に興味関心を持つことをねらいとする。	メッセージ 全講義16回のうち、12回は、Project Based Learning (PBL)を行います。【実務経験】を活かした授業を展開する。
	到達目標 フィールドワークを行い、その成果を発表できる。	

学びの準備	到達目標 フィールドワークを行い、その成果を発表できる。
-------	---------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読む
	2	PBL (PBLについて、グループ設定、チームビルディング)	グループで打ち合わせ
	3	PBL (観光協会からの課題説明、質疑応答、課題の把握)	〃
	4	PBL (グループ打ち合わせ)	〃
	5	PBL (グループ打ち合わせ)	〃
	6	PBL (グループ打ち合わせ)	〃
	7	PBL (中間発表)	プレゼン資料作成
	8	PBL (グループ打ち合わせ、ヒアリング調査等)	グループで打ち合わせ
	9	PBL (グループ打ち合わせ、ヒアリング調査等)	〃
	10	PBL (報告資料仕上げ)	〃
	11	PBL (リハーサル)	プレゼン資料作成
	12	PBL (最終報告)	〃
	13	事前調査	グループで打ち合わせ
	14	フィールドワーク	〃
	15	フィールドワーク	〃
16	最終報告会	プレゼン資料作成	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。 各グループが設定したテーマに応じて適宜教える。
-------	---

学びの実践	学びの手立て やむを得ない事情で欠席する場合は、必ず事前にメールしてください。特に、フィールドワークや発表会を無断欠席する場合は不可となります。
-------	---

学びの実践	評価 ・単位取得の条件は、2/3以上の出席、フィールドワーク、報告会の参加である。 ・評価の配分は、事前学習報告(30%)、フィールドワーク結果報告(30%)、最終報告(30%)、レポート(10%)
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「演習ⅠⅡ」「演習ⅢⅣ」
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナーⅡ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	山川（矢敷） 彩子	2年	メール： a.yamakawaアットokiu.ac.jp 研究室： 9号館505室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	地域セミナーは、沖縄県の地域経済や自然環境について、実際にフィールド（現地）に行って体験学習することが目的である。	本講義は地域セミナーIで事前に割り振られた2年次のみ登録許可する。その他の学生（3・4年次）は、登録前に面談を実施するので、メールでアポをとり研究室（9-505）に相談に来ること。

学びの準備	到達目標
	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な論文・レポートの書き方のルールを理解し身に付ける。 レジメ、コンピュータプレゼンテーション等を有効に活用し、自分の言葉で口頭発表ができる。 大学生活のルールや学生支援の内容を理解し、4年間の計画および卒業後の目標を立てる

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>地域セミナーⅡは、（1）か（2）のどちらかを実施予定である。</p> <p>（1）沖縄島の成り立ち（地史）、地質や土壌、自然環境（植物）について学ぶ。実習地としては、浦添城跡周辺があげられる。巡検後、調べ学習し考察を加えレポートとしてまとめる。</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週 メールの書き方 第3～4週 事前学習 第5週 フィールドワーク（教員引率） 第6～7週 レポート作成 第8～9週 レポート作成 第10～14週 沖縄の危険生物・外来生物についての調べ発表 第15週 まとめ</p> <p>（2）PBL（課題解決型学習）を実施し、発表する。 県内の観光協会から、地域の観光に関する課題を聞き取り、解決策を考えプレゼンテーションする。</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週 課題の聞き取り 第3～4週 フィールドワーク（各自実施） 第5週 データ整理、発表準備 第6週 プロジェクト中間発表会 第7～9週 グループで調査&企画会議 第10週 プロジェクト発表会 第11～14週 沖縄の危険生物・外来生物についての調べ発表 第15週 ハブ博物公園見学</p> <p>（3）時間外学習 フィールドワークや企画会議、プレゼン準備などは、講義外の時間を用いて実施する。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特に指定しない。講義中適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域セミナーⅠ・Ⅱは二年次必修の科目なので必ず出席すること。 やむを得ず欠席する場合は、必ず事前にメールで教員に連絡すること。 欠席した場合は、できるだけ早く資料を教員の元へ取りに行くこと。 <p>※無断欠席はグループ作業を遅延させ、報告会等のスケジュールを狂わせ、グループメンバーに多大な迷惑をかけることになる</p>

学びの実践	<p>評価</p> <p>単位取得には、3分の2以上の出席、課題（レポート、レジメ）の提出が必須である。評価は、演習における発言の内容やレポートの内容により総合的に評価する。 授業参加度30%、課題の取組姿勢、出来60%、プレゼンテーション10%とする。</p>
	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地域セミナーⅠ、演習Ⅰ・Ⅱ（山川ゼミ）、島嶼環境論、環境資源論、生態学概論、生物学Ⅰ・Ⅱ、自然科学概論Ⅰ・Ⅱなど。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地域セミナーⅠ、演習Ⅰ・Ⅱ（山川ゼミ）、島嶼環境論、環境資源論、生態学概論、生物学Ⅰ・Ⅱ、自然科学概論Ⅰ・Ⅱなど。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない、地域セミナーなどの実体験できる科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナーⅡ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	砂川 かおり	2年	研究室：9-604、電話：893-7166 Email:ksunagawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に地域経済のフィールドに出かけ、現場の空気を肌で感じることで、座学だけでは得られない知見を広めることを目標とする。この講義をきっかけに、受講者が地域の経済や環境政策に興味関心を持つことをねらいとする。 ・エコプロ2019に参加し、県内外の団体の環境ビジネス・環境取り組み等への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何事にも積極的に取り組んで、楽しいゼミにしていこう。 ・指定されたクラスに登録してください。フィールドワークをメインとする授業です。地域経済や環境に関する現場を対象とします。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークを行い、その成果を発表できる。 ・エコプロ2019にて調査を実施し、結果をまとめ、発表できるようにする。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、成績・時間割確認、自己紹介など	銀のアンカーまとめる
	2	エコプロ2019事前準備（1）エコプロ2019の説明、参加登録、旅行手配。	配布資料を読んで、復習する。
	3	事前準備（2）参加登録、名刺作成、調査報告の作成方法説明・銀のアンカーまとめ発表	配布資料を読んで、復習する。
	4	講演「沖縄の再生エネ事情」（予定）・リフレクションシート（RS）①作成	配布資料を読んで、復習する。
	5	県未来エネルギー整備協会関連施設 巡検（予定）・RS②作成	配布資料を読んで、復習する。
	6	講演「伊是名島 島の風の活動について」（予定）・RS③作成	配布資料を読んで、復習する。
	7	漫湖水鳥・湿地センター 巡検（予定）・RS④作成	配布資料を読んで、復習する。
8	エコプロ2019事前準備（3）	学外ゼミの準備	
9	コプロダクツ2019 参加・調査（12/5）	収集した資料の整理	
10	エコプロダクツ2019 参加・調査（12/6～7）	PPT原稿⑤作成	
11	エコプロ2019 調査結果 PPT原稿⑤作成・提出	PPT原稿⑤読み直し	
12	エコプロ2019 PPT原稿⑤添削・修正・再提出	報告書⑥作成・発表練習	
13	PPT発表(1)・報告書⑥提出・添削	発表練習	
14	PPT発表(2) 報告書⑥修正・再提出	報告書⑥再チェック	
15	レポート評価会	後期の授業ふりかえり	
16	まとめ、授業評価アンケート	春季休暇中の計画を立て、実行。	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。随時資料を配布する。 参考文献は、適宜案内する。		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席する場合は必ず、事前にメールで連絡すること。後日、欠席届を提出すること。特に、フィールドワークや発表会を無断欠席する場合は不可となります。 ・わからないところは放置せず、積極的に授業内、授業後に質問し、理解するよう努めること。 ・受講生と相談の上、内容や進め方を変更することがあります。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・単位取得の条件は、2/3以上の出席、フィールドワークや東京でのゼミ調査への参加、調査と発表である。 ・評価の配分は、リフレクションシート①～④：各10%、パワーポイント⑤：20%、発表：10%、報告書⑥：30%。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「演習Ⅰ」・「演習Ⅱ」
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナーⅡ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	2年	t. toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄県を対象とした地域の経済や自然環境に関する諸問題を解決する方法を模索する。授業では、問題を解決するために必要なデータ収集とその方法を学習し、地域を考える意識を培う。	メッセージ 問題解決のための方法を学び、学外研修を通して地域に散在する問題について考えましょう。
	到達目標 ・データの収集方法を学ぶ。 ・地域に対する問題意識を議論する。 ・自分たちの住む地域の在り方を考える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義説明	説明内容を確認する
	2	地域の抱える問題について	授業内容を復習する
	3	解決方法の模索	授業内容を復習する
	4	地域を表すデータについて	授業内容を復習する
	5	文献サーベイの練習1	配布資料を参照
	6	文献サーベイの練習2	授業内容を復習する
	7	データの扱い方1	授業内容を復習する
	8	データの扱い方2	授業内容を復習する
	9	学外研修と調査の準備1	調査内容を確認する
	10	学外研修と調査の準備2	調査内容を確認する
	11	学外研修	権秀手順を確認する
	12	データ解析についてのサーベイ1	配布資料を参照
	13	データ解析についてのサーベイ2	授業内容を復習する
	14	学外研修の調査結果のまとめ パワーポイント作成	調査結果を確認する
15	調査結果の発表	発表内容を確認する	
16	総括	総括の復習をする	
	テキスト・参考文献・資料など ・適時、資料を用意して配布します。		
	学びの手立て ・配布した資料を参考に、地域の諸問題について自身の問題意識を持つ。		
	評価 ・出欠とレポート提出、発表内容で評価を行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・学外研修から地域の問題意識を考え、「地域経済学Ⅰ」や「地域経済学Ⅱ」の理解に役立て欲しい。
-------	---

※ポリシーとの関連性 地域経済や環境問題への理解をさらに深めるために、書物では体験できない実体験できる科目を提供。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域セミナーⅡ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	齋藤 星耕	2年	5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本セミナーでは、自然に親しみ、生物相の調査を行う。得られた生物相データを統計処理することで、環境条件との因果関係や地点間の類似性を考察する。この過程を通じてデータ整理や、スライド作成、プレゼンテーションなどのスキルを向上させる。	自然の生物相は、適切な計画・方法に基づいて調査することによって、はじめて、科学的な議論の俎上にのせることができます。自然調査における考え方を学ぶことで、皆さんの社会や実生活での物の見え方も変わってくるかもしれません。
到達目標	生物相の調査法の考え方が理解できる。 グループで役割分担して調査を実施できる。 データの整理が出来る。 調査の結果をまとめ、プレゼンテーションできる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを精読する
	2	事前学習(1)	資料の見直し
	3	事前学習(2)	資料の見直し
	4	事前学習(3)	資料の見直し
	5	事前学習(4)	資料の見直し
	6	フィールドワーク(1)	手順の確認、記録の整理
	7	フィールドワーク(2)	手順の確認、記録の整理
	8	フィールドワーク(3)	手順の確認、記録の整理
	9	データ整理(1)	データ処理、結果の解釈
	10	データ整理(2)	データ処理、結果の解釈
	11	データ整理(3)	データ処理、結果の解釈
	12	発表スライド作成(1)	スライド作成
	13	発表スライド作成(2)	スライド作成
14	発表スライド作成(3)	発表練習	
15	スライド発表	発表練習	
16	まとめ	ゼミ活動の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特に指定しない。適宜資料を配布する。参考文献は必要に応じて紹介する。		
学びの手立て	毎回出席し、やむを得ず欠席の場合には事前に連絡すること。		
評価	演習における貢献や発表での取り組みにより総合的に評価する。 3分の2以上の出席と発表が必要。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目： 土壌学概論、島嶼環境論、環境と農業、演習
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理情報システム論 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡邊 康志	3年	授業終了後教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 地理情報システムの基本概念等を学ぶとともに、GISソフトの基本操作を習得する。本講義では、先ず地理情報システム (GIS) 基本概念の学習を行い、さらにGISソフトを使った基本データ処理演習を行う。基本概念の学習では、地図投影法、GISデータの種類と特徴、データ処理法などの基本概念を解説するとともに実際のGIS利用例なども紹介する。	メッセージ 地域分析のための重要ツールとして地理情報システムの基本概念等を学び、研究に活用しよう。
	到達目標 地理情報システムの基本概念等を学ぶとともに、GISソフトの基本操作を習得し、基本的事項を理解操作できるようにする。成績評価の方法は、講義単元ごとのレポート等の課題提出などの内容を総合して判断する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明)	
	2	地理情報システム概要、GIS利用例	
		時間外学習の内容	
	3	地理情報システムと地図投影法	シラバスをよく読むこと
	4	GISデータの種類と特徴	講義1での配布資料の予習
	5	ベクトルデータ処理法	テキスト1章Lesson 1
	6	GISにおけるレイヤーコントロール	1章Lesson 2
	7	個別値主題図作成とマップ	1章Lesson 3
	8	属性値の編集	1章Lesson 4
	9	数値データを使った主題図	1章Lesson 5
	10	各種マップの調整とその利用	1章Lesson 6
	11	地図投影法	1章Lesson 7
	12	公開されているGISデータの利用	1章Lesson 8
	13	DEM(標高データ)の利用	2章- 1
	14	公開されているDEMの利用	2章- 2, 3
	15	衛星画像の利用	10章- 1, 2
	16		10章- 3
			5章
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストはpdfで配布。 参考文献 『GIS自習室』 SuperMapExpressを使い倒す 古今書院 "Geographic Information Systems and Science" JOHN WILEY & SONS, LTD 張長平著『空間データ分析』 古今書院 地理情報システム学会編『地理情報科学事典』 朝倉書店		
	学びの手立て		
	実習で作成したデータや関連した課題を5回程度提出してもらう。本講義は初歩よりデータや操作を積み重ねていくので、欠席することなく講義に参加すること。止むを得ず欠席した場合は教科書等で講義内容を自習、補ってから次の講義を受けること。		
	評価		
	成績評価の方法は、事業終了時単元ごとに実習で作成したデータや関連した課題などを提出してもらう。その内容を総合して判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 上位科目、地理情報システム論 II
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理情報システム論Ⅰ	前期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡邊 康志	3年	授業終了後教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 地理情報システムの基本概念等を学ぶとともに、GISソフトの基本操作を習得する。本講義では、先ず地理情報システム (GIS) 基本概念の学習を行い、さらにGISソフトを使った基本データ処理演習を行う。基本概念の学習では、地図投影法、GISデータの種類と特徴、データ処理法などの基本概念を解説するとともに実際のGIS利用例なども紹介する。	メッセージ 地域分析のための重要ツールとして地理情報システムの基本概念等を学び、研究に活用しよう。
	到達目標 地理情報システムの基本概念等を学ぶとともに、GISソフトの基本操作を習得し、基本的事項を理解操作できるようにする。成績評価の方法は、講義単元ごとのレポート等の課題提出などの内容を総合して判断する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明)	シラバスをよく読むこと
	2	地理情報システム概要、GIS利用例	講義1での配布資料の予習
	3	地理情報システムと地図投影法	テキスト1章Lesson1
	4	GISデータの種類と特徴	1章Lesson2
	5	ベクトルデータ処理法	1章Lesson3
	6	GISにおけるレイヤーコントロール	1章Lesson4
	7	個別値主題図作成とマップ	1章Lesson5
	8	属性値の編集	1章Lesson6
	9	数値データを使った主題図	1章Lesson7
	10	各種マップの調整とその利用	1章Lesson8
	11	地図投影法	2章-1
	12	公開されているGISデータの利用	2章-2, 3
	13	DEM(標高データ)の利用	10章-1, 2
	14	公開されているDEMの利用	10章-3
	15	衛星画像の利用	5章
	16		
	テキスト・参考文献・資料など テキストはpdfで配布。 参考文献 『GIS自習室』 SuperMapExpressを使い倒す 古今書院 "Geographic Information Systems and Science" JOHN WILEY & SONS, LTD 張長平著『空間データ分析』 古今書院 地理情報システム学会編『地理情報科学事典』 朝倉書店		
	学びの手立て 実習で作成したデータや関連した課題を5回程度提出してもらう。本講義は初歩よりデータや操作を積み重ねていくので、欠席することなく講義に参加すること。止むを得ず欠席した場合は教科書等で行為内容を自習、補ってから次の講義を受けること。		
	評価 成績評価の方法は、事業終了時単元ごとに実習で作成したデータや関連した課題などを提出してもらう。その内容を総合して判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 上位科目、地理情報システム論Ⅱ
-------	--------------------------------

※ポリシーとの関連性

履修の条件は『地理情報システムⅠ』を履修済みであること。地域分析のための重要ツールとして活用をはかる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理情報システム論Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-渡邊 康志	3年	授業終了後教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 地理情報システムⅠで学んだ基本事項をもとに、本講義ではGISデータを自分で作成する方法を学び、さらには属性検索、空間検索等を行うし、空間分析方法の基礎を学ぶ。	メッセージ 履修条件は『地理情報システムⅠ』を履修済みであること。地域分析のための重要ツールとして地理情報システムを研究に活用する、実践方法を学びましょう。
	到達目標 地理情報システムの基本概念・操作方法等を使って、GISデータの作成方法学ぶとともに、GISソフトを使った解析手法の基礎を学び、研究に空間分析が利用できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(講義計画、評価方法等の説明)	シラバスをよく読むこと
	2	ラスターデータのジオリファレンス	テキスト4章-1, 2
	3	ラスターデータのジオリファレンス(2)	4章-3, 4
	4	ベクトルデータセットの作成, ポイントデータ	3章-1, 2
	5	ベクトルデータセットの作成, ラインデータ	3章-4, 5
	6	ベクトルデータセットの作成, ポリゴンデータ	3章-6, 7
	7	ベクトルデータセットの作成, テキストデータ	3章-4
	8 GISデータの投影変換	6章-4, 5	
	9 GISデータの座標系変換	6章-6	
	10 属性検索と検索結果の保存	7章-1	
	11 属性表を使った演算と属性情報の生成	7章-2	
	12 空間検索	8章-1	
	13 オブジェクト位置関係を使った空間検索	8章-2	
	14 空間操作(バッファとボロノイ)	8章-6, 7	
	15 オーバーレイによる空間解析	9章	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など テキストはpdfで配布。 参考文献 『GIS自習室』 SuperMapExpressを使い倒す 古今書院 "Geographic Information Systems and Science" JOHN WILEY & SONS, LTD 張長平著『空間データ分析』 古今書院 地理情報システム学会編『地理情報科学事典』 朝倉書店		
	学びの手立て 『地理情報システムⅠ』を履修済みであること。実習で作成したデータや関連した課題を5回程度提出してもらう。本講義は初歩よりデータや操作を積み重ねていくので、欠席することなく講義に参加すること。止むを得ず欠席した場合は教科書等で講義内容を自習、補ってから次の講義を受けること。		
	評価 実習で作成したデータや関連した課題を5回程度提出してもらう。本講義は初歩よりデータや操作を積み重ねていくので、欠席することなく講義に参加すること。止むを得ず欠席した場合は教科書等で行為内容を自習、補ってから次の講義を受けること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒論等の研究に利用してほしい。
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	統計情報処理 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘 もえ子	2年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、回帰分析を基軸に基礎的な多変量解析法について学ぶことを目的とする。具体的には、多変量解析法の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら統計処理し、その方法ならびに結果の解釈について学ぶ。	メッセージ 統計学+コンピュータを学びます。
	到達目標 ・回帰分析をはじめ、多変量解析法の理論を理解する。 ・Excelによる統計処理を行える。 ・分析結果を解釈できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	統計の基礎学習
	2	基本統計量とエクセル (1)	基本統計量の学習
	3	基本統計量とエクセル (2)	基本統計量の学習
	4	基本統計量とエクセル (3)	基本統計量の学習
	5	相関分析 (1)	相関分析の学習
	6	相関分析 (2)	相関分析の学習
	7	単回帰分析 (1)	単回帰分析の学習
	8	単回帰分析 (2)	単回帰分析の学習
	9	重回帰分析 (1)	重回帰分析の学習
	10	重回帰分析 (2)	重回帰分析の学習
	11	回帰モデルの仮説検定と予測 (1)	回帰モデルの学習
	12	回帰モデルの仮説検定と予測 (2)	回帰モデルの学習
	13	ダミー変数 (1)	ダミー変数の学習
	14	ダミー変数 (2)	ダミー変数の学習
	15	最終試験	試験の振り返り
	16	まとめ	講義全体の振り返り
	テキスト・参考文献・資料など テキストは講義時に指定する。 参考文献は講義時に紹介する。		
	学びの手立て 毎回出席すること。		
	評価 平常点 (講義への取組、課題の内容、課題の提出) 70%、期末試験30%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 後期の統計情報処理II
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	統計情報処理Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘 もえ子	2年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、回帰分析の習得を前提に、多変量解析法について発展的に学ぶことを目的とする。具体的には、多変量解析法の理論を理解すると同時に、実際のデータをエクセルなどの統計ソフトを利用しながら統計処理し、その方法ならびに結果の解釈について学ぶ。	メッセージ 統計学+コンピュータを学びます。
	到達目標 ・回帰分析をはじめ、多変量解析法の理論を理解する。 ・Excelによる統計処理を行える。 ・分析結果を解釈できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	Excelの復習
	2	回帰分析の復習(1)	回帰分析の学習
	3	回帰分析の復習(2)	回帰分析の学習
	4	回帰分析の復習(3)	回帰分析の学習
	5	時系列重回帰分析(1)	時系列重回帰分析の学習
	6	時系列重回帰分析(2)	時系列重回帰分析の学習
	7	主成分分析(1)	主成分分析の学習
	8	主成分分析(2)	主成分分析の学習
	9	主成分分析(3)	主成分分析の学習
	10	コンジョイント分析(1)	コンジョイント分析の学習
	11	コンジョイント分析(2)	コンジョイント分析の学習
	12	コンジョイント分析(3)	コンジョイント分析の学習
	13	コンジョイント分析(4)	コンジョイント分析の学習
	14	分析手法のまとめ	これまでの分析手法の復習
	15	最終試験	試験の振り返り
	16	まとめ	講義全体の振り返り
	テキスト・参考文献・資料など テキストは講義時に指定する。 参考文献は講義時に紹介する。		
	学びの手立て 毎回出席すること。		
	評価 平常点(講義への取組、課題の内容、課題の提出)70%、期末試験30%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 計量経済学Ⅰ・Ⅱ
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	島嶼経済論Ⅰ	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。	メッセージ 160の島々を抱える島嶼県・沖縄。有人離島が年々減少する理由は何か。フィールドワークで島嶼経済の課題を検証します。
	到達目標 1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	島嶼経済論Ⅰの概要（ガイダンス）	島嶼関係文献の整理
	2	島嶼経済論の系譜	島嶼経済論とは
	3	島嶼経済の理論	島嶼経済理論の整理
	4	島の定義と分類	島とは何か
	5	島嶼県・沖縄の課題①人口動向	島嶼県沖縄の現状分析
	6	島嶼県・沖縄の課題②交通（港湾、海運、航空、陸運）	島嶼と交通の関係分析
	7	島嶼県・沖縄の課題③産業・インフラ（エネルギー、産業施設）	島嶼とエネルギー、インフラ
	8	島嶼県・沖縄の課題④生活環境・教育・文化（学校、教育ソフト）	島嶼に不可欠な医療と教育とは
	9	島嶼県・沖縄の課題⑤情報基盤・医療・保健（医療施設）	情報通信による島ちゃび克服とは
	10	フィールドワーク調査①：離島架橋（伊計、宮城、平安座、浜比嘉島）	離島架橋による島嶼経済振興とは
	11	フィールドワーク調査②：離島架橋（瀬底、古宇利、屋我地島）	架橋経済学のケーススタディ
	12	フィールドワーク調査報告	調査報告書の作成（PP）
	13	沖縄の離島振興①農林水産業	島嶼経済の基本を押さえる
	14	沖縄の離島振興②製造業	モノづくりの課題と可能性
	15	沖縄の離島振興③観光産業	観光産業による島嶼振興
	16	島嶼経済論Ⅰの総括	島嶼経済の課題と展望Report
	テキスト・参考文献・資料など ①嘉数啓「島しょ経済論」（ひるぎ社）②松島泰勝「沖縄島嶼経済史」③沖縄県「住みよく魅力ある島づくり計画画改定版」（平成30年3月） ②松島泰勝「沖縄島嶼経済史」 ③沖縄県「住みよく魅力ある島づくり計画」（平成25年3月）		
	学びの手立て 島とは何か。島嶼経済の特徴について、基本文献、論文、報告書を読み解きながら、県内、国内、国際の視点で検証していきましょう。		
	評価 講義では、前期、後期ともフィールドワークを行っています。座学とフィールドワークの中身をもとに総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 島嶼経済論Ⅰ、Ⅱを通年で受講するのが基本です。前期は沖縄、後期は国内、国際的な視点から島嶼経済の分析力を培います。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	島嶼経済論Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。</p>	<p>160の島々を抱える島嶼県・沖縄。有人離島が年々減少する理由は何か。フィールドワークで島嶼経済の課題を検証します。</p>
到達目標	<p>1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	島嶼経済論Ⅱの概要（ガイダンス）	島嶼への多角的な視点を整理
	2	ケーススタディ①：「離島架橋」の経済学（池間島、来間島、伊良部島）	離島架橋経済学のケーススタディ
	3	ケーススタディ②：「トンネル」の経済学（奄美大島の振興策）	トンネルは島嶼地域に何を残したか
	4	ケーススタディ③：「地域間格差」の経済学（南・北大東島の所得分析）	島嶼間格差の原因は？
	5	ケーススタディ④：「島嶼観光」の比較研究（宮古島と石垣島）	二つの島の比較研究
	6	ケーススタディ⑤：「1%経済」の行方（久米島）	1%経済の特徴（課題と展望）
	7	フィールドワーク調査：周辺離島（伊江島）	伊江島の経済展望調査
	8	フィールドワーク調査報告（伊江島）	調査報告のとりまとめPP作成
	9	海外島嶼地域研究①シンガポール④	島嶼経済の「優等生」分析
	10	海外島嶼地域研究②シンガポール⑤	島嶼国家の振興政策を学ぶ
	11	海外島嶼地域研究③ハワイ⑥	沖縄とハワイの比較研究
	12	海外島嶼地域研究④ハワイ⑦	ハワイの発展戦略に学ぶ
	13	海外島嶼地域研究⑤フィリピン	「ASEANの病人」の発展戦略
	14	海外島嶼地域研究⑥南太平洋島嶼国家	小国の振興策と沖縄の比較検討
15	島嶼経済論Ⅱ総括（島嶼の未来像）	島嶼地域の発展可能性を整理する	
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>①嘉数啓「島しょ経済論」（ひるぎ社）②松島泰勝「沖縄島嶼経済史」③沖縄県「住みよく魅力ある島づくり計画改定版」（平成30年3月） ②松島泰勝「沖縄島嶼経済史」 ③沖縄県「住みよく魅力ある島づくり計画」（平成25年3月）</p>
-------	--

学びの手立て	<p>島とは何か。島嶼経済の特徴について、基本文献、論文、報告書を読み解きながら、県内、国内、国際の視点で検証していきましょう。</p>
--------	--

評価	<p>講義では、前期、後期ともフィールドワークを行っています。座学とフィールドワークの中身をもとに総合的に評価します。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>島嶼経済論Ⅰ、Ⅱを通年で受講するのが基本です。前期は沖縄、後期は国内、国際的な視点から島嶼経済の分析力を培います。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	島嶼環境論	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	齋藤 星耕	2年	5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>島嶼は、他の陸地から海により隔てられた陸地である。この結果、陸上の生物相は独自性を持つが、島の歴史から紐解けばその成立を理解できる。また、亜熱帯に位置する琉球弧では、島の周囲にマングローブ林やサンゴ礁が形成され豊かな生物相を形成している。さらに、生物としての人類の島々への伝播も扱う。これらの内容を通じて島の自然環境への理解を深める。</p>	<p>沖縄の島々は、陸上も海の中も生命に溢れています。生物相は島々によって異なり個性があります。その理由を探っていくと、島相互の地理的な位置関係や、島が形成されてきた歴史に行き当たります。その中で沖縄（や世界）の島々間の共通性や違いにも気が付くかもしれません。皆さんにとって本講義が、足元の島から世界を理解する一助となることを期待します。</p>
到達目標	<p>① 島の形成過程について地球科学の視点から理解できる ② 島の陸上生物の分布と島の歴史の関係を理解できる ③ マングローブ林やサンゴ礁な熱帯・亜熱帯の島々に特徴的な生態系について理解できる ④ 生物としての人類の島への到達・定住の歴史を理解できる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 島嶼とは	
	2	島の形成 (1) 火山島と環礁の形成	配布プリントの見直し
	3	島の形成 (2) 地殻変動による島の形成	配布プリントの見直し
	4	島と気候変動 (1) 氷期と間氷期の周期変動と島	配布プリントの見直し
	5	島と気候変動 (2) 島と地球温暖化	配布プリントの見直し
	6	島の陸上生物相 (1) 琉球弧の来歴と陸上生物	配布プリントの見直し
	7	島の陸上生物相 (2) 移入種問題	配布プリントの見直し
	8	島の陸上生物相 (3) 島の生物学の諸法則	配布プリントの見直し
	9	マングローブの生物相 (1) 耐塩性をもつ木本植物	配布プリントの見直し
	10	マングローブの生物相 (2) マングローブの生態系機能	配布プリントの見直し
	11	サンゴ礁の生物相 (1) サンゴと褐虫藻の共生	配布プリントの見直し
	12	サンゴ礁の生物相 (2) サンゴ礁がもたらす生物多様性	配布プリントの見直し
	13	島の人類史 (1) 海を渡った人々	配布プリントの見直し
	14	島の人類史 (2) 島の人類社会と環境問題	配布プリントの見直し
15	島の人類史 (3) 現代の沖縄人はどこからきたのか	配布プリントの見直し	
16	定期試験		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは定めない。必要に応じて資料を配布する。</p> <p>参考文献 琉球大学理学部編 (2015) 琉球列島の自然講座, ボーダーインク; 鈴木款ほか編 (2011) サンゴ礁学, 東海大学出版会 小滝一夫 (1997) マングローブの生態, 信山社.</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え: ・ 毎回、講義の最後に小テストを実施する。注意深く講義の内容を聞きノートをとること。 ・ 毎回出欠確認を行う。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に必ずメールにて連絡すること。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>期末試験 (60%)と、毎回の授業の小テスト(40%)により評価する。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目: 「土壌学概論」、「農業と環境」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	都市環境論	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-玉栄 章宏	2年	電話：090-8412-1064	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、都市において発生する環境問題を概観する。このような環境問題には、水環境、大気環境、エネルギー、廃棄物などの問題が含まれる。講義では、これらの問題を個別に取り上げるだけでなく、問題相互の関連性を検討し、都市環境のマネジメントを考える。	都市を中心に、様々な環境問題やその政策について事例を挙げながら考えていきたい。都市河川の巡検も予定しているため、現場で実際に触れて感じて、考えて欲しい。
到達目標	①都市の水・大気・エネルギー消費と二酸化炭素・省エネ・廃棄物などに関する専門知識を事例を挙げながら説明できる。 ②都市での環境保全の取り組みなどについて、自分自身の意見を述べるができる。 ③都市での環境政策などについて提案することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義説明	
	2	都市と水環境①-都市の水収支	参考文献：①②④を読む
	3	都市と水環境②-水の供給と保全	同上
	4	都市と水環境③-那覇の都市河川	都市河川を調べる
	5	都市の大気環境と熱環境①-大気汚染の変遷と特徴	参考文献：①②を読む
	6	都市の大気環境と熱環境②-大気汚染物質とその対策1	同上
	7	都市の大気環境と熱環境③-大気汚染物質とその対策2	同上
	8	都市の大気環境と熱環境④-ヒートアイランド現象の特徴	参考文献：①②⑤を読む
	9	都市の大気環境と熱環境⑤-ヒートアイランド現象の対策	同上
	10	都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出①-日本の都市	参考文献：①②を読む
	11	都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出②-二酸化炭素の削減対策	同上
	12	都市のエネルギー消費と二酸化炭素の排出③-都市への集中と交通	同上
	13	都市の省エネと環境保全：スマートシティ	参考文献：⑥を読む
	14	物質の循環と廃棄物①-循環型社会	参考文献：①②を読む
15	物質の循環と廃棄物②-廃棄物の問題と活用	同上	
16	試験		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト：特に指定はない。毎回レジメを配布する。 参考文献：①花木啓祐(1994)『都市環境論』岩波書店。②福岡義隆・本条毅(1995)『都市の風水土 都市環境学入門』朝倉書店。③都市環境学教材編集委員会編(2003)『都市環境学』森北出版。④吉越昭久編(2001)『人間活動と環境変化』古今書院。⑤森山正和編(2004)『ヒートアイランドの対策と技術』学芸出版社。⑥岡村久和(2011)「スマートシティ」アスキー・メディアワークス。

学びの手立て	履修の心構え：講義に出席し内容を理解していない限りレポートや試験は書けません。従って、講義中は私語をみ受講して下さい。途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。 学びをふかめるために：環境に関する新聞記事を読んだり、環境省 http://www.env.go.jp/ のWebサイトを見るを推奨します。
--------	--

評価	テスト(40点)：上記の目標達成の①を評価します。 平常点(30点)：講義やDVD視聴の感想、講義への参加姿勢を評価します。 課題・レポート(30点)：授業で取り上げた課題に対する意見や討論内容の意見などを評価します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ：多くの人口や産業が集まる都市を中心に、地域環境や環境政策などを学んでいるため、それらの解決できる手法や取り組みを考えて欲しい。 関連科目：「交通と環境」「環境政策論」「エコビジネス論」は受講して欲しい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	土壌学概論	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	齋藤 星耕	2年	5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>土壌は、陸上生態系の生産者である植物の生育に必要な養分を供給し、人類を含む他の陸上生物を支えている。また土壌は、動植物遺体や排泄物など有機物の分解の場であり、再度植物が利用可能な養分に戻している。土壌は、気象の作用と、生態系との相互作用を通じて、長い時間をかけて岩石が変化して生成されたものである。本講義では陸上生態系の基盤である土壌への理解を深める。</p>	<p>皆さんの日常の中で、土に触れる機会は殆どないかもしれません。しかし、土は人間を含めて、陸上に生きる生物にとって欠くことの出来ないものです。土を考えることを通じて、生態系の仕組みを知り、またその歴史に触れることで、人間という生物の立ち位置が理解できます。そのなかから、環境を保全しなくてはならない理由が見えてくるはずです。</p>
到達目標	<p>① 土壌と生物との関わりが理解できる ② 土壌が持つ生態系機能について理解できる ③ 土壌形成に影響を及ぼす因子について理解できる ④ 土壌をめぐる環境問題について理解できる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに 土壌とは	
	2	土壌と生物(1): 生態系	ノート・資料の見直し
	3	土壌の生物(2): 植物と養分	ノート・資料の見直し
	4	土壌の生物(3): 生分解作用と微生物	ノート・資料の見直し
	5	土壌の生物(4): 土壌動物	ノート・資料の見直し
	6	土壌の発達(1): 土壌の誕生	ノート・資料の見直し
	7	土壌の発達(2): 土壌生成作用	ノート・資料の見直し
8	土壌の発達(3): 層位の分化、微細構造	ノート・資料の見直し	
9	土壌の機能(1): 養分の保持	ノート・資料の見直し	
10	土壌の機能(2): 水分、地温	ノート・資料の見直し	
11	土壌の種類と分布(1): 土壌の種類	ノート・資料の見直し	
12	土壌の種類と分布(2): 気候帯の影響と、生態系の遷移	ノート・資料の見直し	
13	土壌をめぐる環境問題(1): 土壌浸食	ノート・資料の見直し	
14	土壌をめぐる環境問題(2): 塩類集積、土壌汚染	ノート・資料の見直し	
15	沖縄の土壌	ノート・資料の見直し	
16	定期試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。 参考文献： 松中照夫「土壌学の基礎」(2003, 農文協)</p>		
学びの手立て	<p>履修の心構え： ・毎回、講義の最後に小テストを実施する。注意深く講義の内容を聞きノートをとること。 ・レポートを課すことがある。 ・毎回出欠確認を行う。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に必ずメールにて連絡すること。</p>		
評価	<p>期末試験 (60%)と、小テスト及びレポート(40%)により評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目： 「農業と環境」、「島嶼環境論」</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	農業と環境	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	齋藤 星耕	2年	5号館520室 s.saitou@okiu.ac.jp 授業後にも受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>人類は食料の大部分を農業に依存している。農業は、人類にとって有益な生物を育てるために環境を改変する行為であり、環境への影響を避けることができない。本講義では、農業の歴史、人類が直面する環境と食料の問題、農業が生態系に与える影響とその過程を扱う。また、持続可能な農業への取り組みも紹介する。これらにより農業と環境の関係に対する理解を深める。</p>	<p>特に農業は、自然に積極的に働きかけることで食料などの生産物を得る人類の営為です。しかし、歴史的には農業が環境破壊を引き起こし、衰退した地域がいくつもあります。また現代は歴史上かつてない規模に増加した人口を養う必要に直面しています。持続的な農業、ひいては社会を実現するためにはどうすれば良いのか、本講義を通じて各自が考えていく機会となればと思います。</p>
到達目標	<p>①食料問題を農業と環境の観点から理解できる。 ②農業が環境に影響を与える過程を具体的に理解できる。 ③持続的な農業への取り組みを知る。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：他の生物を育てて食べる生物	
	2	人類の食料調達の歴史	資料の見直し
	3	古代文明の衰退と環境破壊	資料の見直し
	4	食料と人口問題	資料の見直し
	5	食料の輸出入	資料の見直し
	6	緑の革命	資料の見直し
	7	農地の物質収支	資料の見直し
8	肥料・農薬	資料の見直し	
9	灌漑	資料の見直し	
10	土壌流出	資料の見直し	
11	水産資源	資料の見直し	
12	気候変動と農業	資料の見直し	
13	有機農業	資料の見直し	
14	里山・里海	資料の見直し	
15	農業の持続可能性	資料の見直し	
16	試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。	
学びの手立て	履修の心構え：	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、講義の最後に小テストを実施する。注意深く講義の内容を聞きノートをとること。 ・レポートを課すことがある。 ・毎回出欠確認を行う。やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に必ずメールにて連絡すること。 	
評価	期末試験 (60%)と小テスト(40%)により評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	関連科目：「土壌学概論」、「島嶼環境論」

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	農業と経済	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-藤原 昌樹	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本講義では、農業と食料をめぐる経済的現象を解明する学問である農業経済学の基礎を学ぶことを目的とする。	メッセージ レジュメを元に講義を行いません。講義の予習・復習にレジュメを活用するようにしてください。また、講義に関連する書籍や論文等を随時紹介するので、これらの書籍や論文等にも目を通すことを推奨します。
	到達目標 農業と食料に関する（具体的な）諸問題について考察する際にバックボーンとなる農業経済学の理論の基礎を学ぶことを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	経済発展と農業（1）	講義のレジュメを事前に読むこと
	2	経済発展と農業（2）	講義のレジュメを事前に読むこと
	3	経済発展と農業（3）	講義のレジュメを事前に読むこと
	4	食料の需要と供給（1）	講義のレジュメを事前に読むこと
	5	食料の需要と供給（2）	講義のレジュメを事前に読むこと
	6	食料の需要と供給（3）	講義のレジュメを事前に読むこと
	7	農産物貿易と農業保護政策（1）	講義のレジュメを事前に読むこと
	8	農産物貿易と農業保護政策（2）	講義のレジュメを事前に読むこと
9	世界の人口と食料（1）	講義のレジュメを事前に読むこと	
10	世界の人口と食料（2）	講義のレジュメを事前に読むこと	
11	資源・環境と農業（1）	講義のレジュメを事前に読むこと	
12	資源・環境と農業（2）	講義のレジュメを事前に読むこと	
13	日本及び沖縄の農業と食料（1）	講義のレジュメを事前に読むこと	
14	日本及び沖縄の農業と食料（2）	講義のレジュメを事前に読むこと	
15	日本及び沖縄の農業と食料（3）	講義のレジュメを事前に読むこと	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 講義はレジュメを用いて行ない、特にテキストの指定はしない。但し、比較的入手しやすい参考書として、下記の5冊を推薦する。 ・荏開津典生・鈴木宣弘『農業経済学 第4版』（岩波テキストブックス）岩波書店 2015年・速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』岩波書店 2002年・時子山ひろみ・荏開津典生『フードシステムの経済学 第4版』医歯薬出版株式会社 2008年・西村和雄『ミクロ経済学』岩波書店 1996年・原洋之介『北の大地・南の列島の「農」』書籍工房早山 2007年		
	学びの手立て 講義において、農業や食料について論じている書籍や農業や食料の問題を描いている文学作品や映像作品（映画やドキュメンタリー等）等を紹介する。 講義を受講することに加えて、これらの作品に触れることで、より理解を深めることが期待できる。		
	評価 学期末に記述式の試験を行う。（期末試験100%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「ミクロ経済学」 本講義で学ぶ農業経済学の理論的な基礎となるミクロ経済学を学ぶことができる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	廃棄物論	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-玉栄 章宏	3年	電話：090-8412-1064	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、日本における廃棄物に関する歴史、現状、循環利用の現状、海外における廃棄物問題、沖縄における廃棄物の現状と廃棄物事業（静脈産業）の順に学んでいく。講義を通して日本および世界、沖縄の廃棄物の概要を理解できるようにする。	国内外、県内の廃棄物に関する新聞、テレビ、ネット情報などを大いに参考にしてください。
到達目標	産業は動脈産業（自動車、家電製品製造業など）と静脈産業（廃棄物処理業、リサイクル業など）で成り立っている。その中で沖縄の静脈産業についても学びます。学んだことを学内で発表、新聞投稿が出来ることなどを期待する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス、講師自己紹介、沖縄の一般廃棄物の概要	新聞資料に対しメールで質問下さい
	2	日本における廃棄物処理の歴史（1）	同上
	3	日本における廃棄物処理の歴史（2）	同上
	4	日本の物質フロー	同上
	5	廃棄物とは（一般廃棄物と産業廃棄物）	同上
	6	循環的な利用の現状（1）（法制度と3R政策）・DVD（資源有効利用促進法）	同上
	7	循環的な利用の現状（2）（バーゼル条約・バーゼル法、廃棄物処理法）	同上
8	循環的な利用の現状（3）（容器包装リサイクル法、家電・自動車リサイクル法）	同上	
9	循環的な利用の現状（4）（建設・食品リサイクル法、グリーン購入法）	同上	
10	廃棄物関連情報（最終処分場・不法投棄）	同上	
11	廃棄物関連情報（1）（ダイオキシン等 DVD なぜゴミを燃やしてはいけないの？19分）	同上	
12	廃棄物関連情報（2）（アスベスト等 DVD 健康被害と保障33分）	同上	
13	廃棄物関連情報（3）（越境移動、DVD 危害の輸出23分）	同上	
14	廃棄物関連情報（4）（海洋漂流廃棄物、人口の海10分orゴミ箱になった海15分）	同上	
15	沖縄における廃棄物の現状と廃棄物事業（静脈産業）	同上	
16	試験		
テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。DVDや各種配布資料など（ファイルに綴じ、毎回持参する）。		
学びの手立て	授業でわからないことがあれば、積極的に質問してください。また、授業中はスマホで検索して学びに活かすことは大いに勧めます。但し、試験中はスマホの使用は禁止です。		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験等により評価する。再試験は実施しない。 ・ 欠席日から2週間以上過ぎた欠席届は受け取らないので注意する。 ・ 以下の場合、単位は与えない・3分の1以上の欠席（欠席理由は考慮しない）。 ・ 出席で代筆が明らかとなった場合、期末試験を受けなかった場合、試験で不正をした場合。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	授業で学んだことを卒業論文に取り上げる場合や、受講後にもっと勉強したいこと等があれば、遠慮なく連絡ください。電話：090-8412-1064、e-mail:tamae-ak@amber.plala.or.jpです。

※ポリシーとの関連性 社会人として諸問題を解決するために求められる基本的な資質である「知識」「考察力」「表現力」を身につけることができます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャル・プランニングⅠ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名城 佳枝	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	金融や保険、不動産、税金など社会人として身につけるべきお金に関する知識を学び、「豊かな人生」の実現のために、現状を把握し課題を分析、金銭的問題解決ができることを目的としています。特に金融機関においては、FPの知識を活かして、お客様に総合的アドバイスができます。	金融機関において、FPの知識が必須ですが、皆さん自身の「豊かな人生」の実現のためにも有効です。ファイナンシャルプランニングを学ぶことで、個人とお金、社会とお金との関わりを考え、広い視野・選択肢を広げ、適切な判断ができることと思います。
到達目標	ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱを学習することで、FP技能士3級合格を目指します。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録	
	2	ライフプランニングの考え方	テキストの復習・練習問題を解く
	3	キャッシュフロー表の作成	テキストの復習・練習問題を解く
	4	キャッシュフロー表の作成	テキストの復習・練習問題を解く
	5	社会保険制度	テキストの復習・練習問題を解く
	6	公的年金(1)	テキストの復習・練習問題を解く
	7	公的年金(2)	テキストの復習・練習問題を解く
	8	公的年金(3)	テキストの復習・練習問題を解く
9	生命保険の基礎知識	テキストの復習・練習問題を解く	
10	生命保険と税金	テキストの復習・練習問題を解く	
11	損害保険	テキストの復習・練習問題を解く	
12	経済・金融の基礎知識	テキストの復習・練習問題を解く	
13	金融商品の特徴(1)	テキストの復習・練習問題を解く	
14	金融商品の特徴(2)	テキストの復習・練習問題を解く	
15	まとめ		
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など	ファイナンシャルバンクインスティテュート編集 『わかる！FP2級速攻テキスト』日本経済新聞出版社		
学びの手立て	新聞やテレビ、ネットなどで、金融経済に関する記事やニュースに毎日目を通しましょう。		
評価	期末テスト70%、課題の提出30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 FP3級の内容の後半部分は、ファイナンシャルプランニングⅡで学習します。後期に履修下さい。
-------	--

※ポリシーとの関連性 社会人として諸問題を解決するために求められる基本的な資質である「知識」「考察力」「表現力」を身につけることができます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャル・プランニングⅡ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	金融や保険、不動産、税金など社会人として身につけるべきお金に関する知識を学び、「豊かな人生」の実現のために、現状を把握し課題を分析、金銭的問題解決ができることを目的としています。特に金融機関においては、FPの知識を活かして、お客様に総合的アドバイスができます。	金融機関において、FPの知識が必須ですが、皆さん自身の「豊かな人生」の実現のためにも有効です。ファイナンシャルプランニングを学ぶことで、個人とお金、社会とお金との関わりを考え、広い視野・選択肢を広げ、適切な判断ができることと思います。
到達目標	ファイナンシャルプランニングⅠ・Ⅱを学習することで、FP技能士3級合格を目指します。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録	
	2	所得税の基礎(1)	テキストの復習・練習問題を解く
	3	所得税の基礎(2)	テキストの復習・練習問題を解く
	4	住民税・法人税・消費税	テキストの復習・練習問題を解く
	5	不動産の基礎	テキストの復習・練習問題を解く
	6	不動産に関する法律	テキストの復習・練習問題を解く
	7	不動産に係る税金	テキストの復習・練習問題を解く
	8	贈与税のキホン	テキストの復習・練習問題を解く
9	相続のキホン	テキストの復習・練習問題を解く	
10	遺産分割	テキストの復習・練習問題を解く	
11	相続税の仕組み	テキストの復習・練習問題を解く	
12	相続税の計算	テキストの復習・練習問題を解く	
13	キャッシュフロー表事例	テキストの復習・練習問題を解く	
14	キャッシュフロー表事例	テキストの復習・練習問題を解く	
15	まとめ	テキストの復習・練習問題を解く	
16	期末テスト	テキストの復習・練習問題を解く	
テキスト・参考文献・資料など	ファイナンシャルバンクインスティテュート編集 『うかる!FP2級速攻テキスト』日本経済新聞出版社		
学びの手立て	新聞やテレビ、ネットなどで、金融経済に関する記事やニュースに毎日目を通しましょう。		
評価	期末テスト70%、課題の提出30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 自分自身のライフプランを立ててみましょう。
-------	--------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	不動産評価論	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-玉那覇 兼雄	3年	E-mail	ktamanaha@solute.co.jp

学びの準備	ねらい 「不動産鑑定評価基準」の解説を中心に、不動産と人、そして街づくりとの関わりについて、理論と実践を学習します。	メッセージ 不動産のみならず物全般の価値がどのように決定づけられるかの理論を身につけることができます。
	到達目標 物の価値を判定する際に、市場性、費用性及び収益性の三つの観点からアプローチし、算定することが出来るように指導します。また、不動産をどのように利用することが最も効率的であるか及び社会的に有用であるかを理解出来るようにつとめます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	プロローグ 用語の定義、鑑定評価制度	不動産鑑定士とは何か事前に調べる 特になし
	2	民法、建築基準法、土地区画整理法及び農地法の基礎知識	テキスト第1章を事前に読む
	3	不動産の鑑定評価に関する基本的考察 (1)	// 第1章を事前に読む
	4	不動産の鑑定評価に関する基本的考察 (2)	// 第2章、第3章を事前に読む
	5	不動産の種別及び類型、不動産の価格を形成する要因	// 第4章を事前に読む
	6	不動産の価格に関する諸原則 (1)	// 第4章を事前に読む
	7	不動産の価格に関する諸原則 (2)	// 第5章を事前に読む
	8	鑑定評価の基本的事項	// 第6章を事前に読む
	9	地域分析及び個別分析	// 第7章第1節を事前に読む
	10	鑑定評価の方式 (1) 取引事例比較法、原価法	// 第7章第2節を事前に読む
	11	鑑定評価の方式 (2) 収益還元法	// 第8章第1節～第4節事前に読む
	12	鑑定評価の方式 (3) 賃料の評価手法	// 第8章5節～10節を事前に読む
	13	鑑定評価の手順	試験準備
	14	鑑定評価報告書	
	15	沖縄の土地問題 (試験)	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：「不動産鑑定評価基準」(2回目の講義で配布) 参考書：鑑定評価理論研究会編著「要説 不動産鑑定評価基準」(住宅新報社)		
	学びの手立て ①「履修の心構え」私語を厳に慎むこと。場合によっては退室を命じます。 ②「学びを深めるために」土地問題(基地、開発等)に関する新聞、テレビ等のメディアに注視してもらいます。		
	評価 出席を重視し、最終試験により評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 関連科目 民法、経済学、会計学 (2) 次のステージ 不動産鑑定士、宅地建物取引士等の国家試験へのチャレンジ
-------	--

※ポリシーとの関連性 各専門分野において必要となる「情報を分析する手法」について学習する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング演習	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘 もえ子	1年	nerome@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>必要な情報を的確に収集し、それを活用する能力を身につける。本講義では、情報リテラシー演習で学んだ基礎知識に続き、データ分析に必要な表計算ソフトウェアのプログラミングについて学習する。また、収集したデータの見せ方や画像処理の方法、情報提供の場としてWebページの制作やJavaScriptに関して学習する。</p>	<p>プログラミングに関して学習することがはじめての方が多いと思いますが、焦らず取り組みればできることが広がる講義だと思います。大量のデータの処理やその自動化の方法、分析の方法は今後も求められる能力です。質問や講義への取り組み含め、積極的な参加を期待します。皆さんの先輩もSAとして、講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談してください。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトの習得とビジネスデータ加工ができる。 プログラミングやマクロの機能を活用して作業の効率化ができる。 画像データ加工処理操作の習得。 情報の種類やニーズに合わせた適切な情報公開ができる。 	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	講義ガイダンス・表計算ソフトウェアの復習	表計算ソフトの復習	
	2	表計算ソフトの応用(1)：マクロの基本	マクロの記録と実行	
3	表計算ソフトの応用(2)：マクロの基本・データ管理	マクロの記録と実行・データ管理		
4	表計算ソフトの応用(3)：VBAプログラミングの基本	繰り返し処理		
5	表計算ソフトの応用(4)：VBAプログラミングの基本	デバッグ処理		
6	表計算ソフトの応用(5)：VBAプログラミングの基本	データ処理演習		
7	表計算ソフトの応用(6)：VBAプログラミングの応用	条件処理		
8	表計算ソフトの応用(7)：VBAプログラミングの応用(データ処理)	データ処理演習		
9	HTMLの基本(1)：基本ルールの学習、タイトル・文字・リンク等	Webページ制作		
10	HTMLの基本(2)：画像の貼り付け・レイアウト・表組・背景等	Webページ制作		
11	JavaScript：JavaScriptによる条件表示等	Webページ制作		
12	画像処理(1)	画像データ処理		
13	画像処理(2)	画像制作		
14	プログラミング・画像処理の復習	データ処理演習		
15	期末試験	試験の振り返り		
16	まとめ	講義全体の振り返り		
テキスト・参考文献・資料など	講義にてプリントを配布する。			
学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> 演習により講義を進めるため、毎回の課題にしっかり取り組むこと。 <p>学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報リテラシー演習で取り扱ったアプリケーションソフトの操作に慣れる。 情報関連の資料はWeb上で取得できることも多いため、インターネットによる情報収集を活用する。 			
評価	<p>平常点(講義への取組、課題の内容、課題の提出)70%</p> <p>期末試験30%</p> <p>各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。</p>			

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として、「情報処理概論」「統計情報処理I・II」があげられる。</p> <p>受講終了後においては、多くのデータを扱う場合や、繰り返しのある作業などについて効率化できないか検討したり調査してみると良いと思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング演習	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	根路銘 もえ子	1年	nerome6@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	必要な情報を的確に収集し、それを活用する能力を身につける。本講義では、情報リテラシー演習で学んだ基礎知識に続き、データ分析に必要な表計算ソフトウェアのプログラミングについて学習する。また、収集したデータの見せ方や画像処理の方法、情報提供の場としてWebページの制作やJavaScriptに関して学習する。	プログラミングに関して学習することがはじめての方が多いと思いますが、焦らず取り組みができることが広がる講義だと思います。大量のデータの処理やその自動化の方法、分析の方法は今後も求められる能力です。質問や講義への取り組み含め、積極的な参加を期待します。皆さんの先輩もSAとして、講義をサポートしますので、わからないことがあれば気軽に相談してください。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 表計算ソフトの習得とビジネスデータ加工ができる。 プログラミングやマクロの機能を活用して作業の効率化ができる。 画像データ加工処理操作の習得。 情報の種類やニーズに合わせた適切な情報公開ができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス・表計算ソフトウェアの復習	表計算ソフトの復習
2	表計算ソフトの応用(1)：マクロの基本	マクロの記録と実行	
3	表計算ソフトの応用(2)：マクロの基本・データ管理	マクロの記録と実行・データ管理	
4	表計算ソフトの応用(3)：VBAプログラミングの基本	繰り返し処理	
5	表計算ソフトの応用(4)：VBAプログラミングの基本	デバッグ処理	
6	表計算ソフトの応用(5)：VBAプログラミングの基本	データ処理演習	
7	表計算ソフトの応用(6)：VBAプログラミングの応用	条件処理	
8	表計算ソフトの応用(7)：VBAプログラミングの応用(データ処理)	データ処理演習	
9	HTMLの基本(1)：基本ルールの学習、タイトル・文字・リンク等	Webページ制作	
10	HTMLの基本(2)：画像の貼り付け・レイアウト・表組・背景等	Webページ制作	
11	JavaScript：JavaScriptによる条件表示等	Webページ制作	
12	画像処理(1)	画像データ処理	
13	画像処理(2)	画像制作	
14	プログラミング・画像処理の復習	データ処理演習	
15	期末試験	試験の振り返り	
16	まとめ	講義全体の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など	講義にてプリントを配布する。	
	学びの手立て	<p>履修の心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> 演習により講義を進めるため、毎回の課題にしっかり取り組むこと。 <p>学びを深めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報リテラシー演習で取り扱ったアプリケーションソフトの操作に慣れる。 情報関連の資料はWeb上で取得できることも多いため、インターネットによる情報収集を活用する。 	
	評価	<p>平常点(講義への取組、課題の内容、課題の提出)70%</p> <p>期末試験30%</p> <p>各講義時間において課題の提出を求める。作成された課題の達成度に応じて評価する。</p>	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目として、「情報処理概論」「統計情報処理I・II」があげられる。</p> <p>受講終了後においては、多くのデータを扱う場合や、繰り返しのある作業などについて効率化できないか検討したり調査してみると良いと思います。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記原理 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-金城 久美子	1年	授業の前後に直接教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 簿記や会計の初心者を対象に、企業になくてはならない財務諸表（貸借対照表・損益計算書）の内容を理解する為の入口として必要な技術と知識の習得をねらいとする。	メッセージ 簿記検定は、就職に有利な資格第1位（リクルートキャリア調べ）という記事があります（ http://www.kentei.ne.jp/bookkeeping/usage ）。本講義を機会に簿記の基礎知識を身に付けながら資格学習にも取り組んでみてはいかがでしょうか？実務でどのように資格が活かされるかもお伝えしたいと思います。
	到達目標 前期・後期を通して、日商簿記検定3級レベルの基本的な技術と知識を身につけ問題を解くことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（簿記の学習方法と授業計画）	シラバス、配布資料をよく読む
	2	簿記の基礎	授業内容の復習
	3	商品売買・現金	〃
	4	当座預金、当座借越	〃
	5	小口現金	〃
	6	手形	〃
	7	貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金	〃
	8	有価証券	〃
9	その他の債権債務	〃	
10	中間試験	試験範囲の復習	
11	消耗品の処理	授業内容の復習	
12	貸倒れと貸倒引当金	〃	
13	固定資産と減価償却	〃	
14	租税公課と資本金	〃	
15	費用・収益の繰延べと見越し、訂正仕訳	〃	
16	期末試験	試験範囲の復習	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：「スッキリわかるシリーズ スッキリわかる 日商簿記3級 第9版」 滝澤ななみ（著） 「スッキリとける日商簿記3級 過去+予想問題集 2018年度」 滝澤ななみ（著）		
	学びの手立て 履修の心構え： 遅刻や無断欠席をしないこと。やむを得ない事情で欠席する場合は事前に「欠席届」を提出すること。 学びを深めるために： 簿記3級合格を目標に過去問や問題集を各自で解く。		
	評価 平常点30%、中間試験35%、期末試験35%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「簿記原理Ⅱ」「環境経営」「環境会計」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記原理Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-町田 真子	1年	授業の前後に直接教室にて受け付けます。	

学びの準備	ねらい 簿記や会計の初心者を対象に、企業になくてはならない財務諸表（貸借対照表・損益計算書）の内容を理解する為の入口として必要な技術と知識の習得をねらいとする。	メッセージ 簿記原理Ⅰで学んだ個別論点を深め簿記の基礎を理解するとともに、実務経験を踏まえた内容を加えることで「生きる知識」を習得することを目標としています。「簿記って聞いたことはあるけど難しそう」というような少しでも興味がある方！一緒に簿記の楽しさを学んでみませんか？
	到達目標 前期・後期を通して、日商簿記検定3級レベルの基本的な技術と知識を身につけ問題を解くことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（簿記の学習方法と授業計画）	シラバス、配布資料をよく読む
	2	帳簿への記入1	個別取引を各種帳簿へ転記する
	3	帳簿への記入2	同上
	4	試算表1	各種帳簿を基に試算表を作成する
	5	試算表2	同上
	6	試算表3	同上
	7	伝票と仕訳日計表1	伝票の起票の仕方を学ぶ
	8	伝票と仕訳日計表2	伝票を基に仕訳を起票する
	9	中間試験	試験範囲の復習
	10	精算表と財務諸表1	決算整理の手続きを学ぶ
	11	精算表と財務諸表2	同上
	12	精算表と財務諸表3	財務諸表作成の手続きを学ぶ
	13	帳簿の締め切り1	帳簿の締め切り方を学ぶ
	14	帳簿の締め切り2	繰越試算表作成の手続きを学ぶ
15	総合問題演習	これまでの復習	
16	期末試験	試験範囲の復習	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：「スッキリわかるシリーズ スッキリわかる 日商簿記3級 第9版」 滝澤ななみ（著） 「2018年度版 スッキリとける 日商簿記3級 過去+予想問題集 2018年度」 滝澤ななみ（監修）		
	学びの手立て 履修の心構え： 遅刻や無断欠席をしないこと。やむを得ない事情で欠席する場合は事前に「欠席届」を提出すること。 学びを深めるために： 簿記3級合格を目標に講義中の演習問題を復習することと併せ、過去問や問題集を繰り返し解く。		
	評価 平常点30%、中間試験35%、期末試験35%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：「環境経営」「環境会計」
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マクロ経済学 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	2年	t. toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい マクロ経済学は国単位での経済活動について論じる経済学の基礎科目の1つです。財政学や公共経済学、金融論など様々な分野に共通する基礎理論でもあり、現実の経済を理解する上でも必要な科目になります。授業ではマクロ経済学の基礎的な考えや分析方法をできるだけ簡易に解説していきます。	メッセージ マクロ経済学を理解して、経済学に興味を持ってください。授業は公務員専門試験の範囲と内容に準じます。
	到達目標 ・マクロ経済学初級と中級レベルまで理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	マクロ経済学の考え方	授業ノートを参照
	2	経済指標の見方-GDPとGDE	授業内容を復習する
	3	経済指標の見方-物価指数	授業内容を復習する
	4	国民所得の考え方-45度線モデル	授業内容を復習する
	5	消費と貯蓄-消費関数	授業内容を復習する
	6	消費と貯蓄-貯蓄関数	授業内容を復習する
	7	投資行動と投資関数	授業内容を復習する
	8	政府支出と政府の役割	授業内容を復習する
	9	貨幣市場と貨幣需要	授業内容を復習する
	10	貨幣市場と投資	授業内容を復習する
	11	貨幣市場と証券市場	授業内容を復習する
	12	IS-LM分析の基礎	配布資料を参照
	13	IS-LM分析と財政政策	授業内容を復習する
	14	IS-LM分析と金融政策	授業内容を復習する
	15	IS-LM分析の応用	授業内容を復習する
	16	試験	試験内容を確認する
	テキスト・参考文献・資料など マンキュー『マクロ経済学 I』 辻正次, 田岡文夫, 吉本佳生『演習マクロ経済学』 伊藤元重『マクロ経済学』		
	学びの手立て ・必要なときに授業内容を振り返れるよう、授業ノートを作ることが望ましい。 ・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい。		
	評価 ・中間テストと期末テストの2回のテストを持って評価する。 ・テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・マクロ経済から経済学の基礎理論を学び、「財政学」、「公共経済学」や「金融論」の理解に役立て、経済動向についても考えて欲しい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マクロ経済学Ⅱ	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	渡久地 朝央	2年	t. toguchi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	マクロ経済学は国単位での経済活動について論じる経済学の基礎科目の1つです。財政学や公共経済学、金融論など様々な分野に共通する基礎理論でもあり、現実の経済を理解する上でも必要な科目になります。 本授業はマクロ経済学Ⅰの続きとなります。	マクロ経済学を理解して、経済学に興味を持ってください。 授業は公務員専門試験の範囲と内容に準じます。

到達目標	・マクロ経済学初級と中級レベルまで理解する。
------	------------------------

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	物価の考え方ー物価の変化	授業ノートを参照
	2	物価の考え方ー失業率	授業内容を復習する
	3	AD-ASモデルの基礎	配布資料を参照
	4	AD-ASモデルの事例	授業内容を復習する
	5	インフレと失業	授業内容を復習する
	6	フィリップス曲線の考え方	授業内容を復習する
	7	国際マクロと為替ー為替の基礎知識	授業内容を復習する
	8	国際マクロと為替ーワルラスの法則	授業内容を復習する
	9	マンデル・フレミングモデルの基礎	配布資料を参照
	10	マンデル・フレミングモデルの事例	授業内容を復習する
	11	ポリシー・ミックス	授業内容を復習する
	12	二国モデルと政策協調	授業内容を復習する
	13	マクロ・ダイナミクスーコブ・ダグラスモデル	配布資料を参照
	14	マクロ・ダイナミクスーソローモデル	授業内容を復習する
15	経済成長理論	授業内容を復習する	
16	試験	試験内容を確認する	

テキスト・参考文献・資料など	マンキュー『マクロ経済学Ⅰ』 辻正次, 田岡文夫, 吉本佳生『演習マクロ経済学』 伊藤元重『マクロ経済学』
----------------	---

学びの手立て	・必要なときに授業内容を振り返れるよう、授業ノートを作ることが望ましい。 ・授業中に紹介する本について図書館を利用することが望ましい。
--------	--

評価	・中間テストと期末テストの2回のテストを持って評価する。 ・テスト欠席者はレポート提出で評価を行う。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 授業ノートを参照
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ミクロ経済学 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-藤原 昌樹	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人々は経済活動なしには生活できない。経済活動の舞台となる市場のメカニズムを理解するためのツールがミクロ経済学である。ミクロ経済学の基礎的な理論を理解することを目的とする。	レジュメを元に講義を行いません。講義の予習・復習にレジュメを活用するようにしてください。また、講義に関連する書籍や論文等を随時紹介するので、これらの書籍や論文等にも目を通すことを推奨します。
到達目標	ミクロ経済学の基礎的な理論を理解することを目的とする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ミクロ経済学と経済生活	講義のレジュメを事前に読むこと
	2	市場とは何か？ 資源とは何か？ 資源の希少性とは？	講義のレジュメを事前に読むこと
	3	財とは何か？	講義のレジュメを事前に読むこと
	4	価格とは何か？	講義のレジュメを事前に読むこと
	5	時間と財の関係	講義のレジュメを事前に読むこと
	6	リスクと財の関係	講義のレジュメを事前に読むこと
	7	オークションとその仕組み	講義のレジュメを事前に読むこと
8	市場の失敗と市場の構築	講義のレジュメを事前に読むこと	
9	需要の価格弾力性	講義のレジュメを事前に読むこと	
10	消費者余剰	講義のレジュメを事前に読むこと	
11	複数財の選択と無差別曲線	講義のレジュメを事前に読むこと	
12	消費者の最適選択	講義のレジュメを事前に読むこと	
13	所得の変化と需要の変化	講義のレジュメを事前に読むこと	
14	代替効果と所得効果	講義のレジュメを事前に読むこと	
15	貯蓄の決定	講義のレジュメを事前に読むこと	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	講義はレジュメを使用して行うので、特にテキストは指定しない。ミクロ経済学のテキストは多数存在するので、講義内にてテキストを推薦する。		
学びの手立て	講義で配布するレジュメを予習・復習に活用すること。		
評価	学期末に記述式の試験を行う。(期末試験100%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ミクロ経済学 I では消費理論を中心に解説し、ミクロ経済学 II では供給理論を中心に取り上げる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ミクロ経済学Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-藤原 昌樹	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 人々は経済活動なしには生活できない。経済活動の舞台となる市場のメカニズムを理解するためのツールがミクロ経済学である。ミクロ経済学の基礎的な理論を理解することも目的とする。	メッセージ レジュメを元に講義を行いません。講義の予習・復習にレジュメを活用するようにしてください。また、講義に関連する書籍や論文等を随時紹介するので、これらの書籍や論文等にも目を通すことを推奨します。
	到達目標 ミクロ経済学の基礎的な理論を理解することを目的とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	企業の行動と供給曲線	講義のレジュメを事前に読むこと
	2	供給の価格弾力性	講義のレジュメを事前に読むこと
	3	企業の販売意欲	講義のレジュメを事前に読むこと
	4	生産者余剰	講義のレジュメを事前に読むこと
	5	生産とは何か？	講義のレジュメを事前に読むこと
	6	費用最小化	講義のレジュメを事前に読むこと
	7	短期と長期	講義のレジュメを事前に読むこと
	8	限界費用と限界費用曲線	講義のレジュメを事前に読むこと
	9	平均費用と平均費用曲線	講義のレジュメを事前に読むこと
	10	短期供給曲線	講義のレジュメを事前に読むこと
	11	長期供給曲線	講義のレジュメを事前に読むこと
	12	市場均衡とその望ましさ	講義のレジュメを事前に読むこと
	13	市場の失敗	講義のレジュメを事前に読むこと
	14	外部効果の問題点	講義のレジュメを事前に読むこと
	15	外部効果の解決方法	講義のレジュメを事前に読むこと
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 講義はレジュメを使用して行うので、特にテキストは指定しない。ミクロ経済学のテキストは多数存在するので、講義内にてテキストを推薦する。		
	学びの手立て 講義で配布するレジュメを予習・復習に活用すること。		
	評価 学期末に記述式の試験を行う。(期末試験100%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ミクロ経済学Ⅰでは消費理論を中心に解説し、ミクロ経済学Ⅱでは供給理論を中心に取り上げる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球・沖縄経済史 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	琉球王国時代の経済から薩摩の琉球入り、琉球処分による琉球王国の廃止と明治政府下の沖縄経済に関する分析を行います。基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。	琉球王国時代の経済の特徴、薩摩支配による経済の変化、琉球処分後の経済振興策、米軍統治下の基地経済、復帰後の沖縄振興策を検証することで、沖縄経済の課題と展望を概観します。

到達目標
1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。
2：基本データの分析・解析手法を習得します。
3：課題の抽出方法を習得します。
4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。
5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球経済史の概要（ガイダンス）	琉球史のまとめ
	2	琉球王国経済の特徴（後進性、零細性、従属性）	琉球王国の特徴
	3	近世沖縄の経済構造	琉球王国経済のしくみを学ぶ
	4	首里王府の財政構造	首里王府の税収、公共事業は？
	5	「薩摩の琉球入り」と王府経済の変貌	大交易時代の貿易規模は？
	6	「大交易時代」と琉球経済	琉球処分は何をもたらしたか？
	7	「琉球処分」と明治期の沖縄経済	明治政府の中の「沖縄」の位置づけ
	8	明治政府の沖縄経済政策	明治政府の沖縄「振興策」とは？
	9	旧慣制度下の農村経済の構造	旧慣温存策はなぜ必要だったのか？
	10	商品経済の進展と「資本主義」生産様式の形成	資本主義とは？
	11	沖縄経済の近代化	経済の「近代化」とは何か。
	12	農林水産業の近代化	農林水産業の「近代化」とは？
	13	第一次世界大戦と沖縄経済	戦争経済は沖縄に何を与えたか？
	14	昭和恐慌と「ソテツ地獄」	ソテツ地獄とは？
15	沖縄振興計画と戦時統制経済	戦時統制経済下の沖縄の特徴は？	
16	琉球経済史のまとめ	温故知新。琉球に学ぶ沖縄の未来像	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 百瀬・前泊著『検証「沖縄問題」－復帰後30年経済の課題と展望』（東洋経済新報社）2002年ほか
-------	---

学びの手立て	琉球・沖縄史を整理し、琉球王国時代を経済の視点から再検証する。唐の世から大和の世、大和の世からアメリカ世、アメリカ世から再び大和の世へと変化する琉球・沖縄の歴史の変遷を経済史として再整理する。
--------	--

評価	変化する時代を経済の視点から読み解き、課題と展望をまとめる。リアクションpaperと温故知新の実践をもとに書かれたReportで評価。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 琉球経済史と沖縄経済史を通年で受講するのが望ましい。大学院地域産業研究科「沖縄経済特論」「沖縄経済特殊研究ⅠⅡ」への進学も期待したい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	琉球・沖縄経済史Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	前泊 博盛	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄経済に関する基本データの収集、分析、解析を行います。沖縄県が発行する『経済情勢（平成29年度版）』など基本情報を入手し、沖縄県経済が抱えている諸課題について事前に整理しておく、講義・学習の理解が一層深まります。</p>	<p>琉球王国時代の経済の特徴、薩摩支配による経済の変化、琉球処分後の経済振興策、米軍統治下の基地経済、復帰後の沖縄振興策を検証することで、沖縄経済の課題と展望を概観します。</p>
到達目標	<p>1：経済を学ぶ上で必要な基本データの入手方法を習得します。 2：基本データの分析・解析手法を習得します。 3：課題の抽出方法を習得します。 4：課題解決法を調査・研究する力を習得します。 5：調査・分析した結果を論文としてまとめる力を身に着けます。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球・沖縄経済史Ⅱの概要（ガイダンス）	戦後沖縄経済史の整理
2	「琉球」から「沖縄」へ（政治制度の変化と沖縄経済）	琉球王国から沖縄県への変化	
3	沖縄戦と沖縄経済（戦争が破壊した経済の検証）	戦争は何を破壊し、奪ったか。	
4	米軍基地建設と地域経済	基地経済の生成過程	
5	米軍統治下の沖縄経済	米軍統治下の統制経済とは。	
6	戦後の「沖縄振興計画」の検証	米国は「沖縄」に何を求めたか。	
7	講和条約と基地依存経済（「土地収用令」と「島ぐるみ闘争」）	土地の収奪と産業構造の変化	
8	米軍統治下の「通貨政策」（B円からドル経済へ）	通貨政策は経済をどう変えたか。	
9	施政権の日本移管（「日本復帰」）と沖縄経済	米軍統治と日本統治の違いは？	
10	日本政府による沖縄「復帰プログラム」の検証	「復帰」は経済をどう変えたか。	
11	「沖縄振興開発計画」と沖縄経済（復帰後30年の課題と展望）	開発庁方式の検証	
12	「沖縄振興計画」と沖縄経済（第四次振興計画の狙いと展望）	開発なき振興とは？	
13	「21世紀ビジョン」と沖縄経済（自律経済の行方）	21世紀ビジョンは何を目指すか。	
14	アジア経済戦略構想の経済効果	アジアの中の沖縄経済の役割は？	
15	政府の沖縄振興策の検証	3K依存経済から新10K経済へ	
16	戦後沖縄経済史の総括	沖縄経済史のまとめ	
テキスト・参考文献・資料など	百瀬・前泊著『検証「沖縄問題」－復帰後30年経済の課題と展望』（東洋経済新報社）2002年ほか		
学びの手立て	琉球・沖縄史を整理し、琉球王国時代を経済の視点から再検証する。唐の世から大和の世、大和の世からアメリカ世、アメリカ世から再び大和の世へと変化する琉球・沖縄の歴史の変遷を経済史として再整理する。		
評価	変化する時代を経済の視点から読み解き、課題と展望をまとめる。リアクションpaperと温故知新の実践をもとに書かれたReportで評価。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 琉球経済史と沖縄経済史を通年で受講するのが望ましい。大学院地域産業研究科「沖縄経済特論」「沖縄経済特殊研究ⅠⅡ」への進学も期待したい。
-------	--